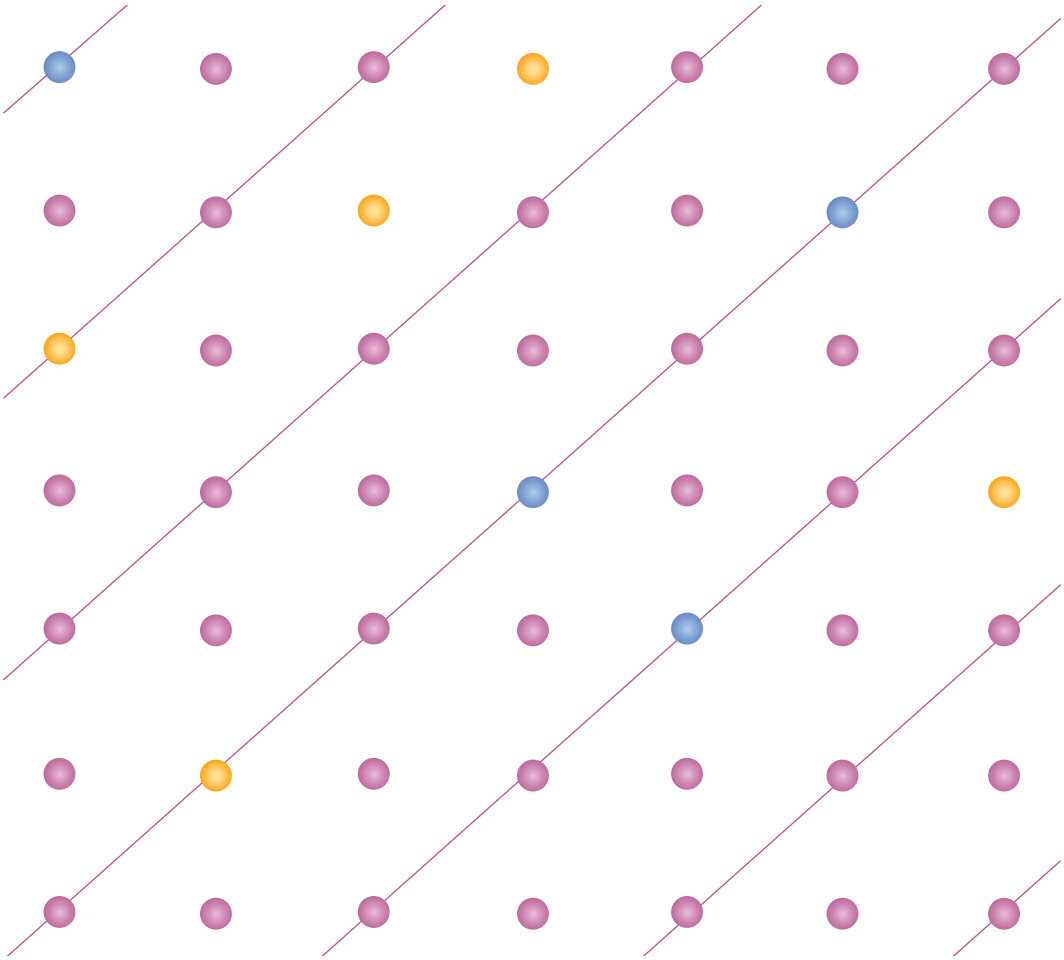
シラバス

2023年度

看 護 学 科

2022年度以前入学生



平成医療短期大学

Heisei College of Health Sciences

建学の精神

「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

教育目的

1　全学

本学は、教育基本法の精神に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上に実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを目的とする。

2　看護学科

看護学科は、深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る知識・技術及び実践力をもつ看護師の養成を目的とする。

3　リハビリテーション学科

リハビリテーション学科理学療法専攻、作業療法専攻及び視機能療法専攻は、深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る知識・技術及び実践力をもつ理学療法士、作業療法士及び視能訓練士の養成を目的とする。

教育目標

1　看護学科

①科学的根拠に裏づけされた看護領域の専門知識、技術及び実践力を有する看護師
②高度化、多様化する医療環境の変化等に主体的に対応できる実践力を有する看護師
③生命の尊重と人間に対する全人的な深い理解に基づく対象者への看護の実践及び多種職と連携・協働しながら看護を提供できる良好な人間関係を築く能力と態度を有する看護師
④生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志をもつ看護師

2　リハビリテーション学科理学療法専攻

①医学の基礎知識、理学療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する理学療法士
②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する理学療法士
③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する理学療法士

3　リハビリテーション学科作業療法専攻

①医学の基礎知識、作業療法領域の専門知識、技術及び実践力を有する作業療法士
②対象者や保健・医療・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を醸成できるコミュニケーション能力と態度を有する作業療法士
③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する作業療法士

4　リハビリテーション学科視機能療法専攻

①科学的根拠に裏づけされた視機能療法領域の専門知識・技術及び実践力を有する視能訓練士
②対象者や医療・保健・福祉領域に関わる従事者との信頼関係を築くために必要なコミュニケーション能力と態度を有する視能訓練士
③生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意志を有する視能訓練士

学習成果

1　全学

教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得

2　看護学科

(1) 看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得
(2) 看護の専門基礎知識の修得
(3) 看護の専門知識・技術の修得
(4) 看護の対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に対象者に応じた看護を行う実践力の修得
(5) 看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

3　リハビリテーション学科理学療法専攻

(1) 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得
(2) 医学の基礎的知識、理学療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得
(3) 地域の保健・医療システムにおいて理学療法士の役割をはたす能力の修得
(4) 対象者にとって最良かつ安全な理学療法を実践できる能力の修得
(5) 課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

4　リハビリテーション学科作業療法専攻

(1) 豊かな教養と人間愛に基づき、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得
(2) 医学の基礎的知識、作業療法領域の専門知識・技術及び実践力の修得
(3) 地域の保健・医療システムにおいて作業療法士の役割をはたす能力の修得
(4) 対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力の修得
(5) 課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

5　リハビリテーション学科視機能療法専攻

(1) 視能訓練士として全人的医療を実践し、社会に貢献するために必要な人間性と教養、責任感と倫理観、対象者と信頼関係を構築できるコミュニケーション能力の修得
(2) 視機能療法学の土台となる人間科学領域の知識と技術の修得
(3) 視機能療法学の各分野における基礎的・理論的な知識と技術の修得
(4) 視機能療法学の各分野における発展的な知識と技術、実践力の修得
(5) チーム医療における視能訓練士の役割の理解と実践力の修得
(6) 視機能療法に関わる課題解決のための論理的な思考力と柔軟な発想力及び向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1　全学方針

科学と人間愛を教育の根本として、一般教養の上に専門分野の実践的な学問及び技術を修得し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを教育目的として、次の能力を身につけるよう教育課程を編成する。この教育課程における所定の単位を修得した学生に対して、卒業を認定し学位を授与する。

(1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。
(2) 学習を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉等に貢献できる力を身につける。
(3) 学科・専攻課程の教育目的に基づく学習を通して、人間、保健医療福祉問題等を科学的、論理的に思考し、柔軟な発想による課題発見、 解決のための知識、技術等を身につける。

2　看護学科

看護学科の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

(1) 豊かな人間性と教養を身につけ、看護師としての責任感や倫理観など、医療人として求められる能力と態度を身につけている。
(2) 看護師として必要な基礎的知識・技術・態度を身につけ、対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践できる。
(3) 看護の対象者及び医療チーム間における円滑なコミュニケーション能力を身につけ、互いを尊重した人間関係を構築できる。
(4) 生涯にわたり向上心と探究心をもち続け、看護専門職として主体的に研鑽できる。

3　リハビリテーション学科理学療法専攻

リハビリテーション学科理学療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

(1) 広い視野と豊かな教養を身につけ、理学療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。
(2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた理学療法を実践するために必要な知識並びに技術を身につけている。
(3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける理学療法士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。
(4) 学術研究活動を通じて理学療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、理学療法の質の向上のため、生涯にわたり主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる。

4　リハビリテーション学科作業療法専攻

リハビリテーション学科作業療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

(1) 広い視野と豊かな教養を身につけ、作業療法士としての社会的責任感や倫理観を身につけている。
(2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた作業療法を実践するために必要な知識並びに技術を身につけている。
(3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。また、地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。

(4) 学術研究活動を通じて作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、作業療法の質の向上のため、生涯にわたり主体的かつ能動的に知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる。

5 リハビリテーション学科視機能療法専攻

リハビリテーション学科視機能療法専攻の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、卒業に必要な単位を修め、次の能力等を備えた学生に卒業を認定し、学位を授与する。

(1) 視能訓練士として求められる社会的責任感、良好な人間関係を築くコミュニケーション能力、倫理観などの教養を身につけている。
(2) 身体の構造及び心身の機能を理解した上で、科学的根拠に基づいた視機能療法を実践するために必要な専門知識並びに技術を身につけている。
(3) 対象者と円滑なコミュニケーションを図ることができ、相手の立場を尊重した人間関係を構築することができる。
(4) 地域の保健・医療システムにおける視能訓練士としての役割を理解し、多職種と連携・協働して諸問題に対処することができる。
(5) 視機能療法に関わる課題を解決するための科学的思考を身につけ、視機能療法の質の向上のため、生涯にわたり探求心をもち続け、学術研究活動を推進し、主体的・能動的に研鑽できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1 全学方針

人間愛と社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を修得し、医療技術者としての専門知識、実践力及び課題解決能力を身につける。

(1) 社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。
(2) 専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体、疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。

2 看護学科

(1) 豊かな人間性と教養及びコミュニケーション能力を身につけ対象者を全人的に深く理解するため、人間と科学・人間と社会・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
(2) 看護の専門基礎知識を修得するため、人体の理解・疾病の成り立ちと回復の促進・社会の構造と環境の専門基礎科目を配置する。
(3) 看護の領域ごとに、健康生活を支えるための看護の原理と基礎・健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動の専門科目を配置し、専門知識・技術実践力を段階的に高めるように配置する。
(4) 看護の領域ごとに、看護職としての科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を段階的に配置する。
(5) 看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、それを生涯に渡り高める態度とチーム医療・多職種連携における看護の役割を果たすために統合科目を配置する。

3 リハビリテーション学科理学療法専攻

(1) 地域社会に貢献するために理学療法士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。

(2) 身体の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上で運動や物理的手段を用いて疾病や障害の予防、そして疾病に伴う障害から生じる身体機能及び基本動作能力の回復・改善を促す理学療法の専門知識と技術を身につけるため、理学療法専門科目を配置する。
(3) 地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける理学療法士の役割、生活環境面に対する具体的支援方法について理解するとともに、障害の有無や年代にかかわらず、全ての人々が住み慣れた地域で生活できるように支援するための能力を身につけるため、専門基礎科目と理学療法専門科目を配置する。
(4) 臨床実習指導者の監督、指導の下、専門基礎科目や専門科目で学んだ専門知識と技術を統合し、対象者にとって最良かつ安全な理学療法を実践できる能力を身につけるため、理学療法専門科目（臨床実習）を配置する。
(5) 科学者としての目と心を育み、理学療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、専門基礎科目と理学療法専門科目を配置する。

4　リハビリテーション学科作業療法専攻

(1) 地域社会に貢献するために作業療法士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
(2) 身体の構造及び心身の機能を理解するための専門基礎科目を配置し、その上でひとが営んでいる作業活動を用いて疾病や障害を予防すること、そして疾病に伴う障害から生じる日常生活動作ならびに社会適応能力の回復・改善を促すための科学的根拠に基づいた作業療法の知識と技術を身につけるため、作業療法専門科目を配置する。
(3) 地域の保健・医療システム、特に地域包括ケアにおける作業療法士の役割、生活環境面に対する具体的支援方法について理解するとともに、障害の有無や年代にかかわらず、全ての人々が住み慣れた地域で生活できるように支援するための能力を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。
(4) 臨床実習指導者の監督、指導の下、専門基礎科目や専門科目で学んだ専門知識と技術を統合し、対象者にとって最良かつ安全な作業療法を実践できる能力を身につけるため、作業療法専門科目（臨床実習）を配置する。
(5) 科学者としての目と心を育み、作業療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、専門基礎科目と作業療法専門科目を配置する。

5　リハビリテーション学科視機能療法専攻

(1) 地域社会に貢献するために視能訓練士として必要な教養と人間性、責任感や倫理観、コミュニケーション能力を身につけるため、人間と科学・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。
(2) 視機能療法学の基盤である人間科学を修得させる科目として、人体の構造と機能及び心身の発達、疾病の成り立ち及び回復過程の促進、視覚機能の基礎と検査機器及び保健医療福祉と視機能障害のリハビリテーションの理念に関する専門基礎科目を配置する。
(3) 視機能療法学の確かな専門知識・技術を修得させる科目として、基礎的視機能療法学の科目を配置する。
(4) 視機能療法学の確かな専門知識・技術を臨床現場において適切に実践し得る能力を身につけるために、視機能療法学領域の各系統における発展的科目と分野横断的科目を配置する。
(5) 対象者に応じた視機能療法の実践及びチーム医療の在り方を了知させるために、臨床実習を配置する。
(6) 視機能療法に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力、それを生涯に渡り高める態度を身につけるため、医療情報と実験研究に関する科目を配置する。

履 修 要 領

看護学科

２０２２年度以前入学生

履 修 要 領

1．教育課程の編成の基本的方針

本学は、知識、技能両面において教養ある医療技術者を育成すると共に、多様化する社会に順応できるよう、人間、社会、文化、語学といった観点における学問を学び、また、医療に携わるものとして不可欠なコミュニケーション能力や、社会人としての基盤構築のための科目を編成しています。

さらに、各専門分野の科目についても学術的に編成した上で細分化し、それぞれが体系的な学問として学ぶことができる配置となっています。

これにより、一人の社会人として、そして医療に携わるものとしての資質と技術を磨き、専門性に富んだ医療に適応できる医療技術者の育成を目指しています。

本学の教育課程は「総合教育科目」と「専門教育科目」に大別し、「総合教育科目」は「教養教育科目」と「基礎教育科目」に、「専門教育科目」は「専門基礎科目」「専門科目」「統合科目」に区分して、科目群による教育が有機的かつ系統的にすすむように編成しています。

2．「総合教育科目」の考え方

「総合教育科目」は、大半の科目について両学科学生が合同で受講できるよう科目立てして、配慮しています。職種は違うが同じ医療人との観点から捉えた場合、両職種に共通した知識として蓄えたい分野があることから、それらに関する科目を配置しています。

まず「教養教育科目」には、現代社会を取り巻く様々な要素について考察する力を養うために、また看護師、理学療法士、作業療法士、視能訓練士として、保健、医療、福祉の分野で貢献するための基礎となる科目を配置しています。医療技術者として活躍するためには、社会の多様な事象や考え方に対して理解を深め、受け止めつつ自らの考えを確立し、なおかつ相手の立場に立って考えることが出来る感性と、洞察力が求められます。よってこれらに関する科目を配置し、人間を科学と社会に関連付けながら学べるように編成しています。

次に、「基礎教育科目」には、「専門教育科目」を学び、理解を深めるための基盤となる社会の仕組みを理解することや、思考力の形成、コミュニケーション能力の育成に主眼を置いた科目群を配置しています。

3．「専門教育科目」の考え方

「専門教育科目」は、両学科がそれぞれ独自性をもった科目群で構成しています。

看護学科に配置した「専門基礎科目」には、看護の専門領域を学ぶ前段階として基礎医学に関する科目群を配置し、看護学の専門性を高める基盤となるよう配慮しています。また、看護を取り巻く社会の構造と環境についても、系統的に科目立てをしています。

「専門科目」には、看護の各領域に関する学問を系統立てて配置し、それぞれの領域が融合しながら看護学を学び、人間、健康、環境の面から看護を考え、看護の実践ができるよう考慮しています。

「統合科目」は、各領域を統合させた看護の提供ができる能力を養うために、「看護学の発展」的な位置付けとして科目立てしています。

本学の教育課程及び授業科目は、次表のとおりです。

＜看護学科＞ 2022年度入学生

区分			授業科目	単位数 必修	単位数 選択	卒業要件
総合教育科目	教養教育科目	人間と科学	生物学	1		3
			看護と情報	2		
			物理学		2	2
			化学		2	
			人間工学		2	
			環境と人間		2	
		人間と社会	社会学		2	2
			人間関係論		2	
			ボランティア論		2	
			哲学		2	
			教育学		2	
			心理学		2	
			生命倫理学	2		2
	基礎教育科目	コミュニケーション	基礎演習Ⅰ	1		4
			基礎演習Ⅱ	1		
			文章表現法	1		
			コミュニケーション学	1		
		外国語	英語Ⅰ(教養英語)	1		1
			英語Ⅱ(日常英会話)		1	1
			英語Ⅲ(専門英語)		1	
			ドイツ語		1	
			中国語		1	
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能	解剖生理学Ⅰ	2		7
			解剖生理学Ⅱ	2		
			生活者の解剖生理	1		
			生化学	1		
			栄養学	1		
		疾病の成り立ちと回復の促進	疾病論Ⅰ	1		9
			疾病論Ⅱ	1		
			疾病論Ⅲ	1		
			微生物学	1		
			公衆衛生学	1		
			薬理学	1		
			病態心理学	1		
			リハビリテーション概論	1		
			カウンセリング論	1		
		健康支援と社会保障制度	保健統計学	1		6
			看護と法律	1		
			共生社会と福祉	1		
			医療と経済	1		
			社会福祉学	2		
	専門科目	健康生活を支えるための看護の原理と基礎	看護学概論	1		15
			基礎看護技術Ⅰ	2		
			基礎看護技術Ⅱ	2		
			基礎看護技術Ⅲ	2		
			基礎看護技術Ⅳ	2		
			フィジカルアセスメントⅠ	1		
			フィジカルアセスメントⅡ	1		
			基礎看護学実習Ⅰ	1		
			基礎看護学実習Ⅱ	3		
		健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動	地域・在宅看護概論	1		44
			地域・在宅看護活動論Ⅰ	2		
			地域・在宅看護活動論Ⅱ	1		
			地域・在宅看護活動論Ⅲ	2		
			地域・環境実習Ⅰ	2		
			地域・環境実習Ⅱ	2		
			地域・在宅看護論実習	2		
			成人看護学概論	1		
			成人看護活動論Ⅰ	1		
			成人看護活動論Ⅱ	2		
			成人看護活動論Ⅲ	2		
			成人看護学実習	1		
			高齢者看護学概論	1		
			高齢者看護活動論Ⅰ	2		
			高齢者看護活動論Ⅱ	1		
			成人・高齢者看護学実習	3		
			小児看護学概論	1		
			小児看護活動論Ⅰ	2		
			小児看護活動論Ⅱ	1		
			小児看護学実習	2		
			母性看護学概論	1		
			母性看護活動論Ⅰ	2		
			母性看護活動論Ⅱ	1		
			母性看護学実習	2		
			精神看護学概論	1		
			精神看護活動論Ⅰ	2		
			精神看護活動論Ⅱ	1		
			精神看護学実習	2		
		看護の統合と実践	課題研究	1		9
			看護学セミナー	1		
			安全管理論	1		
			災害・国際看護論	1		
			総合判断育成演習	2		
			看護の統合実習	3		
合計						105

＜看護学科＞ 2021年度以前入学生

区分			授業科目	単位数 必修	単位数 選択	卒業要件
総合教育科目	教養教育科目	人間と科学	生物学	2		2
			物理学		2	2
			化学		2	
			情報科学		2	
			人間工学		2	
			環境と人間		2	
		人間と社会	社会学		2	2
			人間関係論		2	
			ボランティア論		2	
			哲学		2	
			教育学		2	
			心理学		2	
			生命倫理学	2		2
	基礎教育科目	コミュニケーション	基礎演習	1		3
			文章表現法	1		
			コミュニケーション学	1		
		外国語	英語Ⅰ（教養英語）	1		1
			英語Ⅱ（日常英会話）		1	1
			英語Ⅲ（専門英語）		1	
			ドイツ語		1	
			中国語		1	
専門教育科目	専門基礎科目	人体の理解	解剖学Ⅰ（解剖学総論・骨格・筋系等）	2		6
			解剖学Ⅱ（循環・神経・内分泌・消化器等）	2		
			生化学	1		
			栄養学	1		
		疾病の成り立ちと回復の促進	疾病論Ⅰ（神経・病理組織）	1		9
			疾病論Ⅱ（呼吸と循環、代謝と栄養）	1		
			疾病論Ⅲ（神経と運動、生殖、排泄と感覚）	1		
			微生物学	1		
			公衆衛生学	1		
			薬理学	1		
			病態心理学	1		
			リハビリテーション概論	1		
			カウンセリング論	1		
		社会の構造と環境	保健行政論	1		6
			保健統計学	1		
			看護と法律	1		
			障害者と福祉	1		
			医療と経済	1		
			社会福祉学	1		
	専門科目	健康生活を支えるための看護の原理と基礎	看護学概論	1		13
			基礎看護技術Ⅰ（共通・清潔）	2		
			基礎看護技術Ⅱ（共通・食事・排泄）	2		
			基礎看護技術Ⅲ（診察・処置）	2		
			基礎看護技術Ⅳ（基礎看護学実習Ⅱ事前演習）	1		
			フィジカルアセスメント	2		
			基礎看護学実習Ⅰ（基礎）	1		
			基礎看護学実習Ⅱ（発展）	2		
		健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動	成人看護学概論	1		40
			成人看護活動論Ⅰ（基礎）	3		
			成人看護活動論Ⅱ（発展）	2		
			成人看護学実習Ⅰ（慢性、回復期）	3		
			成人看護学実習Ⅱ（手術、急性、終末期）	3		
			高齢者看護学概論	1		
			高齢者看護活動論Ⅰ（基礎）	2		
			高齢者看護活動論Ⅱ（発展）	1		
			高齢者看護学実習Ⅰ（基礎）	2		
			高齢者看護学実習Ⅱ（発展）	2		
			小児看護学概論	1		
			小児看護活動論Ⅰ（基礎）	2		
			小児看護活動論Ⅱ（発展）	1		
			小児看護学実習	2		
			母性看護学概論	1		
			母性看護活動論Ⅰ（基礎）	2		
			母性看護活動論Ⅱ（発展）	1		
			母性看護学実習	2		
			精神看護学概論	1		
			精神看護活動論Ⅰ（基礎）	2		
			精神看護活動論Ⅱ（発展）	1		
			精神看護学実習	2		
			課題研究事前演習	1		
			課題研究	1		
	統合科目	看護の統合と実践	在宅看護概論	1		12
			在宅看護活動論Ⅰ（基礎）	2		
			在宅看護活動論Ⅱ（発展）	1		
			在宅看護論実習	2		
			安全管理論	1		
			災害管理論	1		
			総合判断育成演習	2		
			看護の統合実習	2		
合計						99

４．履修方法等

１） 学期

学年は、４月１日から３月３１日までで、その学年は、次の学期に分かれています。

前学期　　４月１日から９月３０日まで

後学期　　１０月１日から３月３１日まで

２） 授業

① 授業時間割

授業時間割表は、毎月初旬に翌月分を Classroom で配信します。

なお、授業時間割表の変更、休講、補講等がある場合は、その都度 Classroom で配信しますので始業前等には必ず確認してください。

② 授業時間

１時限	２時限	３時限	４時限	５時限
9:00～10:30	10:45～12:15	13:15～14:45	15:00～16:30	16:45～18:15

③ 集中授業

集中授業は、原則として夏季休業中及び冬季休業中に行われます。具体的な開講日・時限等は、授業時間割表にて確認してください。

④ 休講

大学又は担当教員のやむを得ない理由により、休講することがあります。休講の場合は、その都度 Classroom で連絡します。また、休講の連絡がなく、始業時刻から 15 分を経過しても担当教員が教室に来ない場合は、事務室に連絡し指示を受けてください。

⑤ 補講

休講した授業科目は、補講を行うことがあります。補講は Classroom で連絡しますので、履修者は通常の授業と同様に受講してください。

３） 履修方法

学則、教育課程表及び授業時間割表の定めるところに従い、各自が履修計画を検討し計画的に各科目を履修しなければなりません。

＜履修上の注意事項＞

ア．必修科目、選択必修科目を含めて、卒業に必要な単位数以上を履修登録、修得してください。

イ．同一時限に複数の授業科目を履修することはできません。

ウ．既に単位を修得した授業科目は、再び履修することはできません。

４） 履修登録

学生は、各年度の各学期に履修する選択科目について、本学の定める期日までに履修登録届を提出し、承認を得なければなりません。必修科目については、自動的に履修登録されますので、履修登録届は不要です。

履修登録がされていないと、授業に出席しても試験の受験資格が得られませんから、十分に注意してください。

学生は、履修登録をして承認を得た後においては、任意に履修科目を変更し、又は届け出た科目の履修を放棄することはできません。

＜履修登録の上限単位数（CAP 制）＞

CAP 制とは、授業科目の単位修得に必要な学修時間を確保する観点から、各学年において履修登録できる単位数の上限を定めた制度です。

本学では、全学科・全専攻において 1 年間に履修登録できる単位数の上限を 55 単位としています。

5） 授業の出・欠席の取り扱い

① 原則として、授業開始前に出・欠席の確認を行います。

② 出欠席の取り扱いは次の各号によります。

ア. 出席は、本学の定めた出席すべき日時に本学授業に出席した場合をいいます。

イ. 欠席は、本学の定めた出席すべき日時に本学授業に出席しなかった場合をいいます。

ウ. 欠課は、本学授業に出席した日のうちで、各授業時間において遅刻並びに早退に該当する範囲を超えた場合をいいます。

エ. 遅刻は、授業開始時刻、本学行事の日にあっては定められた登校時刻又は集合時刻の 20 分以内の遅れをいいます。

オ. 早退は、授業終了前、本学行事の日にあっては定められた解散時刻前の 20 分以内に退出した場合をいいます。

カ. 同一科目において遅刻、早退２回をもって１時限の欠課となります。

③ 公認の取り扱いは、次の各号によりますが、公認願を事務室へ提出し学長が認めた場合に限ります。

ア. 授業中の負傷・病気に伴う治療の場合

イ. 忌引きによる場合

父母	兄弟姉妹	祖父母	伯叔父母
7 日	5 日	3 日	2 日

ただし、遠隔地に赴く場合は、必要最低限の日数を認めることができる。

ウ. 伝染病発生並びに罹患による登校停止の場合。

エ. 本人の責めによらない不可抗力の場合

オ. その他学長が特に必要と認める場合

※ 公欠は本学が欠席事由を認めたものではあるが、授業の出席とみなすものではありません。
なお、公欠として認められたものは、授業開講数には含みません。

④ 公認願は事前に提出するものとし、やむを得ず事後に提出する場合は、遅くとも３日（土・日・祝含まず）以内に提出しなければなりません。

５．選択科目の履修人数について

選択科目のうち、次に掲げる科目については、授業方法の形態及び教室の座席数の関係上、履修人数の制限を設けます。履修希望者が制限人数を超えた場合は、学内での抽選により履修者を決定します。

その他の選択科目についても教室の座席数等の事情により、人数調整の上履修者を決定します。

科目名	制限の人数
情報科学	４０名
英語Ⅱ（日常英会話）A	４０名
英語Ⅱ（日常英会話）B	６０名
英語Ⅱ（日常英会話）C	４０名
英語Ⅲ（専門英語）	６０名
ドイツ語	４０名
中国語	４０名

６．臨地・臨床実習科目の履修に関する条件

実習科目を履修するためには、次表のとおり履修前提条件を満たしている必要があります。

履修前提条件を満たしていない人は、履修できませんので注意してください。

＜看護学科実習科目の履修前提条件＞　2022年度入学生に適用

区分			授業科目	時期	履修条件	
					単位修得済み科目	当年度履修登録済み科目
専門教育科目	専門科目	健康生活を支えるための看護の原理と基礎	基礎看護学実習Ⅰ	1前		看護学概論 基礎看護技術Ⅰ
			基礎看護学実習Ⅱ	2前	1年次の[専門基礎]全科目 看護学概論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ フィジカルアセスメントⅠ 基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護技術Ⅲ 基礎看護技術Ⅳ フィジカルアセスメントⅡ
		健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動	地域・環境実習Ⅰ	1後	1年前学期の[専門基礎]全科目 看護学概論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護技術Ⅱ フィジカルアセスメントⅠ 地域・在宅看護概論 高齢者看護学概論
			地域・環境実習Ⅱ	2後	1年次の[専門基礎]全科目 看護学概論 地域・在宅看護概論 高齢者看護学概論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ フィジカルアセスメントⅠ 基礎看護学実習Ⅰ 地域・環境実習Ⅰ	基礎看護技術Ⅲ 基礎看護技術Ⅳ フィジカルアセスメントⅡ 地域・在宅看護活動論Ⅰ
			地域・在宅看護論実習	3前	【看護の原理と基礎】全科目 地域・在宅看護概論 地域・在宅看護活動論Ⅰ 地域・在宅看護活動論Ⅱ	地域・在宅看護活動論Ⅲ
			成人看護学実習	3前	【専門基礎科目】【看護の原理と基礎】全科目 成人看護学概論 成人看護活動論Ⅰ 成人看護活動論Ⅱ 成人看護活動論Ⅲ	
			成人・高齢者看護学実習	2後	【看護の原理と基礎】全科目 成人看護学概論 成人看護活動論Ⅰ 成人看護活動論Ⅱ 高齢者看護学概論 高齢者看護活動論Ⅰ	成人看護活動論Ⅲ 高齢者看護活動論Ⅱ
			小児看護学実習	2後	【看護の原理と基礎】全科目 小児看護学概論 小児看護活動論Ⅰ	小児看護活動論Ⅱ
			母性看護学実習	2後	【看護の原理と基礎】全科目 母性看護学概論 母性看護活動論Ⅰ	母性看護活動論Ⅱ
			精神看護学実習	3前	【看護の原理と基礎】全科目 精神看護学概論 精神看護活動論Ⅰ	精神看護活動論Ⅱ
		看護の統合と実践	看護の統合実習	3後	【看護の原理と基礎】【ライフサイクル別看護】全科目 安全管理論 成人看護学実習 成人・高齢者看護学実習 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 地域・在宅看護論実習	総合判断育成演習 災害・国際看護論

※表中の【看護の原理と基礎】とは、「専門科目」の「健康生活を支えるための看護の原理と基礎」の科目を示す。

＊「健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動」の2年次後期にある実習については、2年次前期までの[専門基礎]科目すべてを単位履修済みであること。

＊「看護の統合と実践」の3年次後期にある「看護の統合実習」については、3年次前期までの[専門基礎]科目すべてを単位履修済みであること。

＜看護学科実習科目の履修前提条件＞ 2021 年度以前入学生に適用

区分			授業科目	時期	履修条件	
					単位修得済み科目	当年度履修登録済み科目
専門教育科目	専門科目	健康生活を支えるための看護の原理と基礎	基礎看護学実習Ⅰ	1前		看護学概論 基礎看護技術Ⅰ
			基礎看護学実習Ⅱ	2前	1年次の[専門基礎]全科目 看護学概論 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学実習Ⅰ	基礎看護技術Ⅲ 基礎看護技術Ⅳ フィジカルアセスメント
		健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動	成人看護学実習Ⅰ	2後＊ ～ 3前	【看護の原理と基礎】全科目 成人看護学概論 成人看護活動論Ⅰ	成人看護活動論Ⅱ
			成人看護学実習Ⅱ	2後＊ ～ 3前	【看護の原理と基礎】全科目 成人看護学概論 成人看護活動論Ⅰ	成人看護活動論Ⅱ
			高齢者看護学実習Ⅰ	2後＊	【看護の原理と基礎】全科目 高齢者看護学概論 高齢者看護活動論Ⅰ	高齢者看護活動論Ⅱ
			高齢者看護学実習Ⅱ	3前	高齢者看護活動論Ⅱ 高齢者看護学実習Ⅰ	
			小児看護学実習	2後＊	【看護の原理と基礎】全科目 小児看護学概論 小児看護活動論Ⅰ	小児看護活動論Ⅱ
			母性看護学実習	2後＊	【看護の原理と基礎】全科目 母性看護学概論 母性看護活動論Ⅰ	母性看護活動論Ⅱ
			精神看護学実習	3前	【看護の原理と基礎】全科目 精神看護学概論 精神看護活動論Ⅰ	精神看護活動論Ⅱ
	統合科目	看護の統合と実践	在宅看護論実習	3前	【看護の原理と基礎】全科目 在宅看護概論 在宅看護活動論Ⅰ	在宅看護活動論Ⅱ
			看護の統合実習	3後	【看護の原理と基礎】全科目 成人看護学実習Ⅱ 高齢者看護学実習Ⅱ 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 在宅看護論実習	総合判断育成演習

※表中の【看護の原理と基礎】とは、「専門科目」の「健康生活を支えるための看護の原理と基礎」の科目を示す。

＊「健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動」の2年次後期にある実習については、2年次前期までの[専門基礎]科目すべてを単位履修済みであること。

７．試験、成績評価及び単位の授与

1） 試験の種類

試験は、原則として下記の種類があります。ただし、科目によっては授業時間中に随時期間外試験を行うことがあります。

試験は各授業科目の担当教員が行い、試験を受けることができる者は、当該授業科目の授業時間数の３分の２以上出席した者とします。

① 定期試験

前学期、後学期授業終了後に行います。

② 期間外試験

前学期試験、後学期試験の期間以外に行うことがあります。

③ レポート試験

上記の試験に代わり、レポート提出を求められることがあります。詳細は担当教員の指示に従ってください。

④ 追試験

病気、その他正当な理由により試験を受けられなかった場合、願い出が認められた者に対し追試験を実施します。

⑤ 再試験

試験及び追試験に不合格となった者について、授業担当教員は１回に限り再試験を行うことができます。

2） 追試験の手続き

追試験の受験を希望する者は、当該試験の終了から 5 日以内（休日含まず）に、受験できなかった理由がわかる書類（病気やけがの場合は医師の診断書、その他忌引きや事故等による場合は証明できる書類等）を付した追試験願を事務局学務課に提出しなければなりません。

願い出が認められた場合は、担当教員の指示に従って受験することとなります。

なお、追試験を欠席した場合は、特別な事情がない限りその後の追試験は行いません。

3） 再試験の手続き

再試験を希望する者は、定められた期日までに再試験願に再試験料（１科目につき 3,000 円）を添えて申請し、学長の承認を得なければなりません。

なお、再試験を欠席した場合は、特別な事情がない限りその後の再試験は行いません。

4） 受験上の注意

ア. 座席は、別途指定された席についてください。

イ. 学生証は本人確認のため、写真の面を上にして通路側の机上に置いてください。なお、学生証を携帯していない者、有効期限の切れた学生証持参の者は受験できません。ただし、当日事務室にて当日のみ有効の受験特別許可証を発行します。手数料は 1,000 円です。

ウ. 試験に必要な筆記用具、消しゴム等以外のものを机上に置かないでください。

エ. 監督者の指示に従ってください。指示に従わない者には退場を命じ、その試験は無効とします。

オ. 遅刻は、試験開始後 30 分までを認め、それ以後の入室は認めません。

カ. 退室は、試験開始後 30 分経過するまでは認めません。

キ. 試験実施中は、スマホ・携帯電話及び腕時計のアラーム等の電源を切ってください。

ク. 不正行為を行った者には退室を命じ、当該科目または以後の全科目の受験を認めません。また、当該学期の履修科目の一部または全部の単位を認定しません。詳細は学生便覧の「平成医療短期大学試験等における不正行為に対する取扱基準」でご確認ください。

また、不正行為と見なされてしまう可能性のある行為（例：筆記用具や消しゴムの貸し借り等）は、決して行わないでください。

5） 成績評価

成績の評価は次のとおりです。（学則第 26 条第 2 項）

成績は、本人に秀、優、良、可、不可、失格の評価をもって通知します。
成績評価が合格の者に対して、所定の単位を与えます。各試験の評価は、次のとおりです。

評価	前学期、後学期、期間外、及びレポート試験等	追試験	再試験
秀	１００点～９０点	１００点～９０点	なし
優	８９点～８０点	８９点～８０点	なし
良	７９点～７０点	７９点～７０点	なし
可	６９点～６０点	６９点～６０点	１００点～６０点
不可	６０点未満	６０点未満	６０点未満
失格	受験資格なし	―	―

＜実習科目＞

出席が当該実習科目の授業時間数の５／６以上を対象とし、成績評価は、秀、優、良、可、不可、失格とします。出席が当該実習科目の授業時間数の５／６に満たない場合は、補習実習を認める場合があります。

この場合は本学所定の申請用紙により、補習実習願を事務室に提出し、実習担当教員と学長の承認を得なければなりません。

＜GPA＞　＊グレード・ポイント・アベレージ

GPA とは、「秀」を４、「優」を３、「良」を２、「可」を１、「不可・失格」を０として各科目の成績を一定の基準で換算して、全体成績を数値で表記したものです。

[GPA 算出方法]　＊小数第三位四捨五入

$$\frac{([秀]\ 修得単位数\times 4)+([優]\ 修得単位数\times 3)+([良]\ 修得単位数\times 2)+([可]\ 修得単位数\times 1)+([不可]\ 修得単位数\times 0)}{総修得単位数+（不可・失格）単位数}$$

＊GPA には、各期の GPA と入学からその時点までの通算 GPA があり、各期の成績表には両方の GPA が掲載されます。

＊不可・失格について再履修で単位修得した場合は、過去の不可・失格の評価は通算 GPA には算入されません。

＊GPA は履修登録されたすべての科目が対象になります。よって、選択科目を必要単位数以上に履修申請した場合も、すべて対象になります。

＊入学前既修得単位（単位認定科目）は GPA 対象外です。

＜GPA に基づく個別指導、退学勧告＞

成績不振の基準を、学期 GPA1.5 未満とし、該当する学生には次の各号により個別面談・指導等を行います。

① 学期 GPA が 1.5 未満の場合は、指導教員による個別面談・指導を行います。
② 2 期連続 GPA が 1.5 未満の場合は、保護者同席のうえ指導教員による個別面談・指導を行います。
③ 3 期連続または通算 4 学期の GPA が 1.5 未満の場合は、学長が退学勧告できます。

6）成績発表

原則成績表を手渡しすることで発表とします。その際は必ず学生証を持参してください。

発表日時、場所等は時間割表に記載の上 Classroom にてお知らせします。

なお、再試験の申し込みは成績発表の当日以降に行います。時間、場所等は Classroom にてお知らせします。

８．単位について

1）単位の計算方法

学則第２４条により、次のように定めています。

第２４条　授業科目の単位数は、１単位の授業科目を４５時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。

一　講義については、１５時間の授業をもって１単位とする。ただし、別に定める授業科目については、３０時間の授業をもって１単位とする。

二　演習については、３０時間の授業をもって１単位とする。ただし、別に定める授業科目については、１５時間の授業をもって１単位とする。

三　実験、実習及び実技については、４５時間の授業をもって１単位とする。ただし、別に定める授業科目については、３０時間の授業をもって１単位とする。

四　講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により授業を行う場合にあっては、その組み合わせに応じ、次の表の換算時間により計算した総時間数が４５時間となる授業をもって１単位とする。

授業の種類	授業１時間当たりの換算時間
講義	３時間
演習	１．５時間
実習･実験・実技	１時間

2）単位の考え方

1）に記載されているように、1 単位の学修時間を 45 時間としながら、実際の講義については 15 時間（30 時間）で１単位としています。これは、45 時間の中に講義以外の事前・事後学習の時間が含まれるとする考え方によるものです。

９．卒業要件、学位の授与及び国家試験

1） 卒業要件

本学を卒業するためには、本学に３年以上在学し、本学学則の別表１に卒業要件として示す単位を修得しなければなりません。

2）学位の授与及び国家試験

所定の単位を修得すると、「短期大学士（看護学）」（英訳名：Associate of Science in Nursing）の学位が授与され、看護師国家試験の受験資格が得られます。

この国家試験は、厚生労働省により年１回実施されます。

＜看護学科の卒業要件単位数＞

令和４年度入学生

区　　分			必　修	選　択	合　計
総合教育科目	教養教育科目	人間と科学	３単位	２単位以上	５単位以上
		人間と社会	２単位	２単位以上	４単位以上
	基礎教育科目	コミュニケーション	４単位	－	４単位
		外国語	１単位	１単位以上	２単位以上
専門教育科目	専門基礎科目	人体の構造と機能	７単位	－	７単位
		疾病の成り立ちと回復の促進	９単位	－	９単位
		健康支援と社会保障制度	６単位	－	６単位
	専門科目	健康生活を支えるための看護の原理と基礎	１５単位	－	１５単位
		健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動	４４単位	－	４４単位
		看護の統合と実践	９単位	－	９単位
合計			１００単位	５単位以上	１０５単位以上

令和３年度以前入学生

区　　分			必　修	選　択	合　計
総合教育科目	教養教育科目	人間と科学	２単位	２単位以上	４単位以上
		人間と社会	２単位	２単位以上	４単位以上
	基礎教育科目	コミュニケーション	３単位	－	３単位
		外国語	１単位	１単位以上	２単位以上
専門教育科目	専門基礎科目	人体の理解	６単位	－	６単位
		疾病の成り立ちと回復の促進	９単位	－	９単位
		社会の構造と環境	６単位	－	６単位
	専門科目	健康生活を支えるための看護の原理と基礎	１３単位	－	１３単位
		健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動	４０単位	－	４０単位
	統合科目	看護の統合と実践	１２単位	－	１２単位
合計			９４単位	５単位以上	９９単位以上

カリキュラムマップ＜看護学科＞　2022年度入学生

建学の精神　「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

教育目標
教育目的　全学 ･･･　教育基本法の精神に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上に実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成することを目的とする。
看護学科･･･深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る知識・技術及び実践力をもつ看護師を養成することを目的とする。
①科学的根拠に裏づけされた看護領域の専門知識、技術及び実践力を有する看護師
②高度化、多様化する医療環境の変化等に主体的に対応できる実践力を有する看護師
③生命の尊重と人間に対する全人的な深い理解に基づく対象者への看護の実践及び多職種と連携・協働しながら看護を提供できる良好な人間関係を築く能力と態度を有する看護師
④生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意思を持つ看護師

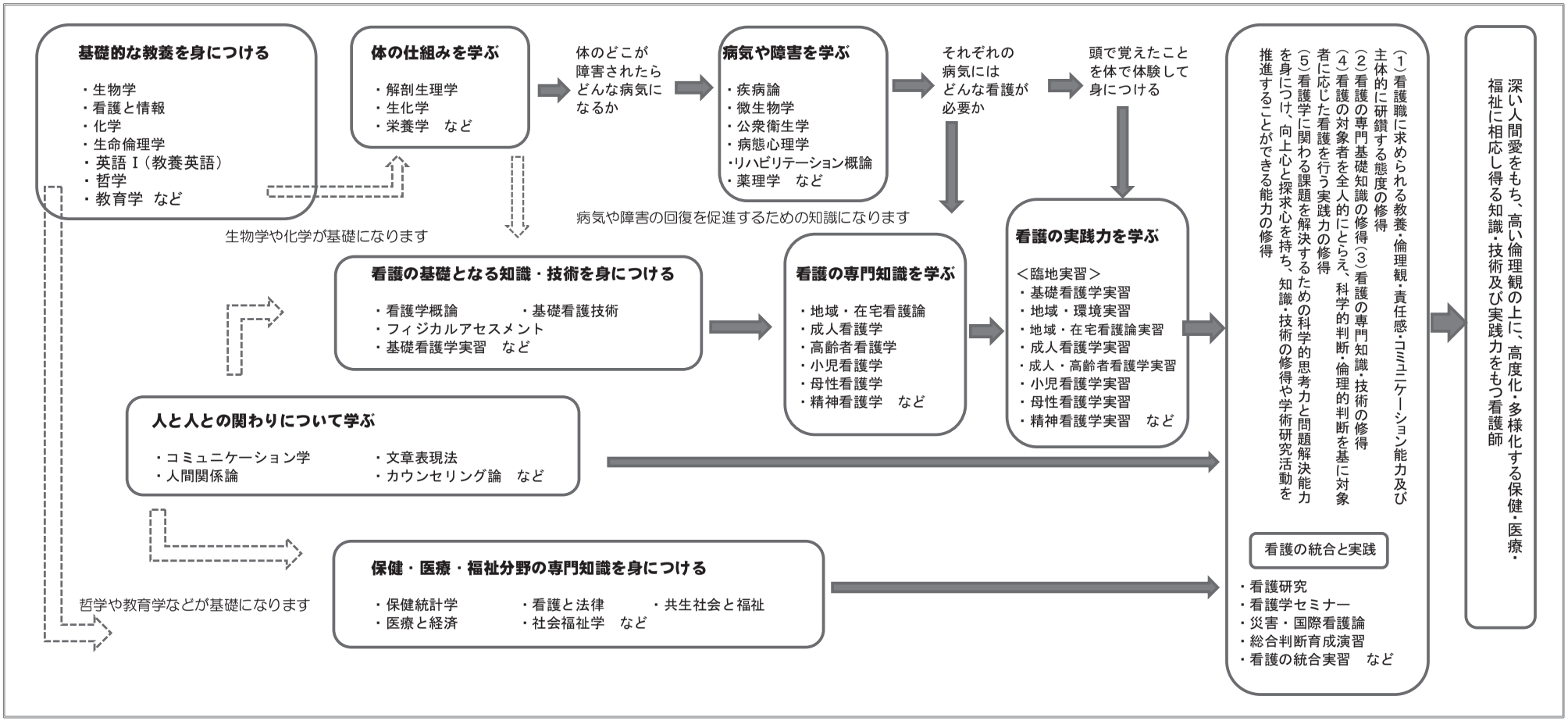
※ディプロマ・ポリシーの番号はP3の該当番号

教育目的に基づくカリキュラム・ポリシー		項目	1年次		2年次		3年次		学習成果	ディプロマ・ポリシー	
全学方針	看護学科方針		前期	後期	前期	後期	前期	後期		全学方針	看護学科
(1)社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。	(1)豊かな人間性と教養及びコミュニケーション能力を身につけ、対象者を全人的に深く理解するため、人間と科学・人間と社会・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。	人間と科学	生物学 物理学 化学 人間工学 看護と情報	環境と人間					(全学)教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得 (1)看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得	(1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。	(1)豊かな人間性と教養を身につけ、看護師としての責任感や倫理観など、医療人として求められる能力と態度を身につけている。
		人間と社会	社会学 人間関係論 ボランティア論	哲学 教育学 心理学 生命倫理学							
		コミュニケーション	基礎演習Ⅰ 文章表現法	基礎演習Ⅱ コミュニケーション学							
		外国語	英語Ⅰ(教養英語)	英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語							
(2)専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体、疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。	(2)看護の専門基礎知識を修得するため、人体の理解・疾病の成り立ちと回復の促進・社会の構造と環境の専門基礎科目を配置する。	人体の理解	解剖生理学Ⅰ 解剖生理学Ⅱ 生活者の解剖生理 生化学 栄養学						(2)看護の専門基礎知識の修得	(2) 学習を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉等に貢献できる力を身につける。 (3) 学科・専攻課程の教育目的に基づく学習を通して、人間、保健医療福祉問題等を科学的、論理的に思考し、柔軟な発想による課題発見、解決のための知識、技術等を身につける。	(2)看護師として必要な基礎的知識・技術・態度を身につけ、対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践できる。 (3)看護の対象者及び医療チーム間における円滑なコミュニケーション能力を身につけ、互いを尊重した人間関係を構築できる。 (4)生涯にわたり向上心と探求心をもち続け、看護専門職として主体的に研鑽できる。
		疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	疾病論Ⅰ 疾病論Ⅱ 疾病論Ⅲ 公衆衛生学 薬理学 リハビリテーション概論	病態心理学 カウンセリング論						
		健康支援と社会保障制度		社会福祉学	保健統計学		共生社会と福祉	医療と経済 看護と法律			
	(3)看護の領域ごとに、健康生活を支えるための看護の原理と基礎・健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動の専門科目及び統合科目を配置し、専門知識・技術実践力を段階的に高めるように配置する。	健康生活を支えるための看護の原理と基礎	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ	基礎看護技術Ⅱ フィジカルアセスメントⅠ	基礎看護技術Ⅲ 基礎看護技術Ⅳ フィジカルアセスメントⅡ				(1)看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得 (3)看護の専門知識・技術の修得 (4)看護の対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に対象者に応じた看護を行う実践力の修得 (5)看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得		
		健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		地域・在宅看護概論 成人看護学概論 高齢者看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論	地域・在宅看護活動論Ⅰ 成人看護活動論Ⅰ 成人看護活動論Ⅱ 高齢者看護活動論Ⅰ 小児看護活動論Ⅰ 母性看護活動論Ⅰ 精神看護学概論	地域・在宅看護活動論Ⅱ 成人看護活動論Ⅲ 高齢者看護活動論Ⅱ 小児看護活動論Ⅱ 母性看護活動論Ⅱ 精神看護活動論Ⅰ	地域・在宅看護活動論Ⅲ 精神看護活動論Ⅱ			
	(4)看護の領域ごとに、看護職としての科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を段階的に配置する。	専門領域別実習	基礎看護学実習Ⅰ	地域・環境実習Ⅰ	基礎看護学実習Ⅱ 地域・環境実習Ⅱ	成人・高齢者看護学実習 小児看護学実習 母性看護学実習	地域・在宅看護論実習 成人看護学実習 精神看護学実習				
	(5)看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、それを生涯に渡り高める態度とチーム医療・多職種連携における看護の役割を果たすために統合科目を配置する。	看護の統合と実践		安全管理論			課題研究	災害・国際看護論 総合判断育成演習 看護の統合実習 看護学セミナー			

科目関連図

各科目がどのように関連しているかを理解して学習をすすめる。

＜看護学科＞　2022年度入学生



到達目標評価項目(学習成果)および評価基準

＜看護学科＞ 2022年度入学生

※学習成果の番号はカリキュラムマップ・関連図の該当番号

評価項目	評価基準			適用科目	学校としての学習成果の評価
学習成果	3 (非常に優れている)	2 (優れている)	1 (基準に達している)		
(1)看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	生物学 看護と情報 物理学 化学 人間工学 環境と人間 社会学 人間関係論 ボランティア論 哲学 教育学 心理学 生命倫理学 基礎演習Ⅰ・Ⅱ 文章表現法 コミュニケーション学 英語Ⅰ(教養英語) 英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
(2)看護の専門基礎知識の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	解剖生理学Ⅰ・Ⅱ 生活者の解剖生理 生化学 栄養学 疾病論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 微生物学 公衆衛生学 薬理学 病態心理学 リハビリテーション概論 カウンセリング論 保健統計学 看護と法律 共生社会と福祉 医療と経済 社会福祉学	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
(1)看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得 (3)看護の専門知識・技術の修得 (4)看護の対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に対象者に応じた看護を行う実践力の修得 (5)看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ フィジカルアセスメントⅠ・Ⅱ 基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱ 地域・在宅看護概論 地域・在宅看護活動論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 地域・環境実習Ⅰ・Ⅱ 地域・在宅看護論実習 成人看護学概論 成人看護活動論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ 成人看護学実習 高齢者看護学概論 高齢者看護活動論Ⅰ・Ⅱ 成人・高齢者看護学実習 小児看護学概論 小児看護活動論Ⅰ・Ⅱ 小児看護学実習 母性看護学概論 母性看護活動論Ⅰ・Ⅱ 母性看護学実習 精神看護学概論 精神看護活動論Ⅰ・Ⅱ 精神看護学実習 課題研究 看護学セミナー 安全管理論 災害・国際看護論 総合判断育成演習 看護の統合実習	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。

カリキュラムマップ＜看護学科＞　2021年度以前入学生

建学の精神　「誠意と親切と広い心」を理念に、医療の基本的精神である科学と人間愛に基づき、医療の知識と技術向上に努め、地域医療福祉等に貢献できる人材を養成する。

建学の精神に基づく教育目的
全学 ･･･　教育基本法の精神に則り、学校教育法に基づき、「誠意と親切と広い心」を理念に、豊かな一般教養の上に実践的な学問及び技術を深く教授し、地域社会等に貢献し得る優秀な人材を養成する。
看護学科･･･深い人間愛をもち、高い倫理観の上に、高度化・多様化する保健・医療・福祉に相応し得る次の知識・技術及び実践力をもつ看護師を養成する。
①科学的根拠に裏づけされた看護領域の専門知識、技術及び実践力を有する看護師
②高度化、多様化する医療環境の変化等に主体的に対応できる実践力を有する看護師
③生命の尊重と人間人間に対する全人的な深い理解に基づく対象者への看護の実践及び多職種と連携・協働しながら看護を提供できる良好な人間関係を築く能力と態度を有する看護師
④生涯にわたり、主体的かつ能動的に学習する意思を持つ看護師

※ディプロマ・ポリシーの番号はP3の該当番号

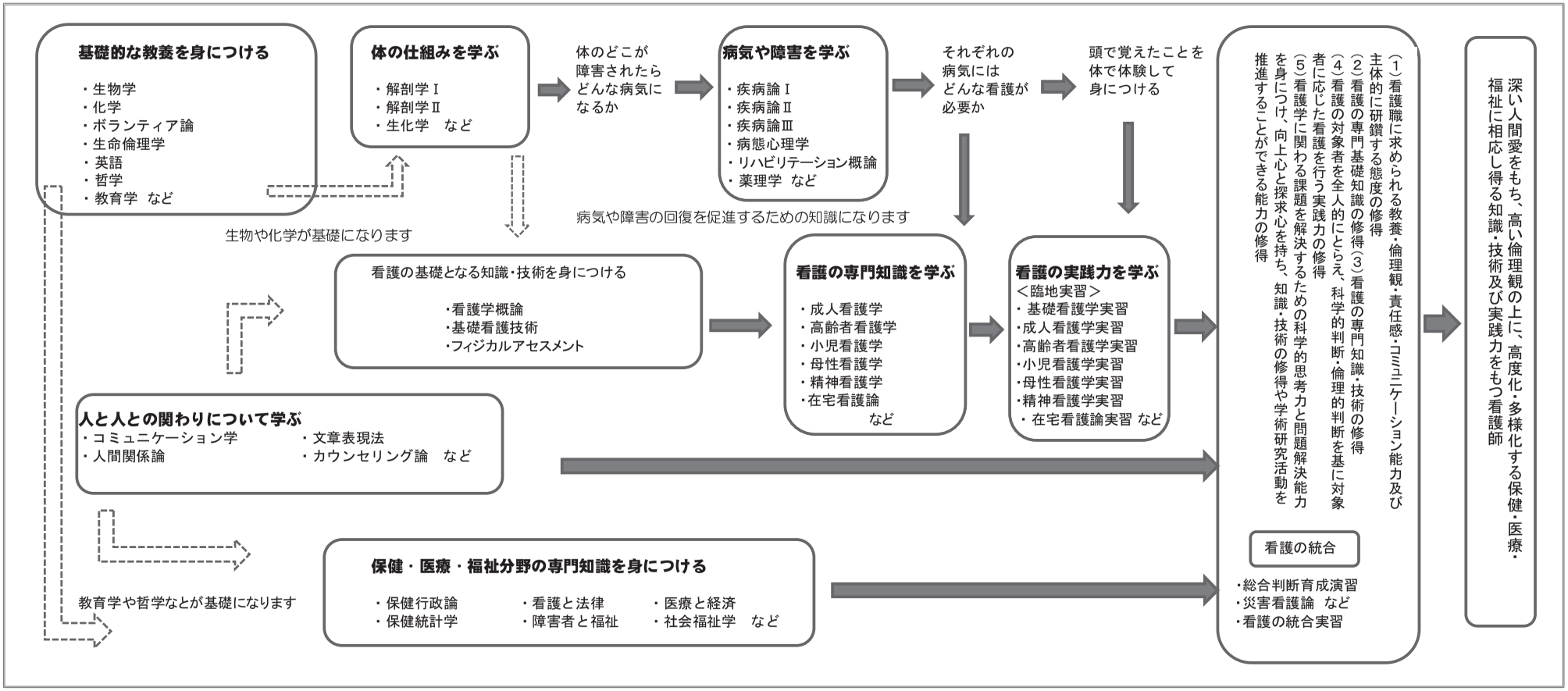
教育目的に基づくカリキュラム・ポリシー		項目	1年次		2年次		3年次		学習成果	ディプロマ・ポリシー	
全学方針	看護学科方針		前期	後期	前期	後期	前期	後期		全学方針	看護学科
(1)社会生活に求められる教養、倫理、責任感及びコミュニケーション能力を身につけるため、全学に総合教育科目を配置する。	(1)豊かな人間性と教養及びコミュニケーション能力を身につけ、対象者を全人的に深く理解するため、人間と科学・人間と社会・コミュニケーション等の総合教育科目を配置する。	人間と科学	生物学 物理学 化学 人間工学	情報科学 環境と人間					(全学)教養・倫理・責任感及びコミュニケーション能力の修得 (1)看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得	(1) 全学共通の教養科目の履修を通して、社会的責任感、良好な人間関係、コミュニケーション能力、倫理観など、医療人として求められる教養を身につける。	(1)豊かな人間性と教養を身につけ、看護師としての責任感や倫理観など、医療人として求められる能力と態度を身につけている。
		人間と社会	社会学 人間関係論 ボランティア論	哲学 教育学 心理学 生命倫理学							
		コミュニケーション	基礎演習 文章表現法	コミュニケーション学							
		外国語	英語Ⅰ(教養英語)	英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語 中国語							
(2)専門教育科目は、専門職の基礎知識である人体、疾病などの専門基礎を学び、それぞれの学科・専攻課程ごとに、次のとおり専門知識・技術及び実践力を修得する科目を配置する。	(2)看護の専門基礎知識を修得するため、人体の理解・疾病の成り立ちと回復の促進・社会の構造と環境の専門基礎科目を配置する。	人体の理解	解剖学Ⅰ(解剖学総論・骨格・筋系等) 解剖学Ⅱ(循環・神経・内分泌・消化器等) 生化学 栄養学						(2)看護の専門基礎知識の修得	(2) 学習を通して、専門職として求められる専門知識、技術及び実践力を修得し、地域医療福祉等に貢献できる力を身につける。 (3) 学科・専攻課程の教育目的に基づく学習を通して、人間、保健医療福祉問題等を科学的、論理的に思考し、柔軟な発想による課題発見、解決のための知識、技術等を身につける。	(2)看護師として必要な基礎的知識・技術・態度を身につけ、対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践できる。 (3)看護の対象者及び医療チーム間における円滑なコミュニケーション能力を身につけ、互いを尊重した人間関係を構築できる。 (4)生涯にわたり向上心と探求心をもち続け、看護専門職として主体的に研鑽できる。
		疾病の成り立ちと回復の促進	微生物学	疾病論Ⅰ(神経・病理組織) 疾病論Ⅱ(呼吸と循環、代謝と栄養) 疾病論Ⅲ(神経と運動、生殖、排泄と感覚) 公衆衛生学 薬理学 リハビリテーション概論	病態心理学 カウンセリング論						
		社会の構造と環境		社会福祉学			保健統計学	保健行政論 看護と法律 障害者と福祉			
	(3)看護の領域ごとに、健康生活を支えるための看護の原理と基礎・健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動の専門科目及び統合科目を配置し、専門知識・技術実践力を段階的に高めるように配置する。	健康生活を支えるための看護の原理と基礎	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ(共通・清潔)	基礎看護技術Ⅱ(共通・食事・排泄) フィジカルアセスメント	基礎看護技術Ⅲ(診察・処置) 基礎看護技術Ⅳ (基礎看護学実習Ⅱ事前演習)				(1)看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得 (3)看護の専門知識・技術の修得 (4)看護の対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に対象者に応じた看護を行う実践力の修得 (5)看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得		
		健康生活を支えるための ライフサイクル別看護活動		成人看護学概論 高齢者看護学概論 小児看護学概論 母性看護学概論	成人看護活動論Ⅰ(基礎) 高齢者看護活動論Ⅰ(基礎) 小児看護活動論Ⅰ(基礎) 母性看護活動論Ⅰ(基礎) 精神看護活動論 在宅看護概論	成人看護活動論Ⅱ(発展) 高齢者看護活動論Ⅱ(発展) 小児看護活動論Ⅱ(発展) 母性看護活動論Ⅱ(発展) 精神看護活動論Ⅰ(基礎) 在宅看護活動論Ⅰ(基礎)	精神看護活動論Ⅱ(発展) 在宅看護活動論Ⅱ(発展)				
		安全管理論 災害看護論 課題研究事前演習 課題研究		安全管理論			課題研究事前演習	課題研究 災害看護論			
	(4)看護の領域ごとに、看護職としての科学的判断・倫理的判断を基に、対象者に応じた看護を実践するための実習科目を段階的に配置する。	専門分野別実習 看護の統合実習	基礎看護学実習Ⅰ(基礎)		基礎看護学実習Ⅱ(発展)	★成人看護学実習Ⅰ(慢性、回復期) ★成人看護学実習Ⅱ(手術、急性、終末期) 高齢者看護学実習Ⅰ(基礎) 小児看護学実習 母性看護学実習	★成人看護学実習Ⅰ(慢性、回復期) ★成人看護学実習Ⅱ(手術、急性、終末期) 高齢者看護学実習Ⅱ(発展) 在宅看護論実習 精神看護学実習	看護の統合実習			
	(5)看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、それを生涯に渡り高める態度とチーム医療・多職種連携における看護の役割を果たすために統合科目を配置する。	総合判断育成演習						総合判断育成演習			

★成人看護学実習Ⅰ(慢性、回復期)と成人看護学実習Ⅱ(手術、急性、終末期)は2年後期・3年前期のいずれかで履修する。

科目関連図

各科目がどのように関連しているかを理解して学習をすすめる。

＜看護学科＞　2021年度以前入学生



到達目標評価項目(学習成果)および評価基準

＜看護学科＞ 2021年度以前入学生

※学習成果の番号はカリキュラムマップ・関連図の該当番号

評価項目	評価基準			適用科目	学校としての学習成果の評価
学習成果	3 (非常に優れている)	2 (優れている)	1 (基準に達している)		
(1)看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	生物学　物理学　化学 情報科学　人間工学　環境と人間 社会学　人間関係論　ボランティア論 哲学　教育学　心理学 生命倫理学 基礎演習　文章表現法 コミュニケーション学 英語Ⅰ(教養英語)　英語Ⅱ(日常英会話) 英語Ⅲ(専門英語) ドイツ語　中国語	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
(2)看護の専門基礎知識の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	解剖学Ⅰ(解剖学総論・骨格・筋系等) 解剖学Ⅱ(循環・神経・内分泌・消化器等) 生化学 栄養学 微生物学 疾病論Ⅰ(神経・病理組織) 疾病論Ⅱ(呼吸と循環、代謝と栄養) 疾病論Ⅲ(神経と運動、生殖、排泄と感覚) 公衆衛生学 薬理学 ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ概論 社会福祉学 保健統計学 病態心理学 保健行政論 看護と法律 障害者と福祉 医療と経済 カウンセリング論	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。
(1)看護職に求められる教養・倫理観・責任感・コミュニケーション能力及び主体的に研鑽する態度の修得 (3)看護の専門知識・技術の修得 (4)看護の対象者を全人的にとらえ、科学的判断・倫理的判断を基に対象者に応じた看護を行う実践力の修得 (5)看護学に関わる課題を解決するための科学的思考力と問題解決能力を身につけ、向上心と探求心を持ち、知識・技術の修得や学術研究活動を推進することができる能力の修得	当該分野のGPA 2.50～4.00	当該分野のGPA 2.00～2.49	当該分野のGPA 1.00～1.99	看護学概論 基礎看護技術Ⅰ(共通・清潔) 基礎看護技術Ⅱ(共通・食事・排泄) 基礎看護技術Ⅲ(診察・処置) 基礎看護技術Ⅳ(基礎看護学実習Ⅱ事前演習) フィジカルアセスメント 成人看護学概論 成人看護活動論Ⅰ（基礎） 成人看護活動論Ⅱ（発展） 高齢者看護学概論 高齢者看護活動論Ⅰ（基礎） 高齢者看護活動論Ⅱ（発展） 小児看護学概論 母性看護学概論 小児看護活動論Ⅰ（基礎） 小児看護活動論Ⅱ（発展） 母性看護活動論Ⅰ（基礎） 母性看護活動論Ⅱ（発展） 精神看護学概論 精神看護活動論Ⅰ（基礎） 精神看護活動論Ⅱ（発展） 在宅看護概論 在宅看護活動論Ⅰ（基礎） 在宅看護活動論Ⅱ（発展） 安全管理論 災害看護論 課題研究事前演習 課題研究 基礎看護学実習Ⅰ（基礎） 基礎看護学実習Ⅱ（発展） 成人看護学実習Ⅰ（慢性、回復期） 成人看護学実習Ⅱ(手術、急性、終末期) 高齢者看護学実習Ⅰ（基礎） 高齢者看護学実習Ⅱ（発展） 小児看護学実習 母性看護学実習 精神看護学実習 在宅看護論実習 総合判断育成演習 看護の統合実習	当該分野の学生のGPA平均値が左記1～3のいずれに該当するかにより評価。

シ ラ バ ス

看護学科

２０２２年度以前入学生

◎ 看護学科（2022年度入学生）
◆ 総合教育科目 ◆

科目区分		科目名	開講時期	授業担当教員名	ページ
教養教育科目	人間と科学	生物学	1年次前学期	江村正一	
		看護と情報	1年次前学期	福岡大輔、三品弘司、森岡菜穂子、佐々木智恵	
		物理学	1年次前学期	中村　琢	
		化学	1年次前学期	武藤吉徳	
		人間工学	1年次前学期	山田宏尚	
		環境と人間	1年次後学期	大藪千穂	
	人間と社会	社会学	1年次前学期	伊原亮司	
		人間関係論	1年次前学期	神戸博一	
		ボランティア論	1年次前学期	益川優子	
		哲学	1年次後学期	竹内章郎	
		教育学	1年次後学期	益川優子	
		心理学	1年次後学期	大井修三	
		生命倫理学	1年次後学期	塚田敬義、熊田ますみ	
基礎教育科目	コミュニケーション	基礎演習Ⅰ	1年次前学期	松野ゆかり、古田弥生	
		基礎演習Ⅱ	1年次後学期	熊田ますみ、皮野さよみ、三品弘司、二村美津子、林宗典、森岡菜穂子	
		文章表現法	1年次前学期	弓削　繁	
		コミュニケーション学	1年次後学期	近藤ひろえ	
	外国語	英語Ⅰ（教養英語）	1年次前学期	ジャマリ・マルジャン	
		英語Ⅱ（日常英会話）A	1年次後学期	ジャマリ・マルジャン	
		英語Ⅱ（日常英会話）B	1年次後学期	ミルボド・セイエド・モハマド	
		英語Ⅲ（専門英語）	1年次後学期	ミルボド・セイエド・モハマド	
		ドイツ語	1年次後学期	安藤彰浩	
		中国語	1年次後学期	橋本永貢子	

◎ 看護学科（2022年度入学生）
◆ 専門教育科目 ◆

科目区分		科目名	開講時期	授業担当教員名	ページ
専門基礎科目	人体の理解	解剖生理学Ⅰ	1年次前学期	佐竹裕孝	
		解剖生理学Ⅱ	1年次前学期	佐竹裕孝	
		生活者の解剖生理	1年次前学期	熊田　ますみ、武内　康雄、林　宗典 加藤　清人、田島　嘉人	
		生化学	1年次前学期	亀山泰永	
		栄養学	1年次前学期	久保和弘	
	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病論Ⅰ	1年次後学期	武内康雄、山本容正	
		疾病論Ⅱ	1年次後学期	近藤直実、松井永子、山本容正	
		疾病論Ⅲ	1年次後学期	細江英夫、坂　義人、平野聡子、塩谷滝雄、 大江直行、中山則之	
		微生物学	1年次前学期	林　将大	
		公衆衛生学	1年次後学期	和田恵子	
		薬理学	1年次後学期	足立哲夫	
		病態心理学	2年次前学期	武藤恭昌、大井一高、蔵満彩結実、野瀬早織、 高井健太朗、藤兼大輔、藤田浩司、村上拓紀	31
		リハビリテーション概論	1年次後学期	長谷部武久	
		カウンセリング論	2年次前学期	古田信宏	33
	健康支援と社会保障制度	保健統計学	2年次前学期	紀ノ定保臣	39
		看護と法律	3年次後学期	皮野さよみ	43
		共生社会と福祉	3年次前学期	加藤清人	47
		医療と経済	3年次後学期	塩野美里	49
		社会福祉学	1年次後学期	伊藤　薫、木林　勉	

◎ 看護学科（2022年度入学生）

◆ 専門教育科目 ◆

科目区分		科目名	開講時期	授業担当教員名	ページ
専門科目	健康生活を支えるための看護の原理と基礎	看護学概論	1年次前学期	眞田正世	
		基礎看護技術Ⅰ	1年次前学期	眞田正世、長屋江見、佐々木智恵、坂本裕子	
		基礎看護技術Ⅱ	1年次後学期	長屋江見、眞田正世、佐々木智恵、坂本裕子	
		基礎看護技術Ⅲ	2年次前学期	長屋江見、眞田正世、佐々木智恵、坂本裕子	51
		基礎看護技術Ⅳ	2年次前学期	眞田正世、長屋江見、佐々木智恵、坂本裕子	54
		フィジカルアセスメントⅠ	1年次後学期	眞田正世、長屋江見、佐々木智恵、坂本裕子	
		フィジカルアセスメントⅡ	2年次前学期	眞田正世、河合克尚、長屋江見、佐々木智恵、坂本裕子	56
		基礎看護学実習Ⅰ	1年次前学期	眞田正世、長屋江見、佐々木智恵、坂本裕子	
		基礎看護学実習Ⅱ	2年次前学期	眞田正世、長屋江見、佐々木智恵、坂本裕子	58
	健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動	地域・在宅看護概論	1年次後学期	越納美和、山田剛司	
		地域・在宅看護活動論Ⅰ	2年次前学期	越納美和、堀　信宏、清水美智子、中川幸代 塚原稔世	60
		地域・在宅看護活動論Ⅱ	2年次後学期	熊田ますみ、松野ゆかり、古田弥生、岩瀬桃子、三輪陽子、飯沼温美、山田剛司	62
		地域・在宅看護活動論Ⅲ	3年次前学期	越納美和、鈴木留理子、福井郁子	64
		地域・環境実習Ⅰ	1年次後学期	熊田ますみ、越納美和、三品弘司、松野ゆかり	
		地域・環境実習Ⅱ	2年次後学期	熊田ますみ、出口睦雄、三輪陽子、村上秀和 坂本裕子	66
		地域・在宅看護論実習	3年次前学期	越納美和、岩瀬桃子、清水ゆかり	68
		成人看護学概論	1年次後学期	古田弥生	
		成人看護活動論Ⅰ	2年次前学期	古田弥生、森岡菜穂子、林　宗典	70
		成人看護活動論Ⅱ	2年次前学期	古田弥生、森岡菜穂子、林　宗典、古林　晃	72
		成人看護活動論Ⅲ	2年次後学期	古田弥生、森岡菜穂子、林　宗典、粥川誠至	75
		成人看護学実習	3年次前学期	古田弥生、森岡菜穂子、林　宗典	77
		高齢者看護学概論	1年次後学期	熊田ますみ	
		高齢者看護活動論Ⅰ	2年次前学期	熊田ますみ、三輪陽子、加藤清人、川崎葉子 中川幸代	79
		高齢者看護活動論Ⅱ	2年次後学期	熊田ますみ、三輪陽子	81
		成人・高齢者看護学実習	2年次後学期	熊田ますみ、古田弥生、三輪陽子、森岡菜穂子 林　宗典	85
		小児看護学概論	1年次後学期	松野ゆかり	
		小児看護活動論Ⅰ	2年次前学期	松野ゆかり、岩瀬桃子、近藤富雄、遠渡絹代、 岡本知美、白木大輔、中川みのり	87
		小児看護活動論Ⅱ	2年次後学期	松野ゆかり、岩瀬桃子	89
		小児看護学実習	2年次後学期	松野ゆかり、岩瀬桃子　他	91
		母性看護学概論	1年次後学期	皮野さよみ	
		母性看護活動論Ⅰ	2年次前学期	皮野さよみ、清水ゆかり、田中季果、平野聡子	93
		母性看護活動論Ⅱ	2年次後学期	皮野さよみ、清水ゆかり、田中季果	95
		母性看護学実習	2年次後学期	皮野さよみ、清水ゆかり、田中季果	97
		精神看護学概論	2年次前学期	三品弘司	99
		精神看護活動論Ⅰ	2年次後学期	三品弘司、出口睦雄、村上秀和、小森あゆみ 川崎友香、森敏幸	101
		精神看護活動論Ⅱ	3年次前学期	三品弘司、出口睦雄	103
		精神看護学実習	3年次前学期	三品弘司　他	107
	看護の統合と実践	課題研究	3年次前学期	熊田ますみ、皮野さよみ、眞田正世、三品弘司	113
		看護学セミナー	3年次後学期	熊田ますみ　他	115
		安全管理論	1年次後学期	眞田正世	
		災害・国際看護論	3年次後学期	松田好美、纐纈朋弥、杉山清美、山下浩司	117
		総合判断育成演習	3年次後学期	熊田ますみ、皮野さよみ、眞田正世、三品弘司	119
		看護の統合実習	3年次後学期	熊田ますみ　他	121

◎ 看護学科（2021年度以前入学生）

◆ 総合教育科目 ◆

科目区分		科目名	開講時期	授業担当教員名	ページ
教養教育科目	人間と科学	生物学	1年次前学期	江村正一	
		物理学	1年次前学期	中村　琢	
		化学	1年次前学期	武藤吉徳	
		情報科学	1年次後学期	福岡大輔	
		人間工学	1年次前学期	山田宏尚	
		環境と人間	1年次後学期	大藪千穂	
	人間と社会	社会学	1年次前学期	伊原亮司	
		人間関係論	1年次前学期	神戸博一	
		ボランティア論	1年次前学期	益川優子	
		哲学	1年次後学期	竹内章郎	
		教育学	1年次後学期	益川優子	
		心理学	1年次後学期	大井修三	
		生命倫理学	1年次後学期	塚田敬義、熊田ますみ	
基礎教育科目	コミュニケーション	基礎演習（看護学科）	1年次前学期	松野ゆかり、古田弥生、長屋江見、加藤清人　他	
		文章表現法	1年次前学期	弓削　繁	
		コミュニケーション学	1年次後学期	近藤ひろえ	
	外国語	英語Ⅰ（教養英語）	1年次前学期	ジャマリ・マルジャン	
		英語Ⅱ（日常英会話）A	1年次後学期	ジャマリ・マルジャン	
		英語Ⅱ（日常英会話）B	1年次後学期	ミルボド・セイエド・モハマド	
		英語Ⅲ（専門英語）	1年次後学期	ミルボド・セイエド・モハマド	
		ドイツ語	1年次後学期	安藤彰浩	
		中国語	1年次後学期	橋本永貢子	

◎ 看護学科（2021年度以前入学生）

◆ 専門教育科目 ◆

科目区分		科目名	開講時期	授業担当教員名	ページ
専門基礎科目	人体の理解	解剖学Ⅰ（解剖学総論・骨格・筋系等）	1年次前学期	佐竹裕孝	
		解剖学Ⅱ（循環・神経・内分泌・消化器等）	1年次前学期	佐竹裕孝	
		生化学	1年次前学期	亀山泰永	
		栄養学	1年次前学期	久保和弘	
	疾病の成り立ちと回復の促進	疾病論Ⅰ（神経・病理組織）	1年次後学期	武内康雄、山本容正	
		疾病論Ⅱ（呼吸と循環、代謝と栄養）	1年次後学期	近藤直実、松井永子、山本容正	
		疾病論Ⅲ（神経と運動、生殖、排泄と感覚）	1年次後学期	西本　裕、坂　義人、平野聡子、塩谷滝雄、大江直行、中山則之	
		微生物学	1年次前学期	林　将大	
		公衆衛生学	1年次後学期	和田恵子	
		薬理学	1年次後学期	足立哲夫	
		病態心理学	2年次前学期	深尾　琢、大井一高、杉山俊介、蔵満彩結実、武藤恭昌、野瀬早織、高井健太朗、川村清子	
		リハビリテーション概論	1年次後学期	長谷部武久	
		カウンセリング論	2年次前学期	山田日吉	
	社会の構造と環境	保健行政論	3年次後学期	木林　勉	35
		保健統計学	3年次前学期	紀ノ定保臣	37
		看護と法律	3年次後学期	鷲見高光	41
		障害者と福祉	3年次後学期	加藤清人	45
		医療と経済	3年次後学期	塩野美里	49
		社会福祉学	1年次後学期	竹内章郎	

◎ 看護学科（2021年度以前入学生）
◆ 専門教育科目 ◆

科目区分		科目名	開講時期	授業担当教員名	ページ
専門科目	健康生活を支えるための看護の原理と基礎	看護学概論	1年次前学期	眞田正世	
		基礎看護技術Ⅰ（共通・清潔）	1年次前学期	眞田正世、長屋江見、佐々木智恵、坂本裕子	
		基礎看護技術Ⅱ（共通・食事・排泄）	1年次後学期	長屋江見、眞田正世、佐々木智恵、坂本裕子	
		基礎看護技術Ⅲ（診察・処置）	2年次前学期	長屋江見、眞田正世、佐々木智恵、坂本裕子	
		基礎看護技術Ⅳ（基礎看護学実習Ⅱ事前演習）	2年次前学期	眞田正世、長屋江見、佐々木智恵、坂本裕子	
		フィジカルアセスメント	1年次後学期	眞田正世、河合克尚、長屋江見、佐々木智恵、坂本裕子	
		基礎看護学実習Ⅰ（基礎）	1年次前学期	眞田正世、長屋江見、佐々木智恵、坂本裕子他	
		基礎看護学実習Ⅱ（発展）	2年次前学期	眞田正世、長屋江見、佐々木智恵、坂本裕子他	
	健康生活を支えるためのライフサイクル別看護活動	成人看護学概論	1年次後学期	古田弥生	
		成人看護活動論Ⅰ（基礎）	2年次前学期	古田弥生、森岡菜穂子、林宗典、飯沼温美、粥川誠至	
		成人看護活動論Ⅱ（発展）	2年次後学期	古田弥生、森岡菜穂子、林宗典、古林晃	
		成人看護学実習Ⅰ（慢性・回復期）	2年次後学期	古田弥生、森岡菜穂子、林宗典	
		成人看護学実習Ⅱ（手術・急性・終末期）	2年次後学期	古田弥生、森岡菜穂子、林宗典	
		高齢者看護学概論	1年次後学期	熊田ますみ	
		高齢者看護活動論Ⅰ（基礎）	2年次前学期	熊田ますみ、三輪陽子、加藤清人、山本容正、川崎葉子、中川幸代	
		高齢者看護活動論Ⅱ（発展）	2年次後学期	熊田ますみ、三輪陽子	
		高齢者看護学実習Ⅰ（基礎）	2年次後学期	熊田ますみ、三輪陽子　他	
		高齢者看護学実習Ⅱ（発展）	3年次前学期	熊田ますみ、三輪陽子　他	83
		小児看護学概論	1年次後学期	松野ゆかり	
		小児看護活動論Ⅰ（基礎）	2年次前学期	松野ゆかり、岩瀬桃子、近藤富雄、遠渡絹代、岡本朋美、白木大輔、中川みのり	
		小児看護活動論Ⅱ（発展）	2年次後学期	松野ゆかり、岩瀬桃子	
		小児看護学実習	2年次後学期	松野ゆかり、岩瀬桃子　他	
		母性看護学概論	1年次後学期	皮野さよみ	
		母性看護活動論Ⅰ（基礎）	2年次前学期	皮野さよみ、清水ゆかり、田中季果、平野聡子、山内久美子	
		母性看護活動論Ⅱ（発展）	2年次後学期	皮野さよみ、清水ゆかり、田中季果	
		母性看護学実習	2年次後学期	皮野さよみ、清水ゆかり、田中季果	
		精神看護学概論	2年次前学期	三品弘司	
		精神看護活動論Ⅰ（基礎）	2年次後学期	三品弘司、森敏幸、小森あゆみ、川崎友香	
		精神看護活動論Ⅱ（発展）	3年次前学期	三品弘司、出口睦雄、村上秀和	105
		精神看護学実習	3年次前学期	三品弘司　他	107
		課題研究事前演習	3年次前学期	熊田ますみ　他	109
		課題研究	3年次後学期	熊田ますみ　他	111
統合科目	看護の統合と実践	在宅看護概論	2年次前学期	小林和成	
		在宅看護活動論Ⅰ（基礎）	2年次後学期	越納美和、出口睦雄、堀信宏、清水美智子中川幸代、塚原稔世、鈴木留理子	
		在宅看護活動論Ⅱ（発展）	3年次前学期	越納美和	123
		在宅看護論実習	3年次前学期	越納美和、松野ゆかり　他	125
		安全管理論	1年次後学期	眞田正世	
		災害看護論	3年次後学期	松田好美、纐纈朋弥、杉山清美、山下浩司	127
		総合判断育成演習	3年次後学期	熊田ますみ、皮野さよみ、山内久美子　他	129
		看護の統合実習	3年次後学期	熊田ますみ　他	131

授業科目名		担当教員	
病態心理学		武藤　恭昌・大井　一高・藏満　彩結実・野瀬　早織・高井　健太朗・藤兼　大輔・藤田　浩司・村上　拓紀　(代表教員　武藤　恭昌)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		大井一高（医師）、武藤恭昌（医師）、藏満彩結実（医師）、野瀬早織（医師）、高井健太朗（医師）、藤兼大輔（医師）、藤田浩司（医師）、村上拓紀（医師）	

授業概要

プライマリ・ケアを含め、一般外来、入院など、どの場面でも遭遇するような精神疾患について、概念、症状、治療について学ぶ。

学修の到達目標

①心身に心理的ストレスがどのような影響を及ぼすかについて理解する。
②それぞれの問題への対処法の概略を理解する。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	総論	①②	武藤	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分)
2	心身症	①②	藤田	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分)
3	神経症・ストレス関連障害	①②	村上	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分)
4	睡眠障害	①②	藏満	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分)
5	摂食障害	①②	藏満	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分)
6	気分障害	①②	大井	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分)
7	統合失調症	①②	武藤	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分)
8	脳の急性障害	①②	藤田	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分)
9	脳の慢性障害	①②	高井	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。(30分)	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。(30分)

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	アルコール・薬物関連障害	① ②	武藤	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。（30分）	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。（30分）
11	情緒と行動の障害	① ②	野瀬	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。（30分）	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。（30分）
12	発達障害，精神遅滞	① ②	大井	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。（30分）	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。（30分）
13	性格のかたより	① ②	高井	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。（30分）	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。（30分）
14	精神保健福祉法	① ②	藤兼	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。（30分）	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。（30分）
15	司法精神医学	① ②	藤兼	講義	マスメディアなどで話題になっている精神疾患について、情報を収集しておく。（30分）	各疾患の背景にある心理学的背景を自分なりに理解して、レポートを作成する。（30分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法
授業毎のレポート（60%）と筆記試験（40%）にて、<目標>①②への理解度を評価する。

使用教科書
精神医学ハンドブック　－医学・保健・福祉の基礎知識　/ 山内　格.--第8版--日本評論社，2022年，978-4-535-98427-1

参考図書
対話で学ぶ 精神医学入門――コメディカル・学生のために　/ 細川　大雅. 医療コミュニケーションセンター，2017年，ISBN978-4909141002

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	課題に関して、授業の中で教員と学生がディスカッションを行う。
備考	積極的に考えたことを発言するよう求める。

授業科目名		担当教員	
カウンセリング論		古田　信宏	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(15時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		古田　信宏（小学校教員）	

授 業 概 要
・心と体の健康を考え、医療におけるカウンセリングについて理解を深める。 ・心理療法の種類や概要を学び、理解を深める。 ・カウンセリングの理論と技法を学ぶ。

学 修 の 到 達 目 標
①看護活動に必要とされるカウンセリングの知識を学び、運用できる技法を身に付けることができる。 ②授業での演習活動を通して、カウンセリングの知識と技能を日常の活動に生かせるようにすることができる。 ③自己を適切に把握し、社会スキルの向上を図ることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	カウンセリングとは;「カウンセリング」の概念、心理療法における位置づけを理解する	①				授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。 ファイルを用意し、学修録を保存する。（120分）
2	「看護カウンセリングの特徴と心理療法」 ・ 看護カウンセリングの特徴を理解する。 ・様々な心理療法について理解する。	① ②			授業を振り返り、小テストの備えをする。（120分）	授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。 ファイルを用意し、学修録を保存する。（120分）
3	「カウンセリングの態度」その１ ・一方通行と相互通行のコミュニケーションの違いを理解する。	① ②			授業を振り返り、小テストの備えをする。（120分）	授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。 ファイルを用意し、学修録を保存する。（120分）
4	「カウンセリングの態度」その２ ・ 傾聴的態度について演習を通して理解する。	① ②			授業を振り返り、小テストの備えをする。（120分）	授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。 ファイルを用意し、学修録を保存する。（120分）
5	「カウンセリングの技法」その１ ・カウンセリングの基本的援助技法（8の非言語コミュニケーションと9の援助技法）を理解する。	② ③			授業を振り返り、小テストの備えをする。（120分）	授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。 ファイルを用意し、学修録を保存する。（120分）
6	「カウンセリングの技法」その２ ・ 要約と焦点化技法について演習を通して理解する。	① ②			授業を振り返り、小テストの備えをする。（120分）	授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。 ファイルを用意し、学修録を保存する。（120分）
7	解決志向のカウンセリング;SFAの考え方と技法を理解する	① ②			授業を振り返り、小テストの備えをする。（120分）	授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。 ファイルを用意し、学修録を保存する。（120分）
8	「カウンセリング総合演習」 ・総合演習（ミニカウンセリング）	① ②			授業を振り返り、小テストの備えをする。（120分）	授業の内容を実生活の中で、出来るだけ実践してみる。 ファイルを用意し、学修録を保存する。（120分）

評価基準・評価方法	
評価基準：看護活動において、患者や家族の精神面でのケアを担える知識、理解、思考、判断、実践力 評価方法：毎回の学修録　８０％　　授業態度２０％	
使用教科書	
特に利用しない。担当教員が資料を用意する	
参考図書	
看護カウンセリング（医学書院：広瀬寛子著）はじめての傾聴術（ナツメ社；小宮昇著）解決志向ブリーフセラピー（ほんの森出版；森俊夫黒沢幸子著）ピア・サポートの社会学（晃洋書房；伊藤智樹著）	
課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	毎時間ごとに課題レポート（学修録）を課すことで学習内容の定着を目指す
備考	相談がある場合は、事前に連絡して場所と時間を設定。 個人的相談はメールにて対応可能（初回のみとし、2回目後は面談にて対応）

授業科目名		担当教員	
保健行政論		木林　勉	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 後学期	1単位(15時間)	講義・演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		木林勉（理学療法士）	

授業概要
保健行政論の学習では、我が国の人々の生活を支える様々な保健医療福祉制度の成り立ちを理解し、保健医療行政と社会保障制度の役割、意義及び展望について学習する。人間のライフサイクルに沿った保健医療福祉サービスの展開を学び、日々の看護活動に活かせるよう学習する。

学修の到達目標
①保険医療福祉行政のしくみや歴史について説明できる。 ②福祉と社会保障の対象・領域と制度・サービスについて説明できる。 ③人間のライフサイクルに沿った保健医療福祉サービスについて説明できる。 ④社会保障制度と看護活動の関連について説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	保健医療福祉行政の変遷	① ②			重要用語を調べる（120分）	講義の学びと感想をレポートする（120分）
2	保健医療福祉行政の制度	① ②			重要用語を調べる（120分）	講義の学びと感想をレポートする（120分）
3	保健医療福祉の実践、社会資源の活用方法	② ③ ④			重要用語を調べる（120分）	講義の学びと感想をレポートする（120分）
4	ライフサイクルと社会福祉－1　子ども・家庭と福祉及び障害児・者と福祉	② ③ ④			重要用語を調べる（120分）	講義の学びと感想をレポートする（120分）
5	ライフサイクルと社会福祉－2　難病対策、高齢者と福祉	② ③ ④			重要用語を調べる（120分）	講義の学びと感想をレポートする（120分）
6	ライフサイクルと社会福祉－３　公的扶助制度及び生活保護	② ③ ④			重要用語を調べる（120分）	講義の学びと感想をレポートする（120分）
7	社会保障制度と看護活動	② ③ ④			重要用語を調べる（120分）	講義の学びと感想をレポートする（120分）
8	社会保障制度と看護活動まとめ　小テスト	② ③ ④			重要用語を調べる（120分）	講義の学びと感想をレポートする（120分）
	試験：定期試験またはレポート					

評価基準・評価方法
授業態度・課題40%、試験60%の結果から総合的に評価する。
使用教科書
配布プリントを使用する。
参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	提出された 課題レポートは採点して返却します。レポートが不十分だった場合、コメントを付けて再提出を求めることもあります。学生レポートの模範例を紹介することもあります。課題に準じた重要事項や関連内容を教員がフィードバックとしての解説をします。また、課題が不十分な場合はコメントをして再提出を求めることもあります。
備考	

授業科目名		担当教員	
保健統計学		紀ノ定　保臣	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	1単位(15時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。			

授業概要

医療や看護の現場では、EBM/EBN（科学的根拠に基づく医療／看護の実践）が求められる。また、科学的根拠を示すためには、多くの診療・看護症例を対象にデータに基づいて統計学的に処理、分析、結果をまとめる能力が不可欠となる。本講義では、EBNの実践に必要な統計学の理解と活用について学び、理解を深める。また、診療・看護現場での活用を目標に、EXCELを用いたデータの収集・グラフ化・分析と仮説検定手法を講義する。

学修の到達目標

看護に関する統計データの取り扱いとEBNの実践に活用するための統計手法を理解する。
知識：①医療・看護現場で発生する種々のデータを収集・分析・処理・活用を実践できる能力を身につける。
技術：②医療・看護現場で発生するデータの分析結果を判断・検定し、データが示す意味を正しく理解し、報告書にまとめる能力を身につける。
態度：③医療・看護の現場で収集したデータは、医療従事者と患者が共に共有し、効果的な医療・看護の提供に貢献できるものでなければならない。患者が理解しやすい内容で説明できる姿勢に尽力する。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	EBM/EBNとはなにか，統計学を学ぶ必要性等について，事例を挙げて解説する。 統計学入門：統計学における基本的なものの考え方と活用手法を理解する。	① ③	紀ノ定	講義	教科書の内容を事前に理解しておくこと(120分)	配付資料を充分に理解することを求める（120分）
2	統計データのまとめ方：データの種類，統計データのまとめ方，表やグラフなどによる図示を理解する。 確率分布と推定：確率的な現象について，その現象を記述あるいは推定する手法について理解する。	② ③	紀ノ定	講義	教科書の内容を事前に理解しておくこと(120分)	配付資料を充分に理解することを求める（120分）
3	確率分布と推定：確率的な現象について，その現象を記述あるいは推定する手法の活用を理解する。 統計学的検定：帰無仮説，二種類の過誤，仮説検定を理解し，代表的な検定手法の利用方法を学ぶ。	① ②	紀ノ定	講義	教科書の内容を事前に理解しておくこと(120分)	配付資料を充分に理解することを求める（120分）
4	統計学的検定：帰無仮説，二種類の過誤，仮説検定を理解し，代表的な検定手法の活用方法を学ぶ。 回帰と関連：観察項目間にある因果関係や相関関係を数式で表現する手法について理解する。	① ②	紀ノ定	講義	教科書の内容を事前に理解しておくこと(120分)	配付資料を充分に理解することを求める（120分）
5	回帰と関連：観察項目間にある因果関係や相関関係を数式で表現する手法の活用方法を理解する。 疫学と統計学：科学的な根拠に基づいて実施される医療や看護を支える疫学と統計学の役割を理解する。	① ② ③	紀ノ定	講義	教科書の内容を事前に理解しておくこと(120分)	配付資料を充分に理解することを求める（120分）
6	感度・特異度の理解を深め，医療・看護現場で実際に利用できる能力を獲得する。 有意差検定の理解を深め，医療・看護現場で実際に利用できる能力を獲得する。	① ②	紀ノ定	講義	教科書の内容を事前に理解しておくこと(120分)	配付資料を充分に理解することを求める（120分）
7	因果関係や相関関係にあるデータを用いて，効果的にレポートが作成できる能力を獲得する。 保健統計の実際：官公庁が公表する各種統計や健康指標がどのように使用されているかを理解する。	① ②	紀ノ定	講義	教科書の内容を事前に理解しておくこと(120分)	配付資料を充分に理解することを求める（120分）
8	医療・看護現場でのデータの収集，観察項目の整理，分析，評価，レポート作成の一連の行為を実践する。	① ② ③	紀ノ定	講義	教科書の内容を事前に理解しておくこと(120分)	配付資料を充分に理解することを求める（120分）
	定期試験					

評価基準・評価方法
基本的には試験を実施し、評価する（100%）。

使用教科書
系統看護学講座　基礎分野「統計学」第７版　/ 高木晴良.--医学書院, 2021年2月, 978-4-260-02189-0

参考図書
特に指定しないが、EXCELの操作解説書に目を通しておくことが望ましい。また、より実践的な知識の習得を目指していることより、当日配布の資料を多用する予定である。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	基本はテストを実施し、その成績で評価する。また、成績が基準点に達しない場合には、追試試験または、レポートの提出を求める。
備考	講義時間に比して、授業内容はボリュームがある。したがって、事前の予習が極めて重要となる。また、実践的な授業であるため、データの収集・分析・報告書作成能力やエクセルの活用スキルが求められる。

授業科目名		担当教員	
保健統計学		紀ノ定　保臣	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(15時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。			

授業概要

医療や看護の現場では、EBM/EBN（科学的根拠に基づく医療／看護の実践）が求められる。また、科学的根拠を示すためには、多くの診療・看護症例を対象にデータに基づいて統計学的に処理、分析、結果をまとめる能力が不可欠となる。本講義では、EBNの実践に必要な統計学の理解と活用について学び、理解を深める。また、診療・看護現場での活用を目標に、EXCELを用いたデータの収集・グラフ化・分析と仮説検定手法を講義する。このため、エクセルを活用したデータの分析と結果の可視化方法に慣れていることを期待する。

学修の到達目標

看護に関する統計データの取り扱いとEBNの実践に活用するための統計手法を理解する。
知識：①医療・看護現場で発生する種々のデータを収集・分析・処理・活用を実践できる能力を身につける。
技術：②医療・看護現場で発生するデータの分析結果を判断・検定し、データが示す意味を正しく理解し、報告書にまとめる能力を身につける。
態度：③医療・看護の現場で収集したデータは、医療従事者と患者が共に共有し、効果的な医療・看護の提供に貢献できるものでなければならない。患者が理解しやすい内容で説明できる姿勢に尽力する。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	EBM/EBNとはなにか，統計学を学ぶ必要性等について，事例を挙げて解説する。 統計学入門：統計学における基本的なものの考え方と活用手法を理解する。	① ③	紀ノ定	講義	教科書の内容を事前に理解しておくこと(120分)	配付資料を充分に理解することを求める（120分）
2	統計データのまとめ方：データの種類，統計データのまとめ方，表やグラフなどによる図示を理解する。 確率分布と推定：確率的な現象について，その現象を記述あるいは推定する手法について理解する。	② ③	紀ノ定	講義	教科書の内容を事前に理解しておくこと(120分)	配付資料を充分に理解することを求める（120分）
3	確率分布と推定：確率的な現象について，その現象を記述あるいは推定する手法の活用を理解する。 統計学的検定：帰無仮説，二種類の過誤，仮説検定を理解し，代表的な検定手法の利用方法を学ぶ。	① ②	紀ノ定	講義	教科書の内容を事前に理解しておくこと(120分)	配付資料を充分に理解することを求める（120分）
4	統計学的検定：帰無仮説，二種類の過誤，仮説検定を理解し，代表的な検定手法の活用方法を学ぶ。 回帰と関連：観察項目間にある因果関係や相関関係を数式で表現する手法について理解する。	① ②	紀ノ定	講義	教科書の内容を事前に理解しておくこと(120分)	配付資料を充分に理解することを求める（120分）
5	回帰と関連：観察項目間にある因果関係や相関関係を数式で表現する手法の活用方法を理解する。 疫学と統計学：科学的な根拠に基づいて実施される医療や看護を支える疫学と統計学の役割を理解する。	① ② ③	紀ノ定	講義	教科書の内容を事前に理解しておくこと(120分)	配付資料を充分に理解することを求める（120分）
6	感度・特異度の理解を深め，医療・看護現場で実際に利用できる能力を獲得する。 有意差検定の理解を深め，医療・看護現場で実際に利用できる能力を獲得する。	① ②	紀ノ定	講義	教科書の内容を事前に理解しておくこと(120分)	配付資料を充分に理解することを求める（120分）
7	因果関係や相関関係にあるデータを用いて，効果的にレポートが作成できる能力を獲得する。 保健統計の実際：官公庁が公表する各種統計や健康指標がどのように使用されているかを理解する。	① ②	紀ノ定	講義	教科書の内容を事前に理解しておくこと(120分)	配付資料を充分に理解することを求める（120分）
8	医療・看護現場でのデータの収集，観察項目の整理，分析，評価，レポート作成の一連の行為を実践する。	① ② ③	紀ノ定	講義	教科書の内容を事前に理解しておくこと(120分)	配付資料を充分に理解することを求める（120分）
	定期試験					

評価基準・評価方法
基本的には試験を実施し、評価する（100%）。

使用教科書
系統看護学講座　基礎分野「統計学」第７版　/ 高木晴良.--医学書院, 2021年2月, 978-4-260-02189-0

参考図書
特に指定しないが、EXCELの操作解説書に目を通しておくことが望ましい。また、より実践的な知識の習得を目指していることより、当日配布の資料を多用する予定である。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	基本はテストを実施し、その成績で評価する。また、成績が基準点に達しない場合には、追試試験または、レポートの提出を求める。
備考	講義時間に比して、授業内容はボリュームがある。したがって、事前の予習が極めて重要となる。また、実践的な授業であるため、データの収集・分析・報告書作成能力やエクセルの活用スキルが求められる。

授業科目名		担当教員	
看護と法律		鷲見　高光	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 後学期	1単位(15時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		鷲見高光（医療法人・社会福祉法人勤務、介護支援専門員）	

授業概要
法令に関する一般的事項を学んだ後、看護関係法令の基本及び厚生行政のしくみを学び、保健師助産師看護師法をはじめとする看護師業務に関係の深い関係法令を系統だてて学ぶ。

学修の到達目標
①看護師として必要な医療関係、福祉関係の法令について学び、理解を深める。 ②患者さんを取り巻く法令を理解し支援する能力を身につけることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	チーム医療と法の構造、理念と医療安全、保健師助産師看護師法	① ②			保健師助産師看護師法を重点的に学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
2	医療専門職に関する法律、福祉専門職に関する法律	① ②			医療専門職について学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
3	物に関する法律、医療法等	① ②			医療法を重点的に学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
4	医薬品医療機器総合機構法～高齢者医療確保法	① ②			感染症法等を重点的に学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
5	介護保険法～特定Ｂ型肝炎感染者給付規制法	① ②			介護保険法を重点的に学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
6	生活保護法～難病医療法	① ②			障害者関係の法を学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
7	医療政策に関する法律～社会的弱者対策	① ②			講義予定を全般的に学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
8	労働政策に関する法律～医療過誤	① ②			医療過誤を重点的に学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
	到達目標は終了時に達成する。 試験：定期試験又はレポート					

評価基準・評価方法
授業態度　20%、試験（定期試験又はレポート）　80%の結果から総合的に評価する。
使用教科書
ﾅｰｼﾝｸﾞ・ｸﾞﾗﾌｨｶ健康支援と社会保障④看護をめぐる法と制度 / 株式会社ﾒﾃﾞｨｶ出版，2023年，978-4-8404-7838-0
参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	直後の講義にて問題点を説明、解説などする。最終試験にて指摘がある場合は、担当教官に依頼する場合もある。
備考	質問は講義時間中や終了後に受け付ける。

授業科目名		担当教員	
看護と法律		皮野　さよみ	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 後学期	1単位(15時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		皮野　さよみ（看護師）	

授 業 概 要
法令に関する一般的事項を学んだ後、看護関係法令の基本及び厚生行政のしくみを学び、保健師助産師看護師法をはじめとする看護師業務に関係の深い関係法令を系統だてて学ぶ。

学 修 の 到 達 目 標
①看護師として必要な医療関係、福祉関係の法令について学び、理解を深める。 ②患者さんを取り巻く法令を理解し支援する能力を身につけることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	チーム医療と法の構造、理念と医療安全、保健師助産師看護師法	① ②	皮野	講義	保健師助産師看護師法を重点的に学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
2	医療専門職に関する法律、福祉専門職に関する法律	① ②	皮野	講義	医療専門職について学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
3	物に関する法律、医療法等	① ②	皮野	講義	医療法を重点的に学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
4	医薬品医療機器総合機構法～高齢者医療確保法	① ②	皮野	講義	感染症法等を重点的に学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
5	介護保険法～特定Ｂ型肝炎感染者給付規制法	① ②	皮野	講義	介護保険法を重点的に学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
6	生活保護法～難病医療法	① ②	皮野	講義	障害者関係の法を学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
7	医療政策に関する法律～社会的弱者対策	① ②	皮野	講義	医療政策を全般的に学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
8	労働政策に関する法律～医療過誤	① ②	皮野	講義	医療過誤を重点的に学習（120分）	講義内容全般に学習（120分）
	試験：筆記試験又はレポート					

評価基準・評価方法
試験（筆記試験又はレポート）80%，授業態度20%
使用教科書
ﾅｰｼﾝｸﾞ・ｸﾞﾗﾌｨｶ，健康支援と社会保障④看護をめぐる法と制度 / 株式会社ﾒﾃﾞｨｶ出版，2023年，978-4-8404-7838-0
参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	次のの講義時に説明・解説等を行う。
備考	質問は講義時間中や終了後に受け付ける。

授業科目名		担当教員	
障害者と福祉		加藤　清人	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 後学期	1単位(15時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）	

授業概要
障害者と福祉の学習では、障害のある人が地域において人間的な自立生活が可能な福祉がどのようなものでなければならないかを学ぶ。具体的には、障害のある人の生活実態や法制度を学びながら福祉サービスの不足と障害のある人の潜在能力の不足の両側面の統一的視点に基づいて学習を進めていく。各講義において、それぞれの要点整理をする時間を設定し、学習理解を深める。

学修の到達目標
①障害福祉に関する基礎を学び、障害者を取り巻く地域環境について自己の考えも踏まえ説明することができる。 ②これから必要とされる地域支援について自己の考えを述べることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	障害者福祉の歴史	①			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
2	障害者福祉で用いられる思想	①			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
3	障害者福祉の制度体系	①			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
4	障害者の自立生活と自立生活支援	①			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
5	ノーマライゼーションの保障と課題	②			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
6	リハビリテーションの現状と課題	②			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
7	福祉領域におけるリハビリテーションの実際	②			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
8	障害者福祉の課題と展望	②			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
	レポート課題					

評価基準・評価方法
レポート課題（100%）で評価する。文章構成や自己の考えを述べているかなどについても評価対象とする。
使用教科書
参考図書
講義の際に適宜ビデオと資料を活用する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	最終講義時に全体にむけてフィードバックを行う。
備考	毎回、授業開始時に資料を配布する。 主体的に取り組むこと。質問は随時受け付ける。

授業科目名		担当教員	
共生社会と福祉		加藤　清人	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	1単位(15時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		加藤清人（作業療法士）	

授業概要
共生社会と福祉の学習では、少子高齢社会による人口減少が進行してきているなか、福祉へのニーズも多様化してきている。障害のある人が地域において人間的な自立生活が可能な福祉がどのようなものでなければならないかを学ぶ。また、地域包括支援体制を構築すること、支え合う環境整備や地域住民の参画といった誰もが支え合う共生社会の実現についても学ぶ。各講義において、それぞれの要点整理をする時間を設定し、学習理解を深める。

学修の到達目標
①障害福祉に関する基礎を学び、障害者を取り巻く地域環境について自己の考えも踏まえ説明することができる。 ②地域包括ケアシステムと法制度の概略について説明することができる。 ②これから必要とされる地域支援について自己の考えを述べることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	障害者福祉で用いられる思想（１）	①			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
2	障害者福祉で用いられる思想（２）	① ②			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
3	地域包括ケアシステムとは	②			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
4	共生社会にむけたまちづくり	① ② ③			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
5	障害者福祉（１）障害者総合支援法	②			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
6	障害者福祉（２）共生社会の実現にむけて	②			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
7	高齢者福祉・介護保険制度	② ③			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
8	リハビリテーションの現状と課題	③			配布した資料を事前に目を通す（120分）	講義内容の概要と自身の見解をまとめる（120分）
	レポート課題					

評価基準・評価方法
レポート課題（100%）で評価する。文章構成や自己の考えを述べているかなどについても評価対象とする。
使用教科書
参考図書
講義の際に適宜ビデオと資料を活用する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	最終講義時に全体にむけてフィードバックを行う。
備考	毎回、授業開始時に資料を配布する。 主体的に取り組むこと。質問は随時受け付ける。

授業科目名		担当教員	
医療と経済		塩野　美里	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 後学期	1単位(15時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		医療法人勤務	

授 業 概 要
経済学・行動経済学・経営学・医療サービス、TQM（総合的質経営）の観点から医療について考えることで、医療を多角的にとらえる視点を養い、医療経営や医療の質向上のための知識・スキルを習得する。

学 修 の 到 達 目 標
①日本の医療がおかれている現状と今後の展望について理解し、自分の言葉で説明できる。 ②経済学・行動経済学・経営学の観点から、医療の特性について、自分の言葉で説明できる。 ③医療経営の質向上のための具体的な提案ができる。 ④サービス業の観点から、医療の特性について、自分の言葉で説明できる。 ⑤医療の質向上のための具体的な提案ができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オリエンテーション、講義の進め方と成績評価の説明。日本の医療の現状について考える。	①			日本の医療の現状について考えてくる（120分）	講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する（120分）
2	日本の医療のこれからについて考える。	②			日本の医療のこれからについて考えてくる（120分）	講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する（120分）
3	経済学の観点から医療について考える。	②			経済学の観点から医療について考えてくる（120分）	講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する（120分）
4	行動経済学の観点から医療について考える。	②			行動経済学の観点から医療について考えてくる（120分）	講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する（120分）
5	経営学の観点から医療について考える。	③			経営学の観点から医療について考えてくる（120分）	講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する（120分）
6	医療組織の経営分析の手法を学び、経営の質向上のための取組みについて考える。	④			経営分析の観点から医療について考えてくる（120分）	講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する（120分）
7	サービス業として医療をとらえる意義や，患者満足度・職員満足度の重要性や満足度向上の取組みについて考える	⑤			サービス業の観点から医療について考えてくる（120分）	講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する（120分）
8	TQM（総合的質経営）の重要性や取組みについて 考える	⑤			医療サービスの質向上の観点から医療について考えてくる（120分）	講義で学んだ内容を自分の言葉で文章化する（120分）
	定期試験　課題					

評価基準・評価方法	
課題レポート（100%）を総合的に評価する。定期試験は実施しない。	
使用教科書	
なし	
参考図書	
適宜講義にて紹介する。	
課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	事前課題レポートについて、全体の総評コメントを講義にて行う。
備考	

授業科目名		担当教員	
基礎看護技術Ⅲ		長屋　江見・眞田　正世・佐々木　智恵・坂本　裕子　(代表教員　長屋　江見)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	2単位(45時間)	講義･演習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		長屋江見・眞田正世・佐々木智恵・坂本裕子（看護師）	

授 業 概 要
診療の補助技術である浣腸・導尿・吸引・薬物療法・静脈血採血を学ぶ。演習において対象者への援助を行う中で、侵襲に伴う負担や羞恥心に配慮した技術と態度を学ぶ。

学 修 の 到 達 目 標
①看護者が実践する看護技術の基本が実施できる。 ②看護技術の実施にあたり、解剖生理を理解し根拠となる知識が説明できる。 ③対象者への侵襲に伴う負担や羞恥心の配慮を考えた上で看護技術が実施できる。 ④浣腸・導尿・吸引・薬物療法・静脈血採血についての看護技術が実施できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	浣腸・摘便	① ②	佐々木	講義	教科書を読み、疑問点を明確にする60分	講義資料の内容を見直し、まとめる60分
2	浣腸の実際	① ② ③ ④	佐々木 眞田 長屋 坂本	演習	視聴教材を使用し、知識を深める120分	
3	浣腸の実際	① ② ③ ④	佐々木 眞田 長屋 坂本	演習		演習で学んだこと、今後の課題について振り返る120分
4	導尿	① ②	佐々木	講義	教科書を読み、疑問点を明確にする 120分	講義資料の内容を見直し、まとめる60分
5	導尿の実際	① ② ③ ④	佐々木 長屋 坂本	演習	視聴教材を使用し、知識を深める180分	
6	導尿の実際	① ② ③ ④	佐々木 長屋 坂本	演習		演習で学んだこと、今後の課題について振り返る120分
7	吸引・酸素療法	① ②	佐々木	講義	教科書を読み、疑問点を明確にする60分	講義資料の内容を見直し、まとめる60分
8	吸引・酸素療法の実際	① ② ③ ④	佐々木 長屋 坂本	演習	視聴教材を使用し、知識を深める180分	
9	吸引・酸素療法の実際	① ② ③ ④	佐々木 長屋 坂本	演習		演習で学んだこと、今後の課題について振り返る120分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	薬物療法における基礎知識	① ②	長屋	講義	教科書をよく読み疑問を明確にする60分	講義資料の内容を見直し、まとめる60分
11	注射器の取り扱い、針刺し事故防止	① ②	長屋	講義	教科書を読み、疑問点を明確にする60分	講義資料の内容を見直し、まとめる60分
12	静脈血採血の実施方法（血液検体の取り扱い）	① ②	長屋	講義	教科書を読み、疑問点を明確にする60分	講義資料の内容を見直し、まとめる60分
13	静脈血採血の実際	① ② ③ ④	長屋 眞田 佐々木 坂本	演習	視聴教材を使用し、知識を深める180分	
14	静脈血採血の実際	① ② ③ ④	長屋 眞田 佐々木 坂本	演習		演習で学んだこと、今後の課題について振り返る120分
15	注射適応の援助（筋肉内注射・皮下注射・皮内注射）	① ②	長屋	講義	教科書を読み、疑問点を明確にする 120分	
16	注射適応の援助（筋肉内注射・皮下注射・皮内注射）	① ②	長屋	講義		講義資料の内容を見直し、まとめる 120分
17	筋肉内注射の実際	① ② ③ ④	長屋 眞田 佐々木 坂本	演習	視聴教材を使用し、知識を深める180分	
18	筋肉内注射の実際	① ② ③ ④	長屋 眞田 佐々木 坂本	演習		
19	筋肉内注射の実際	① ② ③ ④	長屋 眞田 佐々木 坂本	演習		演習で学んだこと、今後の課題について振り返る120分
20	静脈内注射・点滴静脈内注射	① ②	長屋	講義	教科書を読み、疑問点を明確にする 120分	
21	静脈内注射・点滴静脈内注射	① ②	長屋	講義		講義資料の内容を見直し、まとめる 120分
22	静脈内注射・点滴静脈内注射の実際	① ② ③ ④	長屋 佐々木 坂本	演習	視聴教材を使用し、知識を深める120分	
23	静脈内注射・点滴静脈内注射の実際	① ② ③ ④	長屋 佐々木 坂本	演習		演習で学んだこと、今後の課題について振り返る120分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	試験（筆記）					

評価基準・評価方法
認知領域（知識）：筆記試験 50% 精神運動・情意領域（技術・態度）：態度10%　技術試験　40%

使用教科書
系統看護学講座専門分野Ⅰ　基礎看護学（3）　基礎看護技術Ⅱ　/ 任 和子他.--第18版--医学書院，2022，978-4-260-04212-3

参考図書
・岡庭豊：看護技術がみえるvol.2臨床看護技術，メディックメディア ・竹内修二・松永保子編：解剖生理の視点でわかる看護技術の根拠Q&A，照林社

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	各講義時にレポートに対する内容説明や、小テストの解答・説明を行っていく
備考	・欠課した場合は、必ず担当教員に申し出て指示を仰ぐ。 ・課題・演習に関して、講義・演習時に説明する。 ・演習前の課題等を行っていない又は確認ができない場合は見学とする。 ・演習前に身だしなみが整ってない場合（髪型・爪・服装等）は見学とする。 ・質問には次回の授業で回答し、フィードバックする。 ・技術については技術試験を行う。実施する内容は適宜説明する。 ・講義や演習内容・担当者は変更することがある。

授業科目名		担当教員	
基礎看護技術Ⅳ		眞田　正世・長屋　江見・佐々木　智恵・坂本　裕子　(代表教員　眞田　正世)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	2単位(30時間)	講義･演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ (2) (3) (4) の達成に寄与している。		眞田正世・長屋江見・佐々木智恵・坂本裕子（看護師）	

授 業 概 要
事例を通じて看護の対象の健康段階や健康障害に応じた看護の展開方法（情報収集の方法、情報の分析・解釈、関連図の作成、看護計画立案・実施、看護計画の評価・修正）を学ぶ。看護計画の実施の演習に当たっては、安全・安楽・自立を考慮し、メンバーの一員としての役割を理解し、協調性や責任ある行動がとれるようにする。

学 修 の 到 達 目 標
①クリティカルシンキング・看護過程の意義、事例展開の目的・方法を説明できる。 ②事例をもとに、科学的根拠に基づいて分析し、看護問題を抽出することができる。 ③対象に応じた看護計画・日常生活の援助計画を立案できる。 ④日常生活援助技術を対象に応じて安全・安楽に実施できる。 ⑤実施した援助を振り返り評価・修正できる。 ⑥メンバーの一員としての役割を理解し、協調性や責任ある行動がとれる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	クリティカルシンキング・看護過程の意義	①	眞田	講義	事例患者の疾患について解剖生理・病態生理をまとめ240分	
2	看護過程の構成要素 ヘンダーソンの看護理論 　　アセスメント（情報収集）	① ②	眞田	講義		事例の対象疾患や治療等の学習をする240分
3	アセスメント（分析） 　常在条件　病理的状態	① ②	眞田	講義		常在条件・病理的状態を記入する240分
4	アセスメント（分析） 　基本的ニード	① ②	眞田	講義		常在条件・病理的状態を記入する240分
5	アセスメント（分析・統合） 　情報の関連（関連図）	① ② ③	眞田	講義	常在条件・病理的状態を提出する	基本的欲求の状態を記入する　240分
6	アセスメント（分析・統合） 　情報の関連（関連図）	① ② ③	眞田	講義		基本的欲求の状態を記入する　240分
7	看護問題の明確化	① ② ③	眞田	講義		基本的欲求の状態を修正する　240分
8	看護問題の明確化　優先順位の検討	① ② ③	眞田	講義	分析した結果から看護問題の抽出をする　90分 基本的欲求の状態を提出する	分析した結果から看護問題の抽出をする　240分
9	看護計画の立案 　看護目標・評価日の設定	① ② ③	眞田	講義		看護問題を修正する240分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	看護計画立案：OP、TP、EP	① ② ③	長屋	講義	看護計画を立案する 90分 看護問題の抽出を提出する	看護計画を立案する 援助計画を立案する 240分
11	看護計画立案：OP、TP、EP	① ② ③	長屋	講義	看護計画を提出する 援助計画を提出する	看護計画を修正する 援助計画を修正する 240分
12	看護計画の実施・記録	① ② ③	長屋	講義		看護計画の加筆・修正をする　240分
13	看護計画の評価・修正	① ④ ⑤	長屋	講義		看護計画の加筆・修正をする　240分
14	看護活動の具体的方法：援助計画（VS）	① ④ ⑤ ⑥	長屋 眞田 佐々木 坂本	演習		看護計画の評価をする　240分
15	看護活動の具体的方法：援助計画（VS）	① ④ ⑤ ⑥	長屋 眞田 佐々木 坂本	演習		看護計画の評価・修正をする　240分

評価基準・評価方法
認知領域（知識）：課題レポート　80％ 精神運動・情意領域（技術・態度）：最終レポート20％

使用教科書
看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 / 秋葉公子他.--第4版--ヌーヴェルヒロカワ，2016年，978-4-86174-056-5

参考図書
・茂野香おる他：系統看護学講座専門分野Ⅰ　基礎看護学（2）基礎看護技術Ⅰ，医学書院 ・任 和子他：系統看護学講座専門分野Ⅰ　基礎看護学（3）基礎看護技術Ⅱ，医学書院

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	レポート・演習に関して、講義・演習時に説明を行う。 質問には次回の授業で回答し、フィードバックする。
備考	・課題・演習に関して、講義・演習時に説明する。 ・質問には次回の授業で回答し、フィードバックする。 ・講義や演習内容・担当者は変更することがある。

授業科目名		担当教員	
フィジカルアセスメントⅡ		眞田　正世・河合　克尚・長屋　江見・佐々木　智恵・坂本　裕子　(代表教員　眞田　正世)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(30時間)	講義･演習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		眞田正世（看護師）・河合克尚（理学療法士）・長屋江見・佐々木智恵・坂本裕子（看護師）	

授業概要

「フィジカルアセスメントⅠ」で学んだフィジカルアセスメントの知識・観察技術を基盤とし、看護の対象者の健康状態をアセスメントする方法を、より実践的に学ぶ。特に症状をもつ成人期の患者へのアセスメント方法について理解し、実践できるようにする。さまざまな健康障害とレベルにある人に適切な看護を行うためのフィジカルアセスメントに必要な技術を習得する。

学修の到達目標

①フィジカルアセスメント・フィジカルイグザミネーションそれぞれの意義と必要性を理解できる。
②フィジカルイグザミネーションに必要な基本的技術を習得することができる。
③フィジカルアセスメントに必要な基本的技術を習得することができる。
④フィジカルイグザミネーションで情報から、フィジカルアセスメントができ、対象の健康状態を知ることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	身体機能別のフィジカルアセスメント 呼吸器系と循環器系のフィジカルアセスメント 呼吸系のフィジカルイグザミネーション	① ②	眞田	講義	呼吸器系の解剖生理学　60分	呼吸器系のフィジカルアセスメント 30分
2	身体機能別のフィジカルアセスメント 循環器系、消化器系のフィジカルイグザミネーション	① ②	眞田	講義	循環器系の解剖生理学　60分	循環器系のフィジカルアセスメント 30分
3	呼吸器・循環器・消化器のフィジカルイグザミネーション	① ② ③ ④	眞田 長屋 佐々木 坂本	演習	呼吸器系・循環器系・消化器系フィジカルイグザミネーション　60分	呼吸器系のフィジカルイグザミネーションの実際　30分
4	呼吸器・循環器・消化器のフィジカルイグザミネーション	① ② ③ ④	眞田 長屋 佐々木 坂本	演習	呼吸器・循環器・消化器系フィジカルイグザミネーション 30分	循環器系・消化器系フィジカルイグザミネーションの実際 30分
5	呼吸系・循環系・消化器系のフィジカルアセスメント（異常）	① ②	眞田	講義	循環器系解剖生理学　閉塞性肺疾患・拘束性肺疾患・心不全・弁の異常　60分	呼吸器・循環器フィジカルアセスメント　30分
6	感覚系・中枢神経系のフィジカルアセスメント	① ②	眞田	講義	脳神経・感覚器系の解剖生理学　呼吸器のフィジカルアセスメント　60分	脳神経・感覚器系のフィジカルアセスメント　30分
7	呼吸器系・循環器系・消化器系のフィジカルアセスメント（正常と異常）	① ② ③ ④	眞田 長屋 佐々木 坂本	演習	呼吸器・循環器・脳神経・感覚器系のフィジカルイグザミネーション　30分	呼吸器・循環器・脳神経・感覚器系のフィジカルイグザミネーションの実際 30分
8	呼吸器系・循環器系・消化器系のフィジカルアセスメント（正常と異常）	① ② ③ ④	眞田 長屋 佐々木 坂本	演習	呼吸器・循環器・脳神経・感覚器系のフィジカルイグザミネーション　30分	呼吸器・循環器・脳神経・感覚器系のフィジカルイグザミネーションの実際 30分
9	運動系のフィジカルアセスメント	① ②	河合	講義	運動器系の解剖生理学　30分	運動器系のフィジカルアセスメント 30分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	運動系のフィジカルアセスメント	① ② ③ ④	河合	演習	運動器系のフィジカルイグザミネーション　30分	運動器系のフィジカルイグザミネーションの実際　　30分
11	主な症状のアセスメント	① ②	眞田	講義		症状徴候のアセスメント　30分
12	主な症状のアセスメント	① ②	眞田	講義		症状徴候のアセスメント　30分
13	事例に沿ったアセスメント	① ②	眞田	講義	事例に沿ったアセスメント　30分	事例に沿ったアセスメント　30分
14	事例に沿ったアセスメント	① ②	眞田	講義	事例に沿ったアセスメント　30分	事例に沿ったアセスメント　30分
15	総合技術演習	① ② ③ ④	眞田 長屋 佐々木 坂本	演習	身体機能別フィジカルイグザミネーション　90分	
	試験（筆記）					

評価基準・評価方法

認知領域（知識）：　筆記試験50%
精神運動・情意領域（技術・態度）：　演習レポート10%　技術試験40%

使用教科書

フィジカルアセスメントガイドブック目と手でここまでわかる / 山内豊明.--第2版--医学書院，2019年，978-4-260-01384-0
系統看護学講座専門分野Ⅰ　基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ / 茂野香おる他.--第18版--医学書院，2022年，978-4-260-04211-6

参考図書

・日比原重明：フィジカルアセスメントナースに必要な診断の知識と技術　第4版　医学書院　2006年
・藤崎　都：フィジカルアセスメント完全ガイド　第2版　Gakken　2012年

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	質問等については、次の講義時に説明し、フィードバックする
備考	・欠課した場合は、必ず担当教員に申し出て指示を仰ぐ。 ・課題・演習に関して、講義・演習時に説明する。 ・演習前の課題等を行っていない又は確認ができない場合は見学とする。 ・演習前に身だしなみが整ってない場合（髪型・爪・服装等）は見学とする。 ・質問には次回の授業で回答し、フィードバックする。 ・技術については技術試験を行う。実施する内容は適宜説明する。 ・講義や演習内容・担当者は変更することがある。

授業科目名		担当教員	
基礎看護学実習Ⅱ		眞田　正世・長屋　江見・佐々木　智恵・坂本　裕子　(代表教員　眞田　正世)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	3単位(90時間)	実習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		眞田正世・長屋江見・佐々木智恵・坂本裕子・他（看護師）	

授 業 概 要
受け持ち患者を１名持ち、その患者のアセスメント、看護問題の抽出、看護計画の立案、実施、評価までの一連の過程を学ぶ。臨地実習における看護学生としての学習態度を学ぶ。臨地実習で学んだ学習内容を学内で確認し、一連の看護過程を振り返る。

学 修 の 到 達 目 標
①対象の全体像を把握するための情報を収集することができる ②科学的根拠に基づいたアセスメントが実施できる ③対象の看護問題が抽出できる ④対象の個別性を考慮した看護計画を立案することができる ⑤看護計画に基づいた援助を実施することができる ⑥看護計画の評価・修正ができる ⑦対象で展開した看護技術を学内で評価し不足部分を補うことができる ⑧臨地実習で学んだ学習内容を学内で確認し、一連の看護過程を説明できる ⑨看護学生として必要な責任ある行動ができ周囲との関係を築くことができる

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	Ⅰ．実習目的					
	受け持ち患者の看護過程の展開を行うとともに、看護学生としての実習態度を学ぶ					
	Ⅱ．実習目標					
	1.受け持ち患者のアセスメントができる 2.科学的根拠に基づいたアセスメントから看護問題の抽出ができる					
	3.受け持ち患者の個別性を考慮した看護計画を立案することができる 4.看護計画に基づいた援助を実施することができる					
	5.看護計画の評価・修正ができる 6.援助計画を立案し、実施・評価・修正ができる					
	7.看護学生として責任ある行動ができる 8.臨地実習で学んだ学習内容を学内で確認し、評価修正することができる 9.対象に展開した看護技術を評価し学内で不足部分を補うことができる					
	Ⅲ．実習方法					
	1.実習単位：3単位　90時間 2.実習時間：7.5時間×12日間 3.実習施設：平野総合病院、岩砂病院・岩砂マタニティ、関中央病院、岐阜清流病院、各務原リハビリテーション病院、山内ホスピタル、揖斐厚生病院					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	4. その他 1）事前に学内でオリエンテーションを受け、事前学習および看護技術練習等を行う 2）1グループ2～6人のグループに分かれ各病棟で実習を行う					
	3）原則として、学生1～2名で患者1名を受け持ち、看護過程の展開を行う 4）各病棟において毎日ショートカンファレンスを行い、実習内容の共有や疑問等の解決を図る 5）学内の演習については指導教員の指示に従う					

評価基準・評価方法
目標達成度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。

使用教科書

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	実習記録の添削と指導および技術の指導に含める。
備考	履修前提条件：1年次の専門基礎科目全て、看護学概論、基礎看護f技術Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学実習Ⅰを単位修得済みであること。基礎看護技術Ⅲ・Ⅳ、フィジカルアセスメントを履修中であること。

授業科目名		担当教員	
地域・在宅看護活動論Ⅰ		越納　美和・堀　信宏・中川　幸代・清水　美智子・塚原　稔世・國枝　佳津弘　(代表教員　越納　美和)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	2単位(30時間)	講義･演習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3)看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4)の達成に寄与している。		越納美和（看護師）、堀信宏（理学療法士）、中川幸代（認定看護師）、清水美智子（認定看護師）、塚原　稔世（看護師）	

授業概要

地域においてしばしば見られる医療処置に伴う援助技術を必要とする在宅療養者の療養状況を理解し、各々の技術の実際を学習する。在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、CAPD、褥創ケア、在宅中心静脈栄養、吸引などについて、施設内での援助方法をもとに在宅で実践する場合の応用や緊急時の対処および家族への指導方法を中心に学習する。また、療養者の自立支援とQOLに向けた在宅リハビリテーションの特徴と住宅改修のポイントについて学習する。

学修の到達目標

①対象特性に応じたアセスメントの内容を説明できる。
②療養者の状況に応じた在宅看護の特異的なケアを具体を説明できる。
③在宅における療養者とその家族の生活上の課題を検討し、説明できる。
④在宅療養者とその家族の状況に応じた生活支援や医療管理の方法を検討し説明できる。
⑤療養者とその家族が望む在宅療養生活を実現するためのケアマネジメントの展開について検討し説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	訪問看護技術①家庭訪問・初回訪問	① ②	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（120分）
2	訪問看護技術②在宅療養における看護過程の展開技術・在宅におけるアセスメント技術	① ②	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（120分）
3	在宅療養生活を支える基本的な技術③ 環境整備	① ② ③	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（120分）
4	在宅療養生活を支える基本的な技術④ 生活リハビリテーション/在宅療養生活を支える基本的な技術④生活リハビリテーション	③ ④	堀	講義	「住環境・動作」に関わる範囲を確認しておきましょう ．（120分）	授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（120分）
5	在宅療養生活を支える基本的な技術⑤ 感染予防	① ② ③	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（120分）
6	在宅療養生活を支える基本的な技術⑥ ターミナルケア療養を支える看護技術（医療ケア）⑰疼痛管理	④ ⑤	塚原	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（120分）
7	日常生活を支える看護技術① 食生活/日常生活を支える看護技術② 排泄/日常生活を支える看護技術③ 清潔日常生活を支える看護技術④ 肢位の保持と移動	① ② ③ ④	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（120分）
8	日常生活を支える看護技術⑤ 呼吸/日常生活を支える看護技術⑥ 睡眠	① ② ③ ④	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（120分）
9	療養を支える看護技術（医療ケア）① 医療ケアの原理原則/療養を支える看護技術（医療ケア）②薬物療法療養を支える看護技術（医療ケア）③がん外来化学療法	② ③ ④	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	療養を支える看護技術（医療ケア）④排痰ケア/療養を支える看護技術（医療ケア）⑤ 気管カニューレ管理	② ③ ④ ⑤	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（120分）
11	療養を支える看護技術（医療ケア）⑥在宅酸素療法（HOT）/療養を支える看護技術（医療ケア）⑦在宅人工呼吸療法（HMV）：非侵襲的陽圧換気療法（NPPV）療養を支える看護技術（医療ケア）⑧在宅人工呼吸療法（HMV）：気管切開下間欠的陽圧換気療法（TPPV）	② ③ ④ ⑤	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（120分）
12	療養を支える看護技術（医療ケア）⑨ 排尿ケア/療養を支える看護技術（医療ケア）⑩ストーマ管理療養を支える看護技術（医療ケア）⑬ 褥瘡管理	① ② ③ ④ ⑤	清水	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（120分）
13	療養を支える看護技術（医療ケア）⑪ 在宅経管栄養法（HEN）/療養を支える看護技術（医療ケア）⑫ 輸液管理（在宅中心静脈栄養法、末梢静脈栄養法）	① ② ③ ④ ⑤	中川	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（120分）
14	療養を支える看護技術（多職種連携ケアの実際）⑬	① ② ③ ④ ⑤	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（120分）
15	在宅療養を支える健康危機・災害対策① 在宅療養における健康危機・災害対策在宅療養を支える健康危機・災害対策② 地域包括ケアシステムにおける健康危機・災害対策	① ② ③ ④ ⑤	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない箇所を書きだしておく。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（120分）
	定期試験					

評価基準・評価方法

定期試験（70%）、課題レポート、授業態度・参加度等（30%）

使用教科書

ナーシング･グラフィカ　地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術 / 臺　有桂・石田千絵・山下留理子　編.--第2版--ＭＣメディカ出版，2022年1月，978-4-8404-7544-0

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	各講師の質問等については、次の講義かクラスルームを通して説明し、フィードバックします。 課題レポートは採点して返却します。 課題レポートの内容が合格点に満たず不十分な場合はコメントをつけて返却し再提出を求めることがあります。
備考	

授業科目名		担当教員	
地域・在宅看護活動論Ⅱ		熊田　ますみ・松野　ゆかり・古田　弥生・岩瀬　桃子・三輪　陽子・飯沼　温美・山田　剛司　(代表教員　熊田　ますみ)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義･演習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		熊田ますみ（看護師）松野ゆかり（看護師）古田弥生（看護師）岩瀬桃子（看護師）三輪陽子（看護師）飯沼温美（看護師）山田剛司（看護師）	

授 業 概 要

地域包括ケアシステムの推進のなかで、病院だけではなく地域の施設・在宅において、終末期にある人の心身の変化とトータルペインを理解し、緩和ケアと終末期のケアにおける看護師の役割について学習する。また、スピリチュアルケアやグリーフケアについて議論し、自身の死生観を養うとともに、他職種連携の理解を深めることができる。

学 修 の 到 達 目 標

①死を迎えつつある対象及び家族の特徴を知り看護について説明できる。
②発達段階に合わせた緩和ケア・終末期看護について説明できる。
③在宅・地域における緩和ケア・終末期看護について説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	終末期とは	①	熊田	講義	終末期・緩和ケアとは何か調べまとめる。（30分）	授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（30分）
2	死を迎えるとは	①	熊田	講義	終末期を過ごす場所、環境、家族について自己の考えをまとめる。（30分）	授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（30分）
3	死について考える （僧侶より説法を受ける）	①	非常勤講師	講義		説法を受け死について考えたことをレポート用紙1枚にまとめる。（60分）
4	死生観	①	飯沼	講義	死生観とは何かを調べまとめる。（30分）	死生観について教科書・資料を基に講義内容を復習する。（30分）
5	身体的苦痛の緩和	①	飯沼	講義	終末期における身体的苦痛について調べまとめる。（30分）	身体的苦痛の緩和の看護について、教科書・資料を基に講義内容を復習する。（30分）
6	緩和ケアの考え方	①	飯沼	講義	緩和ケアとは何かを調べまとめる。（30分）	緩和ケアについて、教科書・資料を基に講義内容を復習する。（30分）
7	緩和ケアにおける薬物療法	①	飯沼	講義	緩和ケアにおける薬物療法について調べまとめる。（30分）	緩和ケアにおける薬物療法について、教科書・資料を基に講義内容を復習する。（30分）
8	小児期にある人の終末期看護	① ②	岩瀬	講義	こどもの終末期に関する新聞記事、手記、またはブログを読んで、内容と感想をレポート用紙1枚にまとめる。（30分）	講義中に示した関連する過去問題について時、答え合わせをして分からなかったところを調べる。（30分）
9	成人期にある人の終末期看護	① ②	古田	講義	成人期の終末期に関する新聞記事、手記、またはブログを読んで内容と感想をレポート用紙1枚にまとめる。（30分）	授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	老年期にある人の終末期看護	① ②	三輪	講義	高齢者の終末期について調べまとめる。（30分）	授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（30分）
11	地域の施設・在宅で死を迎える人の支援	① ② ③	山田	講義	教科書P.254～273の地域・在宅緩和ケアについて精読する。（30分）	授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（30分）
12	地域の施設・在宅で死を迎える人の支援	① ② ③	山田	講義	教科書P.254～273の地域・在宅緩和ケアについて精読する。（30分）	授業で学習した内容を、教科書・資料を用いて復習する。（30分）
13	死にゆく人、家族へのケアを考える（社会的ケア・スピリチュアルケア・家族ケア）	① ② ③	松野 古田 三輪	演習	演習事前学習課題を実施する。（30分）	演習課題を実施する。（30分）
14	死にゆく人、家族へのケアを考える・ディスカッション（社会的ケア・スピリチュアルケア・家族ケア）	① ② ③	松野 古田 三輪	演習	演習事前学習課題を実施する。（30分）	意見交換して学んだことをレポートにまとめ提出する。（30分）
15	終末期看護の在り方	① ② ③	熊田	講義	今までの講義資料を読み返し、緩和ケア・終末期看護について復習する。（30分）	自己の終末期看護の考えをまとめる。（30分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法
認知領域（知識）：定期試験80%　レポート20%　精神運動・情意領域（態度）

使用教科書
ナーシンググラフィカ　成人看護学⑥　緩和ケア / 宮下　光令　他.--第3版第1刷--メディカ出版, 2022年, 978-4-8404-7540-2

参考図書
必要に応じて紹介する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	オムニバス形式のため各担当教員の授業時に課題の振り返りを行う。
備考	質問等には、その都度対応します。

授業科目名		担当教員	
地域・在宅看護活動論Ⅲ		越納　美和・鈴木　留理子・福井　郁子　(代表教員　越納　美和)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	2単位(30時間)	講義･演習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ (2) (3) (4) の達成に寄与している。		越納美和（看護師）、鈴木留理子（看護師）、福井郁子（看護師）	

授 業 概 要

疾病や障害を持ちながら在宅で生活、療養する人とその家族を対象とし、各人のニーズに基づく生活行動の支援方法、及び社会資源の活用方法を理解し、対象に必要な在宅看護の展開方法を学習する。また、在宅看護における信頼関係形成の重要性を理解する。更に、在宅療養に必要な社会資源とその活用方法を学習する。

学 修 の 到 達 目 標

①在宅ケアを支える制度や社会資源を説明できる。
②在宅ケアにおけるケアマネジメントや関係機関・関係職種間の連携を理解できる。
③現在の訪問看護制度の基本を理解できる。
④対象者とその家族に向けた訪問看護過程ならびにケアマネジメントを展開できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	地域包括ケアシステムについての概要と看護職の役割	① ②	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	講義の学びと感想レポートを書く。（120分）
2	療養の場の移行に伴う看護（退院支援・退院調調整）	① ② ④	鈴木	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	講義の学びと感想レポートを書く。（120分）
3	在宅看護におけるケースマネジメント/ケアマネジメント	① ② ④	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	講義の学びと感想レポートを書く。（120分）
4	地域療養を支える制度①介護保険・医療保険と訪問看護の関連	① ③ ④	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	講義の学びと感想レポートを書く。（120分）
5	地域療養を支える制度②障害者	① ② ③ ④	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	講義の学びと感想レポートを書く。（120分）
6	地域療養を支える制度③難病（ALS患者）	① ② ③ ④	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	講義の学びと感想レポートを書く。（120分）
7	地域療養を支える制度④こども	① ② ③ ④	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	講義の学びと感想レポートを書く。（120分）
8	地域療養を支える制度④高齢者	① ② ③ ④	福井	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	講義の学びと感想レポートを書く。（120分）
9	地域療養を支える制度⑤権利擁護や成年後見制度	① ② ③ ④	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	講義の学びと感想レポートを書く。（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	地域療養を支える制度⑥高齢者施策	① ② ③ ④	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	講義の学びと感想レポートを書く。（120分）
11	在宅療養を支える訪問看護①訪問看護の特徴と訪問看護ステーション	① ② ③ ④	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	講義の学びと感想レポートを書く。（120分）
12	在宅療養を支える訪問看護②訪問看護サービスの展開	① ② ③ ④	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	講義の学びと感想レポートを書く。（120分）
13	在宅療養を支える訪問看護③療養場所の移行や病状の変化に応じた訪問看護	① ② ③ ④	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	講義の学びと感想レポートを書く。（120分）
14	在宅看護における安全と健康危機管理	① ② ③ ④	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	講義の学びと感想レポートを書く。（120分）
15	地域・在宅看護の動向と今後の発展・まとめ	① ② ③ ④	越納	講義	テキストの該当頁、関連書籍の該当頁を熟読するとともに、理解できない個所を明確にする。また、関連動画がある場合は視聴する。（120分）	講義の学びと感想レポートを書く。（120分）
	定期試験					

評価基準・評価方法

定期試験（70%）、小テストおよび授業態度・参加度（30%）で評価する。

使用教科書

ナーシング･グラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア / 臺有桂・石田千絵・山下留理子 編.--第7版--MCメディカ出版, 2022年1月, 978-4-8404-7543-3
ナーシング･グラフィカ　地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術　/ 臺有桂・石田千絵・山下留理子 編.--第２版--MCメディカ出版, 2022年1月, 978-4-8404-7544-0

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	各講師の質問等については、次の講義かクラスルームを通して説明し、フィードバックします。課題レポートは採点して返却します。 課題レポートの内容が合格点に満たず不十分な場合はコメントをつけて返却し再提出を求めることがあります。
備考	

授業科目名		担当教員	
地域・環境実習Ⅱ		熊田　ますみ・出口　睦雄・三輪　陽子・村上　秀和　（代表教員　熊田　ますみ）　坂本　裕子	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	2単位(60時間)	実習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		熊田ますみ（看護師）出口睦雄（看護師）三輪陽子（看護師）村上秀和（看護師）坂本裕子（看護師）	

授業概要
健康障害をもつ高齢者の療養施設や、高齢者大学・高齢者サークルで活動的に社会参加をしている対象に、その人の暮らしの中に何か障壁や制限、困難等があれば、「看護」は何ができるのかを考えて人間の暮らしと看護の視点で、共生社会の実現に求められる看護について学ぶことができる。

学修の到達目標
①施設で療養する高齢者の生活環境を説明できる。 ②介護保険施設における看護のあり方と多職種連携および支援体制を説明できる。 ③活動的に社会参加をしている方と関わり、対象の思いや障壁を説明できる。 ④高齢者を一人の個人と捉え、尊重した態度で接することができる。 ⑤看護学生として学ぶ姿勢や態度を身につける。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	1．実習施設					
	介護老人保健施設　岐阜リハビリテーションホーム、介護老人保健施設　寺田ガーデン、介護老人保健施設　サワダケアセンター、山内ホスピタル介護老人保健施設					
	特別養護老人ホーム　やすらぎの里川部苑、特別養護老人ホーム　黒野あそか苑、特別養護老人ホーム　ナーシングケア寺田					
	Ⅱ．実習方法					
	・学生８０名を２グループ４０名で編成して前後半とし、各実習施設に４～５名の学生が臨地実習を行う。					
	・実習前オリエンテーションを行う。 ・一人の高齢者を受け持ち、高齢者の生活を見学する。					
	・事前学習は、高齢者の加齢変化及び介護保険施設の機能と役割について学習する。					
	・事前学内実習は、脳梗塞で麻痺のある事例のアセスメント、認知症高齢者事例のアセスメントを行う。					
	・学内実習では、高齢者大学及び高齢者サークル等の施設見学・交流を行い、振りかえり学習をする。					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	・実習は、教員・臨床指導者の指導を受けながら、対象の全体像を把握し、対象に応じた日常生活の援助方法を見学、実施する。					
	・対象とコミュニケーションを図り、対象の思いや対象を理解する。リハビリテーション、レクリエーション活動を見学・実施する。					
	・実習最終日に、実習施設で教員・臨床指導者と共に反省会を行う。					
	・学内実習は、受け持ち対象の援助技術演習（臨地で実施できなかった、清潔・排泄・食事等の技術演習）					

評価基準・評価方法
目標到達度、出席状況、実習態度など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。

使用教科書
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学 / 北川公子他.--第9版--医学書院, 2018年, 978-4-260-03186-8

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	実習記録は添削し指導する。臨地で実施できなかった技術を学内実習で習得する。
備考	

授業科目名		担当教員	
地域・在宅看護論実習		越納　美和・岩瀬　桃子・清水　ゆかり　(代表教員　越納　美和)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	2単位(60時間)	実習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		越納美和（看護師）、岩瀬桃子（看護師）、清水ゆかり（看護師・助産師）	

授 業 概 要
地域で療養する人々やその家族を理解し、その人らしい在宅生活の継続に向けたケアの実際を学ぶ。医療施設のみにとどまらず地域で生活する多様な人々を対象とした看護の他職種や患者・家族に対する役割を学び、さらに地域包括システム全体の理解を深め、保健医療と看護について看護実践を通して包括的な視野を得る。

学 修 の 到 達 目 標
①在宅で療養生活を送る療養者とその家族の特徴を説明できる。 ②生活の場であることを理解し、対象者が望む生活を考慮した看護について支援計画を立案することができる。 ③在宅療養者支援に必要な社会資源の種類や法律・制度を理解し、活用方法を説明できる。 ④在宅療養に関わる多職種の役割と連携・調整方法について理解し、現状の課題を説明することができる。 ⑤在宅療養や地域での人々の暮らしを包括的に支援するしくみを説明することができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	実習オリエンテーション		越納 他	学内 実習	実習オリエンテーション、地域で療養する人々やその家族を理解し、その人らしい在宅生活の継続に向けたケアに必要な看護に関する事前学習を行う。	地域・在宅看護実習における自身の学びの目標をまとめる。
	実習施設の患者の訪問時の健康状態の観察・援助技術等のシュミレーション演習		越納 他	学内 実習		
	在宅療養者事例の看護計画に基づいた看護の演習在宅療養者の食事・排泄・活動		越納 他	学内 実習		
	地域包括支援センターにおいて利用者宅の周辺の地域情報 や地域包括ケアシステムの概要・多職種連携に関するオリエンテーションを受けたのち職員と同行訪問する。		越納 他	臨地 実習		
	訪問看護ステーションの役割と担当地域の療養者の病状・家族等の社会資源その他に関するオリエンテーションを受け、同伴訪問を実施する。		越納 他	臨地 実習		
	在宅介護支援センターにおいて、地域包括ケア計画に基づいた在宅ケアの実態等について説明を受ける		越納 他	臨地 実習		
	保健所・市町村・その他の主催による健康教室・デイケア等に同行し、健康増進～医療施設での療養～在宅療養をつなぐ地域包括ケアの理解を深める		越納 他	臨地 実習		
	・難病・終末期の当事者参加による学内演習 ・実習 施設毎の学びの共有及び在宅経管栄養法等の看護技術の演習		越納 他	学内 実習		
	Ⅰ．地域包括支援センター、在宅看護支援センターでは、保健師、看護師、社会福祉士等と地域の健康増進活動や介護保険認定調査やモニタリングおよび地域ケア会議に同行訪問を通して参加する。 地域包括支援センター：岐阜市地域包括支援センター長良，岐阜市地域包括支援センター岐北		越納 他	臨地 実習		

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	Ⅱ．訪問看護ステーション実習．1．施設の概要や利用者の特徴について紹介を受け、看護過程展開に生かす2週間のうち1週間を訪問看護ステーション．2．対象者1名を受け持ち、生活の場で対象の望む生活を考慮した看護を考える。 訪問看護ステーション実習施設：いび訪問看護ステーション、まつなみ訪問看護ステーション、訪問看護ステーション北方、岩砂訪問看護ステーション他		越納他	臨地実習		
	Ⅲ．地域連携室実習では、実習中に、ケアマネージャー、ホームヘルパー、医師、理学療法士、作業療法士などとの多職種との連携場面を学習する。 ・地域連携室実習：松波総合病院、山内ホスピタル、山田病院等		越納他	臨地実習		
	Ⅳ．学内日に実習内容の検討、発表、まとめを行い、実習目標に対する達成状況や各施設での学びを共有する。		越納他	学内実習		

評価基準・評価方法

実習目標の達成度、実習記録内容、実習中の参加度や態度等を勘案し評価する。

使用教科書

参考図書

・ナーシング･グラフィカ　地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア、臺　有桂・石田千絵・山下留理子　編、（株式会社メディカ出版）
・ナーシング･グラフィカ地域・在宅看護論②　在宅療養を支える技術、臺　有桂・石田千絵・山下留理子　編、（株式会社メディカ出版）

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	実習記録の内容が合格点に満たず不十分な場合はコメントをつけて返却し再提出を求めることがあります。
備考	

授業科目名		担当教員	
成人看護活動論Ⅰ		古田　弥生・森岡　菜穂子・林　宗典　(代表教員　古田　弥生)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(15時間)	講義･演習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ (2) (3) (4) の達成に寄与している。		古田　弥生（看護師）森岡　菜穂子（看護師）林　宗典（看護師）	

授業概要

周手術期および生命危機状態にある患者とその家族への看護の知識と技術を学習する。急性期の特徴や、手術侵襲によって引き起こされる身体メカニズムの中から必要な看護について学び理解を深める。講義では、主体的な学びができるよう資料に復習ポイント・内容を記載し取り組みやすい学習とする。また、グループワークを活用し主体的な学びを深めていく。演習では事前に患者対応の技術動画を配信し動作が視覚的に学習しやすいように進める。

学修の到達目標

①手術を受ける患者・家族の反応とそれに対する看護について説明できる。
②手術の侵襲によって引き起こされる生命反応を説明できる。
③術後合併症の発生リスクを理解し、予防的な看護を説明できる。
④術後の患者のQOL向上のために必要な知識を説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	急性期看護の考え方 急性期とは/急性期看護の概念/患者が体験する侵襲/ショック/心理的反応/急性の状態にある患者と家族に対する看護	① ②	森岡	講義	教科書P.2～31を精読し、急性期の定義について学習する（120分）	急性期看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（120分）
2	周手術期看護 周手術期とは/周手術期看護とは/術前の不安・術後の痛み/手術における倫理/侵襲とは	① ②	古田	講義	教科書P.36～45を精読し、手術侵襲について学習する（120分）	周手術期看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（120分）
3	術後看護 術後の意識レベル/呼吸/循環/疼痛/感染/消化器/せん妄/早期離床	① ② ③ ④	古田	講義	教科書P.94～134を精読し、各表題の正常な機能を学習する（120分）	術後看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（120分）
4	術後看護 術後の意識レベル/呼吸/循環/疼痛/感染/消化器/せん妄/早期離床	① ② ③ ④	古田	講義	教科書P.94～135を精読し、各表題の正常な機能を学習する（120分）	術後看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（120分）
5	術前看護 術前看護の目的/検査時の看護/身体的・心理的アセスメント/術前オリエンテーション/当日の看護/手術室への搬送	① ② ③ ④	古田	講義	教科書P.48～66を精読し、術前看護に必要なことをレポートにまとめる（120分）	術前看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（120分）
6	術中看護 術中看護の目的/看護師の役割/術前訪問/手術室の環境/感染防止/安全管理/麻酔時の看護/病棟への申し送り	① ② ③ ④	古田	講義	教科書P.68～91を精読し、術中看護に必要なことをレポートにまとめる（120分）	術中看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（120分）
7	術直後の観察 術後1時間が経過した患者の観察	① ② ③ ④	古田 森岡 林	演習	演習課題を実施する（120分）	演習の振り返りレポートを作成する 配信動画を視聴する（120分）
8	術直後の観察 術後1時間が経過した患者の観察	① ② ③ ④	古田 森岡 林	演習	演習課題を実施する（120分）	演習の振り返りレポートを作成する 配信動画を視聴する（120分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法
認知領域（知識）：定期試験72%　精神運動（技術）演習20%　情意領域（態度）：授業態度8%

使用教科書
成人看護学　急性期看護<1>概論・周手術期看護 / 林直子他　佐藤まゆみ編集.--改訂第4版--南江堂，2023年，978-4-524-23231-4

参考図書
必要に応じて紹介します。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	講義内容の演習を行い経験をしながら学習します。また、講義内容の学習問題を行うことや、質問に対してもその都度フィードバックします。
備考	学生の質問にその都度応じながら指導します。

授業科目名		担当教員	
成人看護活動論Ⅱ		古田　弥生・森岡　菜穂子・林　宗典・片岡　恵美　(代表教員　古田　弥生)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	2単位(60時間)	講義・演習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		古田　弥生（看護師）森岡　菜穂子（看護師）林　宗典（看護師） 古林　晃（看護師）	

授業概要

慢性的経過をたどり、生涯に渡って生活のコントロールを必要とする対象者とその家族への看護を学習する。成人期における健康障害の特徴を踏まえ、対象者やその家族への看護援助について学習する。また、ライフサイクルにおける主な急性・慢性疾患の病態・治療・検査における看護援助について学習する。講義では、主体的な学びができるよう資料に復習ポイント・内容を記載し取り組みやすい学習とする。また、グループワークを活用し主体的な学びを深めていく。演習では患者対応の技術動画を配信し動作が視覚的に学習しやすいように進める。

学修の到達目標

①慢性疾患の特徴を捉え病気と共に生きることを支える看護について説明できる。
②日常生活を送りながらセルフマネジメント獲得に向けて看護の教育的役割を説明できる。
③急性・慢性的経過をたどる対象及び家族の特徴を知り看護について説明できる。
④治療に伴う身体的影響（合併症等）の発生リスクを理解し、予防的な看護が説明できる。
⑤急性・慢性期患者のQOL向上のために必要な知識を説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	慢性期看護とは 慢性疾患の特徴/治療の特徴/看護の役割/チーム医療	①	古田	講義	教科書「慢性期」P.2～38を精読し、慢性期看護についてまとめる（30分）	慢性疾患の特徴について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
2	慢性期患者の特徴 身体的特徴/心理的特徴/社会的特徴	①	古田	講義	教科書「慢性期」P.42～68を精読し、慢性期患者の特徴をまとめる（30分）	慢性期患者の特徴について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
3	慢性疾患患者の看護的支援 セルフケア/セルフマネジメント/自己効力感/症状マネジメント/学習支援	① ②	古田	講義	教科書「慢性期」P.25～29、175～180、367～373を精読し、慢性期における看護支援をまとめる（30分）	理論やセルフマネジメントについて教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
4	高血圧のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	林	講義	教科書「循環器」P.165～175、P.336～338を精読し、高血圧の病態生理を学習する（30分）	高血圧の看護について、教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
5	虚血性心疾患のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	林	講義	教科書「循環器」P.122～151、P.312～323を精読し、循環器の解剖生理・虚血性心疾患の病態生理を学習する（30分）	虚血性心疾患の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
6	虚血性心疾患のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	林	講義	教科書「循環器」P.122～151、P.312～322を精読し、虚血性心疾患患者の看護を学習する（30分）	虚血性心疾患の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
7	心不全のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	林	講義	教科書「循環器」P.152～164、323～335を精読し、心不全の病態生理を学習する（30分）	心不全の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
8	心不全のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	林	講義	教科書「循環器」P.152～164、323～335を精読し、心不全の病態生理を学習する（30分）	心不全の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
9	循環器疾患の外科的治療を受ける人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	古林	講義	教科書「循環器」P.92～115を精読し、循環器疾患における治療について学習する（30分）	循環器における外科的手術の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	心臓カテーテル治療を受ける人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	古林	講義	教科書「循環器」 P.68～78を精読し、心臓カテーテル法について学習する（30分）	心臓カテーテル治療の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
11	脳梗塞のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	森岡	講義	教科書「脳・神経」 P.23～50、133～143を精読し、脳の解剖生理・脳梗塞について復習する	脳梗塞の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
12	脳出血のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	森岡	講義	教科書「脳・神経」 P.122～132を精読し、脳の解剖生理・脳出血・クモ膜下出血について復習する（30分）	脳出血の看護について教科書・資料を基に復習する（30分）
13	脳腫瘍のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	林	講義	教科書「脳神経」 P.147～153、303～311を精読し、脳腫瘍の疾患理解と開頭術を受ける患者の看護を学習する（30分）	開頭術（脳腫瘍）の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
14	肺炎のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	古田	講義	教科書「呼吸器」 P.20～39、141～152、305～307を精読し、肺の解剖生理・肺炎について復習する（30分）	肺炎の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
15	慢性閉塞性肺疾患のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	古田	講義	教科書「呼吸器」 P.183～187、226～230、323～337を精読し、慢性閉塞性肺疾患について復習する	慢性閉塞性肺疾患の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
16	肺がんのある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	古田	講義	教科書「呼吸器」 P.199～212、231～234、345～354を精読し、肺がんについて復習する（30分）	肺がんの看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
17	肺がんに対する化学療法・放射線療法の看護	① ② ③ ④ ⑤	古田	講義	教科書「呼吸器」 P.199～212、231～234、345～355を精読し、化学療法についてまとめる（30分）	肺がんの看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
18	慢性肝炎/肝硬変のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	森岡	講義	教科書「消化器」 P.31～36、210～242を精読し、肝臓の解剖生理・慢性肝炎・肝硬変について復習する（30分）	慢性肝炎/肝硬変の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
19	肝がんのある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	森岡	講義	教科書「消化器」 P.243～247を精読し、肝臓の解剖生理・肝がんについて復習する（30分）	肝がんの看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
20	胆石症のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	古田	講義	教科書「消化器」 P.248～252、418～424を精読し、胆嚢の解剖生理・胆石症について復習する	胆嚢除術の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
21	胃/十二指腸潰瘍のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	古田	講義	教科書「消化器」 P.19～24、156～164、354～358を精読し、胃・十二指腸の解剖生理・消化管潰瘍について復習する（30分）	消化管潰瘍の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
22	胃がんのある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	古田	講義	教科書「消化器」 P.19～24、165～172、358～367を精読し、事前課題の資料を基に胃の解剖生理・胃がんについて復習する（30分）	胃がん・胃切除術の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
23	潰瘍性大腸炎/クローン病のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	森岡	講義	教科書「消化器」 P.315～327を精読し、消化管の解剖生理・潰瘍性大腸炎/クローン病について復習する（30分）	潰瘍性大腸炎/クローン病の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
24	大腸がんのある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	林	講義	教科書「消化器」 P.201～207、 389～396を精読し、 大腸の解剖生理について復習する（30分	直腸切除術の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
25	乳がんのある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	森岡	講義	教科書「女性生殖器」 P.21～22、147～166を精読し、事前課題の資料を基に乳房の解剖生理・乳がんについて復習する（30分）	乳がん・乳房切除術の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
26	子宮がんのある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④ ⑤	森岡	講義	教科書「女性生殖器」 P.22～25、116～127を精読し、事前課題の資料を基に子宮の解剖生理・子宮がんについて復習する（30分）	子宮がん・子宮摘出術の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（30分）
27	食事療法・運動療法の実際　計画	① ② ③ ④ ⑤	古田 森岡 林	演習	その都度提示した演習実施課題を実施する（30分）	演習課題を実施する（30分）
28	食事療法・運動療法の実際　実施	① ② ③ ④ ⑤	古田 森岡 林	演習	その都度提示した演習実施課題を実施する（30分）	演習課題を実施する（30分）
29	食事療法・運動療法の実際　実施	① ② ③ ④ ⑤	古田 森岡 林	演習	その都度提示した演習実施課題を実施する（30分）	演習課題を実施する（30分）
30	食事療法・運動療法の実際　発表・まとめ	① ② ③ ④ ⑤	古田 森岡 林	演習	その都度提示した演習実施課題を実施する（30分）	演習課題をまとめる（30分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法

認知領域（知識）：定期試80%　精神運動領域（技術）：演習10%　情意領域（態度）：授業態度10%

使用教科書

成人看護学　慢性期看護 / 鈴木久美、旗持知恵子、佐藤直美、編集.―改定第4版―南江堂，2023年，978-4-524-23436-3
成人看護学　急性期看護<1>概論・周手術期看護 / 林直子，佐藤まゆみ編集.―改定第4版―南江堂，2023年，978-4-524-23231-4
系統看護学講座専門分野Ⅱ　成人看護学（2）呼吸器 / 浅野浩一郎他.―第15版―医学書院，2021年，978-4-260-03569-9
系統看護学講座専門分野Ⅱ　成人看護学（3）循環器 / 松田直樹他.―第15版―医学書院，2021年，978-4-260-03557-6
系統看護学講座専門分野Ⅱ　成人看護学（5）消化器 / 南川　雅子他.―第15版―医学書院，2021年，978-4-260-03562-0
系統看護学講座専門分野Ⅱ　成人看護学（7）脳・神経 / 井手　隆文他.―第15版―医学書院，2021年，978-4-260-03561-3
系統看護学講座専門分野Ⅱ　成人看護学（9）女性生殖器 / 末岡　浩他.―第15版―医学書院，2021年，978-4-260-03567-5

参考図書

必要に応じて紹介します。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	オムニバス形式のため各担当教員の最後の授業時、課題の振り返りを行います。
備考	学生の質問にその都度応じながら指導します。

授業科目名		担当教員	
成人看護活動論Ⅲ		古田　弥生・森岡　菜穂子・林　宗典・粥川　誠至　(代表教員　古田　弥生)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	2単位(30時間)	講義･演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3)看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4)の達成に寄与している。		古田　弥生（看護師）森岡　菜穂子（看護師）林　宗典（看護師） 粥川　誠至（看護師）	

授業概要

成人期における健康障害の特徴を踏まえ、対象者やその家族への看護援助について学習する。ライフサイクルにおける主な急性・慢性疾患の病態・治療・検査における看護援助について学習する。講義では、主体的な学びができるよう資料に復習ポイント・内容を記載し取り組みやすい学習とする。また、グループワークを活用し主体的な学びを深めていく。演習では患者対応の技術動画を配信し動作が視覚的に学習しやすいように進める。

学修の到達目標

①日常生活を送りながらセルフマネジメント獲得に向けて看護の教育的役割を説明できる。
②急性・慢性的経過をたどる対象及び家族の特徴を知り看護について説明できる。
③治療に伴う身体的影響（合併症等）の発生リスクを理解し、予防的な看護が説明できる。
④急性・慢性期患者のQOL向上のために必要な知識を説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	HIV感染/AIDSのある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④	古田	講義	教科書「アレルギー・膠原病・感染症」P.333～337・375～380を精読し、免疫機能・HIV/AIDSについて復習をする（120分）	HIV/AIDSの看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（120分）
2	甲状腺機能亢進症/低下症のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④	古田	講義	教科書「内分泌・代謝」P.25～28・97～108・210～218を精読し、内分泌機能・甲状腺機能亢進/低下症について復習する	甲状腺機能亢進/低下症の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（120分）
3	白血病のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④	森岡	講義	教科書「血液・造血器」P.18～24・72～74・97～119を精読し、血液・免疫系の解剖生理について復習する（120分）	白血病の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（120分）
4	白血病のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④	森岡	講義	教科書「血液・造血器」P.18～24・72～74・97～119を精読し、血液・免疫系の解剖生理について復習する（120分）	白血病の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（120分）
5	糖尿病のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④	林	講義	教科書「内分泌・代謝」P.132～164を精読し、代謝障害・糖尿病について復習する（120分）	糖尿病の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（120分）
6	糖尿病のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④	林	講義	教科書「内分泌・代謝」P.243～286を精読し、代謝疾患糖尿病患者の看護について学習する（120分）	糖尿病の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（120分）
7	関節リウマチのある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④	森岡	講義	教科書「アレルギー・膠原病・感染症」P.130～134・150～156を精読し、関節リウマチについて復習する（120分）	関節リウマチの看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（120分）
8	全身性エリテマトーデスのある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④	森岡	講義	教科書「アレルギー・膠原病・感染症」P.156～161を精読し、免疫異常・全身性エリテマトーデスについて復習する（120分）	全身性エリテマトーデスの看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（120分）
9	慢性腎不全（慢性腎臓病）のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④	林	講義	教科書「腎・泌尿器」P.18～32・40～45・55～60・115～123を精読し、腎臓の構造と機能・疾患について学習する（120分	慢性腎不全（慢性腎臓病）の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	慢性腎不全（慢性腎臓病）のある人の看護 疾病の理解/病態とその分類/治療・看護	① ② ③ ④	林	講義	教科書「腎・泌尿器」P.247～252を精読し、腎疾患・看護について学習する（120分）	慢性腎不全（慢性腎臓病）の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（120分）
11	人工透析を受ける人の看護	① ② ③ ④	粥川	講義	教科書「慢性期」P.140～150を精読し、血液浄化療法についてまとめる（120分）	血液浄化療法時の看護について教科書・資料を基に講義内容を復習する（120分）
12	糖尿病のある人の看護（事例・演習）	① ② ③ ④	古田 森岡 林	演習	その都度提示した演習事前課題を実施する（120分）	演習課題を実施する（120分）
13	糖尿病のある人の看護（事例・演習）	① ② ③ ④	古田 森岡 林	演習	その都度提示した演習事前課題を実施する（120分）	演習課題を実施する（120分）
14	糖尿病のある人の看護（事例・演習）	① ② ③ ④	古田 森岡 林	演習	その都度提示した演習事前課題を実施する（120分）	演習課題を実施する（120分）
15	糖尿病のある人の看護（事例・演習）	① ② ③ ④	古田 森岡 林	演習	その都度提示した演習事前課題を実施する（120分）	演習課題を実施する（120分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法

認知領域（知識）：定期試験80％　事例演習10％　精神運動・情意領域（技術・態度）：授業態度10％

使用教科書

成人看護学　慢性期看護 / 鈴木久美、野澤明子、森一恵編集.--改定第4版--南江堂，2023年，
成人看護学　急性期看護<1>概論・周手術期看護 / 林直子、佐藤まゆみ編集.--改定第4版--南江堂，2023年，978-4-524-23231-4
系統看護学講座専門分野Ⅱ　成人看護学（4）血液・造血器 / 飯野　京子他.--第15版--医学書院，2021年，978-4-260-03571-2
系統看護学講座専門分野Ⅱ　成人看護学（6）内分泌・代謝 / 黒江　ゆり子他.--第15版--医学書院，2021年，978-4-260-03559-0
系統看護学講座専門分野Ⅱ　成人看護学（8）腎・泌尿器 / 今井　亜矢子他.--第15版--医学書院，2021年，978-4-260-03558-3
系統看護学講座専門分野Ⅱ　成人看護学（11）アレルギー・膠原病・感染症 / 岩田　健太郎他.--第15版--医学書院，2021年，978-4-260-03858-4

参考図書

必要に応じて紹介します。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	オムニバス形式のため各担当教員の最後の授業時、課題の振り返りを行います。
備考	学生の質問にその都度応じながら指導します。

授業科目名		担当教員	
成人看護学実習		古田　弥生・森岡　菜穂子・林　宗典　(代表教員　古田　弥生)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	1単位(30時間)	実習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ (2) (3) (4) の達成に寄与している。		古田　弥生（看護師）森岡　菜穂子（看護師）林　宗典（看護師）	

授 業 概 要
成人看護学実習では、周手術期及び急性期にある患者の看護を見学を通し学習する。手術中・後の経過をたどる患者の身体的状態を理解し、症状に伴う苦痛の緩和と不安定な心身の状態における生理的ニーズ充足の援助を学ぶ。生命の危機状態にある患者の身体的状態を理解し、生命の維持管理や患者及び家族の不安の軽減への援助を学ぶ。

学 修 の 到 達 目 標
①手術室における看護師の役割を理解する。 　急性状態にある患者に対する看護師の役割を理解する。 ③急性状態にある患者の生活を中心とした医療チームの役割を理解する。 ④看護学生として学ぶ姿勢や態度を身に付けられる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	Ⅰ.実習施設					
	・岐阜県総合医療センター、岐阜ハートセンター、松波総合病院、羽島市民病院					
	Ⅱ.実習方法					
	・学生80名を1グループ4～5名の20グループに編成し、成人・高齢看護学実習Ⅱ、精神看護学実習、在宅看護論実習と共にローテーションで行う。				周手術期（急性期）とはどのようなことか、特徴をもとに看護師の役割や、チーム医療について学習する。	
	・実習前オリエンテーションを行う。 ・岐阜県総合医療センター、岐阜ハートセンター、松波総合病院、羽島市民病院の手術室・ICUのいずれか一箇所で行う。				周手術期を支える看護として、術前・術中・術後の看護について学習する。特に、術後合併症については根拠をもとに理解できるように学習する。	
	・手術室への入室から退室までの一連の看護について見学する。 ・手術室における清潔操作、手術室での患者の管理方法、手術室看護の概要を見学する。（施設により多少異なる）				・手術室入室から退室までの看護について学習する。また、手術室環境や他職種の連携について学習する。	・手術室、ICU見学での学びを考察し、レポートにまとめる。
	・学内実習は、病態の理解を深めたり、記録の整理を行う。 ・病棟では、毎日カンファレンスを計画・実施し、看護の方向性の検討や学びを深める。					
	・実習最終日に、実習施設で教員・臨床指導者と共に反省会を行う。				・自己の学びをまとめ、振り返りをすることで、次への課題を明確にする。	・グループ内の意見交換より、自己の学び、課題を再度考察する。

評価基準・評価方法

目標到達度、出席状況、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。
使用教科書
成人看護学　急性期看護＜1＞概論・周手術期看護／林直子，佐藤まゆみ編集．改定第4版　南江堂，2023年，
参考図書
系統看護学講座専門分野Ⅱ　成人看護学（2）～（15）医学書院

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	実習前に実習に必要な知識について課題を提示します。また、実習中その都度、記録へのコメントを残し、それをもとに口頭でも質問し学習を活かした学習が行えるよう指導します。また、学生の考えを聞きながら学生主体の実習が行えるように指導します。
備考	実習中、事前学習ノートを用い看護について知識を確認しながら学習をしていきます。急性期の特徴や手術室看護、術後観察の視点・看護について知識を持ち実習に向かう準備を行って実習に臨んでください。 　専門科目の健康生活を支えるための看護の原理と基礎の科目すべて、成人看護学概論、成人看護活動論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの単位を修得済みであること。

授業科目名		担当教員	
高齢者看護活動論Ⅰ		熊田　ますみ・三輪　陽子・加藤　清人・川崎　葉子・中川　幸代　(代表教員　熊田　ますみ)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	2単位(30時間)	講義･演習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		熊田ますみ（看護師）三輪陽子（看護師）加藤清人（作業療法士）　川崎葉子（認定看護師）中川幸代（認定看護師）	

授 業 概 要

加齢変化や老年期特有の健康障害が高齢者と家族に及ぼす影響を理解したうえで、必要な援助を学ぶ。高齢者の特徴を踏まえ、高齢者に特有な健康障害に対する診断・治療過程における看護について学ぶ。

学 修 の 到 達 目 標

①高齢者への日常生活援助について、意義や方法などを説明できる。
②高齢者に多い健康障害の原因とその程度、生活への影響について説明できる。
③残存機能を活用し、自立支援という視点から援助の方向性が説明できる。
④認知症を有する高齢者への看護について理解し、コミュニケーションスキルを身につける。
⑤高齢者にみられる身体症状に対する具体的な看護方法を説明できる。
⑥高齢者の疑似体験をすることで、高齢者の身体的な不自由さや心理面が説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	高齢者の生活機能を整える看護　清潔	① ③	三輪	講義	皮膚の加齢性変化についてまとめる 120分	清潔に関する健康課題と清潔のアセスメント、清潔の援助についてまとめる 120分
2	高齢者の生活機能を整える看護　食事（摂食嚥下障害）	① ③	中川	講義	食事に関する加齢性変化についてまとめる120分	摂食嚥下５期モデルのそれぞれの状態・５期モデルによる観察ポイントをまとめる120分
3	高齢者の生活機能を整える看護　食事（栄養状態の変調・食生活のアセスメント）	① ③	三輪	講義	摂食嚥下能力のアセスメント、サルコペニア肥満とサルコペニアについてまとめる120分	課題プリント：高齢者の事例を活用して、栄養をアセスメントする120分
4	高齢者疑似体験	⑥	熊田 三輪	演習	高齢者の感覚器・運動機能の加齢変化についてまとめる 120分	課題レポートをまとめ提出する120分
5	高齢者疑似体験	⑥	熊田 三輪	演習	高齢者の感覚器・運動機能の加齢変化についてまとめる 120分	課題レポートをまとめ提出する120分
6	高齢者の生活機能を整える看護　排泄	① ③	三輪	講義	排泄に関する加齢性変化・排泄動作についてまとめる120分	課題プリント：高齢者の事例を活用して、排泄のアセスメントする120分
7	高齢者の生活機能を整える看護　排泄（おむつ交換・陰部洗浄）	① ③	三輪 熊田	演習	おむつ交換・陰部洗浄の手順書に、事例に対する留意点をまとめる120分	手順書に追加・修正する120分
8	高齢者の生活機能を整える看護　排泄（おむつ交換・陰部洗浄）	① ③	三輪 熊田	演習	おむつ交換・陰部洗浄の手順書に、事例に対する留意点をまとめる120分	演習の振り返りをまとめ提出する120分
9	高齢者の生活機能を整える看護　コミュニケーション	① ③	三輪	講義	コミュニケーションに作用する加齢性変化をまとめる120分	高齢者に応じた様々なコミュニケション方法をまとめる 120分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	認知機能障害のある高齢者の看護（うつ・せん妄）	② ④	三輪	講義	うつ・認知症・せん妄との比較についてまとめる120分	うつ・せん妄の看護をまとめる120分
11	認知機能障害のある高齢者の看護（認知症）	② ④	三輪	講義	加齢による「もの忘れ」と認知症による記憶障害の違いについてまとめる120分	四大認知症の病態と評価方法についてまとめる120分
12	認知機能障害のある高齢者の看護（認知症）	② ④	三輪	講義	認知症高齢者に対する看護の要点をまとめる120分	認知症高齢者看護を生活援助の視点でまとめる120分
13	認知機能障害のある高齢者の看護（認知症看護の実際）	② ④	川崎	講義	認知症高齢者の個人の尊厳を守ることについて、自己の考えをまとめる120分	認知症の病態生理・評価・看護の国家試験問題120分
14	認知機能障害のある高齢者の看護（非薬物療法・レクリエーションの実際）	② ④	加藤	講義	認知症の非薬物療法についてまとめる 120分	臨床で展開されている認知症患者の非薬物療法についてまとめる120分
15	高齢者によくみられる身体症状のアセスメント	③ ⑤	熊田	講義	高齢者に多い発熱・脱水の要因とリスクについてまとめる 120分	高齢者によくみられる身体症状に対する看護をまとめる 120分
	定期試験					

評価基準・評価方法
定期試験（70%）、課題レポート（25%）、グループワークの参加度と発表（5%）

使用教科書
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　第９版 / 北川公子他.--医学書院，2018年，978-4-260-03186-8

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	事前学習や課題は講義に反映させる。課題は、講義終了後返却し各自で振り返る。
備考	質問等については、講義終了時やまたは次回の講義にフイ―ドバックします。

授業科目名		担当教員	
高齢者看護活動論Ⅱ		熊田　ますみ・三輪　陽子　(代表教員　熊田　ますみ)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義･演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		熊田ますみ（看護師）三輪陽子（看護師）	

授 業 概 要

高齢者の特徴を踏まえ、健康障害に対する診断・治療過程における看護について学ぶ。事例を通して高齢者を理解するためのアセスメントの視点を学ぶ。高齢者特有のリスク要因を理解したうえで、高齢者のリスクマネジメントを学ぶ。

学 修 の 到 達 目 標

①高齢者に多い健康障害の原因とその程度、生活への影響について説明できる。
②検査に伴うインフオームドコンセントと検査時の看護について説明できる。
③高齢者の薬物療法時の注意点と服薬管理に向けた支援方法が説明できる。
④手術を受ける高齢者の特徴がわかり術前・術後の支援方法が説明できる。
⑤生活・療養の場における看護の方法が説明できる。
⑥老年期に特有な疾患をもつ患者の事例を用いて高齢者の看護展開の視点が説明できる。
⑦高齢者に特有なリスクが分かり対処方法が説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	高齢者の看護過程の考え方（生活機能アセスメントとは）	⑦	熊田	講義	生活行動モデルについてまとめる20分	アルツハイマー型認知症・大腿骨頸部骨折の病態生理・看護についてまとめる40分
2	疾患をもつ高齢者の看護（パーキンソン病）	①	熊田	講義	パーキンソン病の病態関連図を書く30分	パーキンソン病をもつ高齢者の看護をまとめる30分
3	疾患をもつ高齢者の看護（骨粗鬆症・大腿骨頸部骨折）	①	熊田	講義	運動系の加齢性変化についてまとめる10分	大腿骨頸部骨折の術前・術後の看護をまとめる50分
4	疾患をもつ高齢者の看護（褥瘡・スキンテア）	①	三輪	講義	皮膚の加齢性変化についてまとめる20分	褥瘡発症のリスク要因及び看護をまとめる40分
5	疾患をもつ高齢者の看護（褥瘡・スキンテア）	①	熊田 三輪	演習	演習課題を行う。20分	課題レポートをまとめ提出する40分
6	検査・治療を受ける高齢者への看護	②	熊田	講義	高齢者の疾患の特徴をまとめる20分	検査・入院が高齢者に及ぼす要因と看護をまとめる40分
7	薬物療法・手術療法を受ける高齢者の看護	③ ④	熊田	講義	加齢に伴う薬物動態についてまとめる。手術を受ける高齢者の特徴についてまとめる20分	高齢者の薬物療法の看護についてまとめる。術後合併症の予防ケアの看護についてまとめる40分
8	生活・療養の場における高齢者の看護	⑤	三輪	講義	介護保険施設についてまとめる20分	介護保険施設の役割と看護師の役割についてまとめる40分
9	終末期における看護	⑥	三輪	講義	高齢者のスピリチュアルについてまとめる20分	エンドオブライフケアの基本的な考え方をまとめる40分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における看護事例（アルツハイマー型認知症・大腿骨頸部骨折）	⑥	熊田 三輪	演習	事例の常在条件・病理的状態をまとめる40分	常在条件の追加・修正を行う20分
11	疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における看護事例（アルツハイマー型認知症・大腿骨頸部骨折）	⑥	熊田 三輪	演習	病理的状態をまとめる20分	グループワーク・教員によるアセスメントの視点等の学びから病理的状態のアセスメントを追加する40分
12	疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における看護事例（アルツハイマー型認知症・大腿骨頸部骨折）	⑥	熊田 三輪	演習	事例の生活機能の状態（活動・休息）のアセスメントをする40分	グループワーク・教員によるアセスメントの視点等の学びから生活機能の状態（活動・休息）のアセスメントを追加する20分
13	疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における看護事例（アルツハイマー型認知症・大腿骨頸部骨折）	⑥	熊田 三輪	演習	事例の生活機能の状態（食事・排泄）のアセスメントをする40分	グループワーク・教員によるアセスメントの視点等の学びから生活機能の状態（食事・排泄）のアセスメントを追加する20分
14	疾患をもつ高齢者の治療・療養の場における看護事例（アルツハイマー型認知症・大腿骨頸部骨折）	⑥	熊田 三輪	演習	事例の生活機能の状態（身じたく・コミュニケーション）のアセスメントをする40分	グループワーク・教員によるアセスメントの視点等の学びから生活機能の状態（身じたく・コミュニケーション）のアセスメントを追加する20分
15	高齢者のリスクマネジメント （高齢者と医療安全、救命救急・災害）	⑦	熊田	講義	高齢者特有のリスク要因をまとめる20分	事故発生時に与える高齢者への影響と対応策についてまとめる40分
	定期試験					

評価基準・評価方法
定期試験（50%）、課題レポート（事例展開含む）45%、グループワークの参加度と発表（5%）

使用教科書
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　（第９版）　/ 北川公子他.--医学書院，2021年,

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	事例展開の課題は、講義時の始めに学習内容を確認します。その後グループワークを進めていきます。講義終了時、重要ポイントをフィードバックします。
備考	

授業科目名		担当教員	
高齢者看護学実習Ⅱ（発展）		熊田　ますみ・三輪　陽子・他　(代表教員　熊田　ますみ)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	2単位(90時間)	実習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ (2) (3) (4) の達成に寄与している。		熊田ますみ（看護師）　三輪陽子（看護師）・他（代表教員　熊田　ますみ）	

授 業 概 要
健康障害をもつ高齢者の個別性を理解し、QOL向上に向けた看護について、科学的かつ論理的な看護を実践するための基礎的能力を養う。

学 修 の 到 達 目 標
①対象の生活史を把握し入院生活や機能障害が身体的・精神的・社会的機能に影響を及ぼしていることを説明できる。 ②老年期の健康上の問題を把握し、QOL向上を目指した看護の必要性を説明できる。 ③対象個々の老年期の特徴、健康上の問題に応じQOL向上を目指した援助を実施する。 ④対象の退院を支える多職種連携を説明できる。 ⑤看護学生として学ぶ姿勢や態度を身に付ける。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	Ⅰ．実習施設					
	平野総合病院、揖斐厚生病院、山内ホスピタル					
	Ⅱ．実習方法					
	1.学生80名を1グループ4～6名で編成し、成人看護学実習、精神看護学実習、地域・在宅看護					
	論実習とともにローテーションで行う。					
	2.実習前オリエンテーション行う。					
	3.事前学習は、基本的看護技術の練習と、実習病棟に即した 事前課題を行う。					
	4.平野総合病院、揖斐厚生病院、山内ホスピタルの病棟のいずれか一箇所で2週間実習を行う。					
	5.原則として一人の患者を受け持ち、看護の実践を行う。					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	6.実習は、教員・臨床指導者の指導を受けながら、患者の全体像を把握し具体的な看					
	護過程の展開を行う。					
	7.病棟では、毎日カンファレンスを計画・実施し、看護の方向性の検討や学びを深める。					
	8.第2週の木曜日は、実習施設で教員・臨床指導者とともに反省会を行う。					
	9.実習最終日に学内でグループ討議、発表、まとめを行い、実習目標に					
	対する達成状況や学びを共有する。					

評価基準・評価方法
目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。

使用教科書
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学 / 北川公子他.--第9版--医学書院, 2018年, 978-4-260-03186-8

参考図書
・根拠と事故防止からみた老年看護技術（医学書院） ・生活機能からみた老年看護過程（医学書院） ・症状別看護ケア関連図（中央法規） ・疾患別看護ケア関連図（中央法規）

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	実習記録は添削し指導する。
備考	履修前提条件：高齢者看護活動論Ⅱ、高齢者看護学実習Ⅰの単位を修得済みであること。

授業科目名		担当教員	
成人・高齢者看護学実習		熊田　ますみ・古田　弥生・三輪　陽子・森岡　菜穂子・林　宗典　(代表教員　熊田　ますみ)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	3単位(90時間)	実習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		熊田　ますみ（看護師）古田　弥生（看護師）三輪　陽子（看護師）森岡　菜穂子（看護師）林　宗典（看護師）	

授 業 概 要

成人・高齢者看護学実習の学習では、成人・老年期の特性を理解し、地域社会で健康生活を営むために必要な健康維持・増進を図るための看護の役割や連携を理解する。また、病院内での看護を展開し、療養生活を支えるための日常生活上の管理方法や退院時指導に結び付け、継続看護に必要な基礎知識・技術・態度を養う。

学 修 の 到 達 目 標

①疾患から生じる健康問題を抱え慢性に経過する患者および家族の特徴を多面的に理解する。
　慢性疾患患者が日常生活の規制の中で自己管理と社会生活の適応ができるよう、科学的根拠に基づき看護の問題解決を理解し、問題解決を図り実施する。
③患者の生活を中心とした医療チームの役割と社会資源について理解する。
④看護学生として学ぶ姿勢や態度を身に付ける。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	Ⅰ.実習施設					
	平野総合病院					
	Ⅱ.実習方法					
	・学生80名を1グループ5～6名の20グループに編成し、小児看護学実習、母性看護学実習と共にローテーションで行う。				慢性期とはどのようなことか、特徴をもとに看護師の役割や、チーム医療について学習する。	・看護過程の展開をする中で慢性期の特徴を活用する。
	・実習前オリエンテーションを行う。 ・平野総合病院の病棟一箇所で行う。 ・一人の患者を受け持ち、看護の実践を行う。				慢性期を支える看護として、セルフケア、セルフマネジメント、自己効力感、症状マネジメント、学習支援等について学習する。	・看護過程の展開をする中で慢性期の特徴を活用する。
	・事前学習は、病棟の概要に記入してある疾患をもとに、解剖生理、病態、検査、看護の学習を行う。				・実習病院の概要に記載してある、疾患および検査・治療とその看護について事前学習を行う。	・受け持ち患者の疾患について学習が不足している点など振り返り学習を行う。
	・実習は、教員・臨床指導者の指導を受けながら、患者の全体像を把握し具体的な看護過程の展開を行う。				・看護過程の展開とはどのようなことか、情報収集、アセスメント、問題の抽出、看護計画、評価について学習し、サイクルになっていることを再確認する。	・看護過程の展開を行いながら看護を実践する。また、その振り返りを毎日行う。
	・学内実習は、病態の理解を深めたり、記録の整理を行う。 ・病棟では、毎日カンファレンスを計画・実施し、看護の方向性の検討や学びを深める。				・根拠を理解した上で援助が行えるよう看護援助（技術）を身に付ける。	・日々の記録の振り返りを行い、援助（技術）での今後の課題点について把握し、練習を行う。
	・実習最終日に、実習施設で教員・臨床指導者と共に反省会を行う。				・自己の学びをまとめ、振り返りをすることで、次への課題を明確にする。	・グループ内の意見交換より、自己の学び、課題を再度考察する。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習

評価基準・評価方法
目標到達度、出席状況、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。

使用教科書
成人看護学　慢性期看護 / 鈴木久美、簇持知恵子、佐藤直美、編集.--改定第4版--南江堂，2023年, 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学 / 北川公子他.--第９版--医学書院，2018，978-4-260-03186-8

参考図書
系統看護学講座専門分野Ⅱ　成人看護学（2）～（15）医学書院

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	学習状況の確認を行い必要な課題を提示します。実習中その都度、記録へのコメントを残し、それをもとに口頭でも質問し学習を活かした看護が行えるよう指導します。また、学生の考えを聞きながら学生主体の実習が行えるように指導します。
備考	実習中、事前学習ノートを用い疾患や看護について知識を確認しながら学習をしていきます。慢性期の特徴や看護、各疾患について知識を持ち実習に向かう準備を行って実習に臨んでください。 専門科目の健康生活を支えるための看護の原理と基礎の科目すべて、成人・高齢者看護学概論、成人看護活動論Ⅰ・Ⅱ、高齢者看護活動論Ⅰの単位を修得済みであること。成人看護活動論Ⅲ、高齢者看護活動論Ⅱについては履修済であること。

授業科目名		担当教員	
小児看護活動論Ⅰ		松野　ゆかり・岩瀬　桃子・近藤　富雄・遠渡　絹代・岡本　知美・白木　大輔・中川　みのり　(代表教員　松野　ゆかり)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	2単位(30時間)	講義・演習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		松野　ゆかり（看護師）　岩瀬桃子（看護師）　近藤富雄（医師）　遠渡絹代（専門看護師）　岡本知美（認定看護師）　白木大輔（認定看護師）　中川みのり（看護師）	

授業概要

小児特有疾患の病態・治療について基礎的知識を学習したうえで、小児各期の発達段階や状況・疾病経過に応じた具体的援助方法を学習する。健康を障害された小児及び家族が持つ健康問題について学習する。さらに疾病予防といった小児保健の諸問題にも触れながら、小児看護の役割を学ぶ。

学修の到達目標

①病気・障害による子どもと家族への影響を理解し必要な支援について説明できる。
②様々な状況における子どもと家族を理解し、必要な援助について説明できる。
③小児に発症しうる疾患の発生機序、症状など疾患概念について説明できる。
④疾患について学び、ｱｾｽﾒﾝﾄの視点がわかり、根拠をもった看護について説明できる。
⑤障害のある子どもと家族について学習し、必要な支援について説明できる。
⑥虐待について知り、事故との見極めの判断ができる。虐待を受けている、又は可能性のある子どもと家族の支援について説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	病気・障害を持つ小児と家族の看護 病気に対する子どもの理解、インフォームドアセント、プレパレーション 病気や診療・入院が子どもと家族に与える影響と看護 外来における子どもと家族への看護	①	松野	講義	・認知発達段階について復習 ・入院・外来に関する動画視聴　120分	＊小テストで確認 各発達段階の子どもに現れやすい反応と必要な看護について、子どもの病気や障害に対して家族が示す反応　120分
2	小児の在宅療養者への看護	②	中川	講義	教科書該当箇所予習 疑問点を一つ調べる　120分	＊小テストで確認 120分
3	染色体異常・先天異常と看護、新生児の看護　ダウン症候群、トリソミー、性染色体異常、新生児疾患	③ ④	岡本	講義	教科書該当箇所予習 疑問点を一つ調べる　120分	＊小テストで確認 各疾患のまとめ 120分
4	小児における疾病の経過と看護（1）慢性期 慢性期の特徴、小児慢性特定疾患治療研究事業、慢性状態が子どもに与える影響	②	岩瀬	講義	①【慢性期】の事例を読んで慢性期と終末期における小児と家族の特徴を理解する②小児慢性特定疾患について調べる　120分	＊小テストで確認 各疾患のまとめ 120分
5	代謝性疾患と看護、内分泌疾患と看護（1型糖尿病）	③ ④	岩瀬	講義	①新生児マススクリーニングについて調べる②Ⅰ型糖尿病について調べる 120分	＊小テストで確認 各疾患のまとめ 120分
6	免疫疾患・アレルギー性疾患・リウマチ疾患（気管支喘息、食物アレルギー）	③ ④	近藤	講義	教科書該当箇所予習 疑問点を一つ調べる　120分	＊小テストで確認 各疾患のまとめ 120分
7	血液・造血器疾患と看護、悪性新生物と看護　（血小板減少性・血管性紫斑病）	③ ④	岩瀬	講義	①急性リンパ性白血病について調べる ②芽腫について調べる　120分	＊小テストで確認 各疾患のまとめ 120分
8	腎・泌尿器および生殖器疾患と看護　（ネフローゼ症候群）	③ ④	岩瀬	講義	①ネフローゼ症候群について調べる②溶血性尿毒症症候群について調べる 120分	＊小テストで確認 各疾患のまとめ 120分
9	急性期にある子どもと家族への看護 子どもの手術の特徴、計画・緊急手術、術前術後の看護	③ ④	松野	講義	慢性期と急性期の看護の違いについて学習　講義内で確認 120分	＊小テストで確認 周手術期の看護について、発達段階別の観察ポイントについてまとめる 120分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	循環器疾患と看護（先天性心疾患、川崎病） 消化器疾患と看護（口唇口蓋裂、肥厚性幽門狭窄症、ヒルシュスプルング病、鎖肛、腸重積症、臍・臍帯・外鼠径ヘルニア、胆道閉鎖症、ロタウィルス）	③ ④	松野	講義	正常な消化器の解剖生理について学習。講義内で発問 120分	＊小テストで確認 各疾患のまとめ 120分
11	感染症（ウィルス感染症　細菌感染症） 呼吸器疾患（肺炎、気管支炎）	③ ④	近藤	講義	教科書該当箇所予習 疑問点を一つ調べる 120分	＊小テストで確認 各疾患のまとめ 120分
12	神経疾患と看護（てんかん、熱性けいれん、二分脊椎、脳性麻痺） 運動器疾患と看護（先天性股関節脱臼、骨折、先天性内反足、先天性筋性斜頸）	③ ④	松野	講義	原始反射、正常な神経系・運動器の解剖生理について学習。講義内で確認 120分	小テスト 各疾患のまとめ 120分
13	事故・外傷と看護	① ② ③	白木	講義	該当内容の統計について調べる　講義内で確認　120分	＊小テストで確認 各疾患のまとめ 120分
14	障害のある子どもと家族の看護 （障害受容、重症心身障害児）	⑤	遠渡	講義	教科書該当箇所予習 疑問点を一つ調べる 120分	＊小テストで確認 重症心身障害児とは 120分
15	子どもの虐待と看護	⑥	遠渡	講義	教科書該当箇所予習 疑問点を一つ調べる 120分	＊小テストで確認 虐待の定義、種類、統計、看護　120分
	試験					

評価基準・評価方法

認知領域（知識）：最終筆記試験（80%）
精神運動・情意領域（技術・態度）：課題・レポート（20%）

使用教科書

系統看護学講座　小児看護学〔1〕小児看護学概論／小児臨床看護総論 / 奈良間美保.--医学書院, 2022年, 978-4-260-03860-7
系統看護学講座　小児看護学〔2〕小児看護学各論 / 奈良間美保.--医学書院, 2022年, 978-4-260-03866-9

参考図書

・中野 綾美：小児看護学 小児看護技術 、メディカ出版
・中野 綾美：小児看護学 小児の発達と看護 、メディカ出版

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	事前学習及び課題は講義内容に反映させる。
備考	授業は遅刻欠席のないように努力する。開始時の双方向システムによる出席確認を行う。欠席した場合は、登校後資料を取りにくる。 質問はクラスルーム投稿または直接声をかけてください。回答は随時行います。

授業科目名		担当教員	
小児看護活動論Ⅱ		松野　ゆかり・岩瀬　桃子　(代表教員　松野　ゆかり)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	講義･演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ (2) (3) (4) の達成に寄与している。		松野　ゆかり（看護師）　岩瀬　桃子（看護師）	

授 業 概 要
事例に沿って、小児特有の代表的な症状のメカニズム、経過、症状緩和技術を学ぶ。また、子どもが検査や処置を受ける際の子どもと家族の影響を最小限にするための知識、小児看護技術を学び、具体的な援助方法を理解する。事例を通して対象を理解するためのアセスメント方法、看護問題の抽出を行い、小児とその家族の全体像を観る視点を修得する。

学 修 の 到 達 目 標
①事例を通して、子どもの状態を適確にアセスメントする視点と必要な看護を結びつけることができる。 ②事例を通して検査・処置に関する基礎的知識を理解し、小児看護技術を身につけ、得られた結果についてｱｾｽﾒﾝﾄすることができる。 ③事例を用いて看護展開を行い、グループワークにより不足している視点を取り入れることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	症状を示す小児の看護（1）	① ②	松野 岩瀬	講義 演習	事例について調べる 症状出現のアセスメント 講義内で確認　60分	
2	症状を示す小児の看護（2）	① ②	松野 岩瀬	講義 演習		
3	症状を示す小児の看護（3）	① ②	松野 岩瀬	講義 演習		
4	症状を示す小児の看護（4）	① ②	松野 岩瀬	講義 演習		
5	症状を示す小児の看護（5）	① ②	松野 岩瀬	講義 演習	発表準備（60分）	
6	症状を示す小児の看護（6）	① ②	松野 岩瀬	演習		演習後レポート　提出 120分
7	症状・疾患のある小児の看護　（1）	① ②	松野 岩瀬	講義 演習		
8	症状・疾患のある小児の看護　（1）	① ②	松野 岩瀬	講義 演習	発表準備　60分	演習後レポート　提出　120分
9	症状・疾患のある小児の看護　（2）	① ②	松野 岩瀬	演習		

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	症状・疾患のある小児の看護　(2)	① ②	松野 岩瀬	講義 演習	発表準備　60分	演習後レポート　提出（120分）
11	症状・疾患のある小児の看護　（3）	③	松野 岩瀬	演習		
12	症状・疾患のある小児の看護　（3）	③	松野 岩瀬	演習	発表準備　(60分)	演習後レポート　提出（120分）
13	症状を示す小児の看護　アセスメント技術	③	松野 岩瀬	講義 演習		
14	症状を示す小児の看護　アセスメント技術（演習）	③	松野 岩瀬	演習		
15	症状を示す小児の看護　アセスメント技術（演習）	③	松野 岩瀬	演習		演習後レポート　提出　(120分)
	試験					

評価基準・評価方法
認知領域（知識）：筆記試験（60%） 精神運動・情意領域（技術・態度）：レポート課題（20%）　看護過程の演習内容（20%）

使用教科書
系統看護学講座　小児看護学〔1〕小児看護学概論／小児臨床看護総論 / 奈良間美保　他.--医学書院，2022年，978-4-260-03860-7 系統看護学講座　小児看護学〔2〕小児看護学各論 / 奈良間美保　他.--医学書院，2022年，978-4-260-03866-9

参考図書
・中野 綾美：小児看護学 小児看護技術 、メディカ出版 ・中野 綾美：小児看護学 小児の発達と看護 、メディカ出版

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	事前学習及び課題は講義内容に反映させる。
備考	開始時の双方向システムによる出席と振り返りカードによる出席確認を行う。欠席した場合は、登校後資料を取りに来る。質問は振り返りカードに記入、または直接声をかけてください。カードに対する解答は随時行います。

授業科目名		担当教員	
小児看護学実習		松野　ゆかり・岩瀬　桃子・他　(代表教員　松野　ゆかり)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	2単位(60時間)	実習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		松野ゆかり（看護師）　岩瀬桃子（看護師）　他	

授業概要

子どもの成長発達段階および子どもを取り巻く環境を理解し、子どもに応じた看護を実践するための基礎的能力を養う。

学修の到達目標

保育施設：①健康な子どもの成長発達段階の特徴を説明できる。
②成長発達段階に応じた養育を実践できる。
③乳幼児に起こりうる事故を知り、適切な環境と予防対策について説明できる。
④成長発達段階に応じた援助について看護の視点で考察できる。
⑤子どもと家族にケアを提供する専門看護職としてふさわしい社会性及び態度をとることができる。

病院・施設：①健康を障害された子どもと家族の特徴を説明できる。
②健康を障害された子どもの成長発達段階と病状に応じた看護を説明できる。
③小児の安全対策を理解し、起こりやすい事故の防止と感染防止を説明できる。
子どもや家族を支えるサービスや職種の連携、看護師の役割を説明できる。
⑤子どもと家族にケアを提供する専門看護職としてふさわしい社会性及び態度をとることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	Ⅰ．実習施設					
	①保育施設、児童養護施設	①〜⑩			＜保育施設共通課題＞ ＊乳幼児の成長発達 ・乳幼児 形態的特徴・運動機能・知的機能・コミュニケーション機能・情緒社会的機能・栄養 養育および看護（日常生活、遊び、事故防止、育児支援） ・成長発達評価	実習記録に準じて毎日記録する。
	②希望が丘子ども医療福祉センター、岐阜市民病院、福富医院、長良医療センター				＜病院施設（共通）＞ ・学童期・思春期の特徴と看護 ・病気・障害を持つ子どもと家族の看護 ・小児の入院および外来における看護 ＜その他＞ ・上記以外、小児看護学実習に必要と考える内容、または興味のある内容についての学習をノートⅠページ以上追加する。	実習記録に準じて毎日記録する。
	Ⅱ．実習方法					
	1.実習期間2週間のうち、1週間は保育施設実習、1週間は病院及び施設実習とする。					
	2.小児実習の特徴的内容の事前学習を行う。					
	3.保育施設では、子どもとの関りを通して、成長発達と養護について学び、看護への視点を学ぶ。実習施設ごとの学びを学内で共有する。					
	病院および施設では、原則患児一人受け持ち、対象にあった看護を理解する。					
	4.実習病院または施設にてオリエンテーションを受け、療養中の小児の特徴や環境を理解する。					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	5.カンファレンスで、対象児の全体像を把握する為に自分の疑問や意見を述べる。また、最終日には、小児看護学実習の学びと課題を明らかにする。					
					事前学習	
					・ 病気･障害をもつ小児と　家族の看護	
					・ 小児の入院及び外来における看護	
					・ 疾患及び症状看護	
					・ 小児看護技術	
					・障害児の福祉施策、法律、児童福祉施設 ・ 障害のある小児と家族の看護	

評価基準・評価方法
目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。

使用教科書
系統看護学講座　小児看護学〔1〕小児看護学概論／小児臨床看護総論 / 奈良間美保.--医学書院, ・系統看護学講座　小児看護学〔2〕小児看護学各論 / 奈良間美保.--医学書院,

参考図書
・石黒彩子：発達段階からみた小児看護過程＋病態関連図、医学書院 ・浅野みどり：根拠と事故防止からみた小児看護技術、医学書院 ・中野 綾美：小児看護学 小児看護技術 、メディカ出版 ・中野 綾美：小児看護学 小児の発達と看護 、メディカ出版

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	実習記録は添削し指導する。
備考	履修前提条件：小児看護概論、小児看護活動論Ⅰの単位を修得済みであること。 感染症(水痘、麻疹、風疹、流行性耳下腺炎）の抗体価が陽性でない場合は予防接種を受けていること。 インフルエンザについても該当時期に予防接種を受けていること。 保育施設実習前に検便を実施し、細菌検査結果陰性である事。

授業科目名		担当教員	
母性看護活動論Ⅰ		皮野　さよみ・清水　ゆかり・田中　季果・平野　聡子　(代表教員　皮野　さよみ)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	2単位(30時間)	講義･演習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) の達成に寄与している。		皮野さよみ（助産師・看護師）、清水ゆかり（助産師・看護師）、田中李果（助産師・看護師）、平野　聡子（医師）	

授 業 概 要

女性のライフサイクルにおける妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある人と家族の健康を支えるために必要な看護を学ぶ。

学 修 の 到 達 目 標

①妊娠期の看護について説明できる。
②分娩期の看護について説明できる。
③産褥期の看護について説明できる。
④新生児期の看護について説明できる。
⑤母子関係・親子関係・家族関係をはぐくむための支援を説明できる。
⑥正常から逸脱した対象の看護を説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	妊娠期の看護：妊娠の定義，妊婦の特徴，妊娠期の母児のアセスメント（NST他）	①⑤	皮野	講義	妊娠期の母児のアセスメントの要点の予習　120分	妊娠期の母児のアセスメントの要点のまとめ　120分
2	妊娠期の看護：妊娠期の健康課題に基づいた妊婦の看護	①⑤	皮野	講義	妊婦の看護の要点の予習　120分	妊婦の看護に関する国家試験問題の解説学習・提出　120分
3	分娩期の看護：分娩期の定義，分娩の経過，産婦の特徴，分娩各期の母児のアセスメント	②⑤	清水	講義	産婦の身体的・心理的特徴の予習 120分	産婦の身体的・心理的特徴のまとめ 120分
4	分娩期の看護：分娩各期の母児のアセスメントに基づいた看護	②⑤	清水	講義	分娩期の看護の要点の予習　120分	産婦の看護に関する国家試験問題の解説学習・提出　120分
5	産褥期の看護：産褥期の定義，褥婦と家族の特徴（進行性変化・退行性変化）	③⑤	清水	講義	褥婦と家族の特徴の予習　120分	褥婦と家族の特徴のまとめ　120分
6	産褥期の看護：褥婦と家族のアセスメント	③⑤	清水	講義	褥婦と家族のアセスメントの予習 120分	褥婦と家族のアセスメントのまとめ 120分
7	産褥期の看護：入院中の褥婦の看護	③⑤	清水	講義	入院中の褥婦の看護の内容の予習 120分	入院中の褥婦の看護のまとめ　120分
8	産褥期の看護：入院中・退院後の褥婦の看護	③⑤	清水	講義	入院中・退院後の褥婦の看護の予習 120分	褥婦の看護に関する国家試験問題の解説学習・提出　120分
9	新生児の看護：新生児の定義，新生児の特徴，新生児の観察と計測	④⑤	皮野	講義	新生児の特徴，新生児の観察と計測の予習　120分	新生児の特徴，新生児の観察と計測のまとめ　120分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	新生児の看護：新生児のアセスメント	④ ⑤	皮野	講義	新生児のアセスメントの予習　120分	新生児のアセスメントのまとめ　120分
11	新生児の看護：出生直後～24時間以内の看護	④ ⑤	皮野	講義	出生直後～24時間以内の看護の予習 120分	出生直後～24時間以内の看護のまとめ 120分
12	新生児の看護：生後1日～退院までの看護	④ ⑤	田中	講義	生後1日～退院までの看護の予習 120分	新生児の看護に関する国家試験問題の解説学習・提出 120分
13	正常から逸脱した妊婦・産婦・褥婦・新生児の特徴、検査、治療	⑥	平野	講義	正常から逸脱した妊婦・産婦・褥婦・新生児の特徴、検査、治療の予習　120分	正常から逸脱した妊婦・産婦・褥婦・新生児の特徴、検査、治療のまとめ 120分
14	正常から逸脱した妊婦・産婦の看護	⑥	皮野	講義	正常から逸脱した妊婦・産婦の看護の予習　120分	正常から逸脱した妊婦・産婦の看護のまとめ　120分
15	正常から逸脱した褥婦・新生児の看護	⑥	清水	講義	正常から逸脱した褥婦・新生児の看護の予習　120分	正常から逸脱した妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護に関する国家試験問題解説学習・提出　120分
	試験（筆記）					

評価基準・評価方法

認知領域（知識）：課題・レポート内容（30%），筆記試験（60%）
精神運動・情意領域（技術・態度）：レポート提出・意見発表等の参加度（10%）

使用教科書

母性看護学各論（母性看護学２） / 森恵美ほか.--第14版--医学書院，2021年，ISBN978-4-260-04223-9

参考図書

・太田操編：ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程，第3版，医歯薬出版，2021年，ISBN978-4-263-23687-1
・医療情報科学研究所編：病気が見えるvol.10 産科，第４版，メディックメディア，ISBN978-4-89632-713-7
・平澤美恵子他：新訂版写真でわかる母性看護技術アドバンス，インターメディカ，2020年，ISBN978-4-89996-410-0

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	各回の授業計画参照
備考	質問等については、次の講義等で説明し、フィードバックします。 講義順及び講義担当者が変更になる場合があります。さらに評価基準が変更になる場合があります。

授業科目名		担当教員	
母性看護活動論Ⅱ		皮野　さよみ・清水　ゆかり・田中　季果　(代表教員　皮野　さよみ)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	1単位(30時間)	演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3)の達成に寄与している。		皮野さよみ（助産師・看護師）、清水ゆかり（助産師・看護師）、田中季果（助産師・看護師）	

授業概要
母性看護の対象に応じた看護を実践するための観察・援助技術の習得について学習する。また、母性看護の対象の看護実践を行うための「科学的な思考」について正常経過をたどる褥婦と新生児の事例の展開を通して学習する。

学修の到達目標
①母性看護の実践に必要な妊婦・産婦・褥婦・新生児の看護技術を習得する。 ②正常経過をたどる褥婦と新生児の看護過程の展開をとおして科学的な思考ができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	妊婦の観察とアセスメント レオポルド触診法, NST	①	皮野 清水 田中	演習	レオポルド触診法・NSTの援助計画作成 30分	レオポルド触診法の援助計画修正・提出 30分
2	産婦の観察とアセスメント 産痛緩和, CTG,	①	皮野 清水 田中	演習	動画視聴　30分	
3	褥婦の観察とアセスメント 全身状態・退行性変化の観察	①	皮野 清水 田中	演習	動画視聴　30分	
4	褥婦の観察とアセスメント 進行性変化の観察	①	皮野 清水 田中	演習	動画視聴　30分	
5	新生児の観察とアセスメント バイタルサイン・計測等	①	皮野 清水 田中	演習	新生児のバイタルサインの援助計画作成 30分	新生児のバイタルサインの援助計画修正・提出　30分
6	新生児の育児技術 抱き方・寝かせ方・オムツ交換・寝衣交換・沐浴	①	皮野 清水 田中	演習	沐浴の援助計画作成 30分	沐浴の援助計画修正・提出　30分
7	褥婦と新生児の看護過程の展開 ウエルネス看護とは、事例紹介	②	皮野 清水 田中	演習		事例の読み込み 30分
8	褥婦と新生児の看護過程の展開 妊娠期のアセスメント	②	皮野 清水 田中	演習	妊娠期のアセスメント作成　60分	妊娠期のアセスメント修正・提出　30分
9	褥婦と新生児の看護過程の展開 分娩期のアセスメント	②	皮野 清水 田中	演習	産婦のアセスメント作成　30分	産婦のアセスメント修正・提出　30分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	褥婦と新生児の看護過程の展開 出生直後の新生児のアセスメント	②	皮野 清水 田 中	演習	出生直後の新生児のアセスメント作成 30分	出生直後の新生児のアセスメント修正・提出　30分
11	褥婦と新生児の看護過程の展開 産後1日目の褥婦のアセスメント	②	皮野 清水 田 中	演習	産後1日目の褥婦のアセスメント作成 60分	産後1日目の褥婦のアセスメント修正・提出　30分
12	褥婦と新生児の看護過程の展開 出生後1日目の新生児のアセスメント	②	皮野 清水 田 中	演習	出生後1日目の新生児のアセスメント作成　60分	出生後1日目の新生児のアセスメント修正・提出　30分
13	褥婦と新生児の看護過程の展開 2日目の褥婦と新生児の看護計画	②	皮野 清水 田 中	演習	2日目の褥婦と新生児の看護計画作成 30分	2日目の褥婦と新生児の看護計画修正・提出　30分
14	褥婦と新生児の看護過程の展開 産後3日目の褥婦のアセスメント	②	皮野 清水	演習	産後3日目の褥婦のアセスメント作成 30分	産後3日目の褥婦のアセスメント修正・提出　30分
15	褥婦と新生児の看護過程の展開 出生後3日目の新生児のアセスメント	②	皮野 清水 田 中	演習	出生後3日目の新生児のアセスメント作成　30分	出生後3日目の新生児のアセスメント修正・提出　30分
	試験（筆記試験・沐浴技術試験）					

評価基準・評価方法

認知領域（知識）：筆記試験（35%），メモノート（20%），母性看護技術援助計画書（15%），看護過程レポート（20%）
精神運動・情意領域（技術・態度）：母性看護技術（沐浴）試験（10%）

使用教科書

母性看護学各論（母性看護学２）　/ 森　恵美ほか.--第14版--医学書院，2021年，ISBN978-4-260-04223-9
根拠がわかる母性看護過程 / 中村幸代ほか.--第１版--南江堂，2021年，ISBN978-4-524-25513-9

参考図書

・平澤美恵子他：新訂版写真でわかる助産技術アドバンス，インターメディカ，2021年，ISBN978-4-89996-436-0
・平澤美恵子他：新訂版写真でわかる母性看護技術アドバンス，インターメディカ，2020年，ISBN978-4-89996-410-0

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	各回の授業計画参照
備考	質問等については、次の講義等で説明し、フィードバックします。 講義順及び講義担当者が変更になる場合があります。さらに評価基準が変更になる場合があります。

授業科目名		担当教員	
母性看護学実習		皮野　さよみ・清水　ゆかり・田中　季果　(代表教員　皮野　さよみ)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	2単位(60時間)	実習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3)看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4)の達成に寄与している。		皮野さよみ（助産師・看護師）、清水ゆかり（助産師・看護師）、田中季果（助産師・看護師）	

授 業 概 要

妊婦・産婦・褥婦・新生児とその家族の健康を支えるために必要な看護を学び、母子と家族を支える多職種の連携・協働を理解し、チームの一員としての看護の役割を学ぶ。

学 修 の 到 達 目 標

①受け持ち褥婦の妊娠期のアセスメントを説明できる。
②受け持ち褥婦の分娩期のアセスメンを説明できる。
③受け持ち褥婦のアセスメントと必要な看護を一部実施できる。
④受け持ち新生児のアセスメントと必要な看護を一部実施できる。
⑤母子関係・親子関係・家族関係をはぐくむための多職種の連携・協働を説明できる。
⑥生命の尊厳・母子と家族の人権・プライバシーに配慮した行動をとることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	1．褥婦と新生児を受け持ち、退行性変化・進行性変化促進、母親役割適応過程及び児の胎外生活適応のアセスメント・看護計画の立案・看護計画に基づいて受け持ち褥婦の退行性変化・進行性変化を促進する看護を指導者と共に一部実施・評価すると共に・新生児の観察・環境調整・沐浴等の看護計画を立案し、指導者と共に一部実施・評価する。	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	皮野 清水 田中	実習	褥婦の退行性変化・進行性変化促進、母親役割適応過程及び児の胎外生活適応のアセスメント・看護計画を立案し提出　60分	看護計画に基づいて指導者と共に一部実施し、評価・考察をレポートし、提出　60分
	2．妊娠期から育児期の保健指導（母親学級・退院指導・沐浴指導，各種相談）の見学と見学記録における考察を行う。	① ② ③ ④ ⑤ ⑥	皮野 清水 田中	実習	退院指導・沐浴指導等の指導の要点をテキストにて確認する60分	見学した退院指導・沐浴指導等の結果・考察をレポートし提出　60分
	3．NICUでは、長期・短期に医療依存度の高い子どもと家族に対する看護・治療に伴うストレスを軽減し、子どもの成長・発達を促進する環境づくりのための看護を見学し考察する。	④ ⑤ ⑥	皮野 清水 田中	実習	NICUにおける看護の要点をまとめる60分	NICUにおいて見学した看護を考察し、レポートを提出　60分
	4．母子と家族に関わる医師・助産師・外来看護職員・地域の保健師・小児科など多職種の連携・協働の見学・説明を受ける看護の役割を考察する。	⑤	皮野 清水 田中	実習	母子と家族に関わる多職種の連携・協働の要点についてまとめる　60分	見学した母子と家族に関わる多職種の連携・協働を考察し、レポート提出　60分
	5．実習全体をとおして生命の尊厳への認識を深め、カンファレンスの発言・レポートに表現する。	⑥	皮野 清水 田中	実習	生命の尊厳・個人の尊厳を守るとはについて自己の考えをまとめておく　60分	生命の尊厳・個人の尊厳を守るとはについて自己の考えのレポート提出　60分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習

評価基準・評価方法
認知領域（知識）：評価表（認知領域部分） 精神運動・情意領域（技術・態度）：評価表（精神運動・情意領域部分）　　合計100％

使用教科書
母性看護学各論（母性看護学２），第14版　/ 森恵美ほか.--医学書院，2022年，ISBN978-4-260-04223-9 根拠がわかる母性看護過程，第4版　/ 中村幸代ほか.--南江堂，2021年，ISBN978-4-524-25513-9

参考図書
・医療情報科学研究所編：病気が見えるvol.10 産科，第４版，メディックメディア，ISBN978-4-89632-713-7 ・平澤美恵子他：新訂版写真でわかる助産技術アドバンス，インターメディカ，2021年，ISBN978-4-89996-436-0 ・平澤美恵子他：新訂版写真でわかる母性看護技術アドバンス，インターメディカ，2020年，ISBN978-4-89996-410-0

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	実習中及び学内日に説明・実施等の指導を行う。
備考	母性看護学オリエンテーション及び各施設ごとの実習オリエンテーションの内容に基づいて、学習をすすめましょう。

授業科目名		担当教員	
精神看護学概論		三品　弘司	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 前学期	1単位(15時間)	講義
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		三品弘司（看護師）	

授業概要
精神看護学概論では、対象の個別性を捉えられるように、各ライフステージにおける成長・発達課題の理解を深め、自我の防衛機能とストレスコーピングの考え方、また患者の自己対処能力について学習する。そして、より健康な社会生活を営むため、或いは精神の不健康状態からの回復を支えるための看護について、その意義、目的、方法等について学習する。

学修の到達目標
①対象の個別性を捉えられるように、パーソナリティの発達過程と各ライフステージにおける成長・発達課題を理解し、自我の防衛機能とストレス・コーピングの考え方、患者の自己対処能力について説明できる。 ②対象を取り巻く環境として、精神保健の動向や現代のストレス社会の理解と現行の精神保健福祉法の目指す目的が説明できる。 ③精神障害を持つ対象への看護のアプローチに基本的な考え方を身に付けることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	精神的健康の定義　脳の構造と認知機能	①	三品	講義		精神的健康の定義を理解すること 精神看護と精神科看護の違いを理解すること（120分）
2	精神力動と防衛機制	②	三品	講義	意識・前意識・無意識の違いを調べること 防衛機制「合理化」「同一視」「昇華」「転換」について調べてくること（180分）	講義で扱った防衛機制すべてを理解すること 「イド」「エゴ」「スーパーエゴ」の関係を理解すること（120分）
3	精神医療の変遷　　精神看護の変遷	②	三品	講義	科書を参考に課題プリントの(　　)を埋めてくること。（120分）	精神医療の変遷の概要を理解すること。（120分）
4	精神保健と法律　精神保健法について	③	三品	講義	入院形態（任意・医療保護・措置・緊急措置・応急）の違いについて調べてること（120分）	精神保健福祉法について理解すること（180分）
5	ライフサイクルにおける心の発達（フロイトの理論、マラーの理論、エリクソンの理論）	①	三品	講義		各理論を理解すること（180分）
6	危機的状況にある人の理解（ストレスと危機）	③	三品	講義	「バーンアウト」「アパシー」「青い鳥症候群」「空の巣症候群」について調べてくること（120分）	各用語について覚えること ストレスマネジメントの考え方を理解すること（120分）
7	精神障害の理解　治療的環境の理解	③	三品	講義	閉鎖病棟・解放病棟の特徴について調べること（60分）	精神医療の治療的環境について理解すること（120分）
8	精神医療の現状と課題	②	三品	講義	教科書記載の統計等の資料を見ること（120分）	日本の精神医療について理解すること（120分）
	筆記試験					

評価基準・評価方法
小テスト（20%）、筆記試験（80%）

使用教科書
新体系看護学全書　精神看護学１　精神看護学概論・精神保健 / 岩崎弥生ほか.--第6版--メヂカルフレンド社, 2021年, 978-4-8392-3389-1 新体系看護学全書　精神看護学２　精神障害をもつ人の看護 / 岩崎弥生ほか.--第6版--メヂカルフレンド社, 2021年, 978-4-8392-3390-7

参考図書
・武井麻子：精神看護学ノート 第２版, 医学書院, 2005年. ・舟島なをみ他：看護のための人間発達学 第５版, 医学書院, 2017年. ・末安民生他：系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 第３版, 医学書院, 2016年.

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	・授業終了時に授業全体を振り返り、感想や考えたこと、質問等を「レスポンスカード」に記載して提出してもらう。質問の内容は次回の授業で説明する。 ・提出したレポートや小テストは、授業時間内に講評のうえ、必要に応じて解説をする。 ・小テストを計２回実施する。（第１回：入院形態と精神保健福祉法第２回：防衛機制と発達理論（フロイト／エリクソン） ・小テストの内容の詳細や期日、各講の予習・復習する教科書の該当ページは、第１講で詳細を説明する。
備考	授業中に携帯電話に触れる行為や飲食、他の学生に迷惑をかけるような行為を見かけた場合は、退室を命じ、かつ欠席扱いとする。

授業科目名		担当教員	
精神看護活動論Ⅰ		三品　弘司・出口　睦雄・村上　秀和・川崎　友香・小森　あゆみ・森　敏幸　(代表教員　三品　弘司)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	2年 後学期	2単位(30時間)	講義・演習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ・ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		三品弘司（看護師・保健師）、出口睦雄（看護師）、村上秀和（看護師）、川崎友香（看護師）、小森あゆみ（音楽療法士）	

授業概要

精神看護活動論Ⅰでは、精神疾患を理解し、看護の実践方法について学ぶ。そのために、まず、精神疾患あるいは状態ごとの症状の表れ方を理解し、問題解決に向けた具体的援助の方法について学習する。次いで、コミュニケーション技法や芸術療法などの演習を通し、精神看護の基礎的技術を習得する。

学修の到達目標

①主な精神疾患とその看護について説明できる。
②精神看護における観察の意義および視点を説明できる。
③看護師－患者関係の意義について説明できる。
④精神障害をもちながらもその人らしく生きることについてリカバリーの視点から考えることができる。
⑤精神障害者の地域生活を支える保健医療福祉の実際について説明できる。
⑥精神医療に携わる専門職とその役割と多職種連携における看護師の役割について説明できる。
⑦関わりの場面の再構成を通して、そこで何が生じているのかを表現できる。（自己洞察の重要性が理解できる）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	統合失調症の理解と看護（1）	① ②	三品 村上	講義	教科書②p72–77を読み、統合失調症の疫学、病因、症状、治療等を理解すること。（120分）	教科書②p274–288を読み、統合失調症患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。（120分）
2	統合失調症の理解と看護（2）	① ②	三品 村上	講義		第1回の事前・事後学習や授業で教授した内容を国試過去問題を利用しながら復習すること。（240分）
3	気分障害の理解と看護	① ②	出口	講義	教科書②p77–88を読み、気分障害の疫学、病因、症状、治療等を理解すること。（120分）	教科書②p288–304を読み、気分障害患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること（120分）
4	不安障害・強迫性障害・心的外傷の理解と看護	① ②	出口	講義	教科書②p88–104までを読み、不安障害、強迫性障害、心的外傷の疫学、病因、症状、治療等を理解すること。（120分）	教科書②p328–333を読み、強迫性障害患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。（120分）
5	解離性障害・解離性障害・注意欠陥多動症の理解と看護	① ②	出口	講義	教科書②p104–112を読み、解離性障害、身体症状症の疫学、病因、症状、治療等を理解すること。（120分）	教科書②p322–328を読み、注意欠如・他動性障害患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。（120分）
6	摂食障害・睡眠覚醒障害の理解と看護	① ②	三品	講義	教科書②p112–122を読み、摂食障害、睡眠覚醒障害の病因、症状、治療等を理解すること。（120分）	教科書②p333–337を読み、摂食障害患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。（120分）
7	物質関連障害（薬物・アルコール）の理解と看護	① ②	三品	講義	教科書②p122–129を読み、物質関連障害の病因、症状、治療等を理解すること。（120分）	教科書②p305–310を読み、アルコール依存症患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。（120分）
8	パーソナリティ障害・神経認知症候群の理解と看護	① ②	三品	講義	教科書②p130–147を読み、パーソナリティ障害とてんかんの病因、症状、治療等を理解すること。（120分）	教科書②p316–322を読み、自閉症スペクトラム障害患者への看護実践を理解すること。授業の教授内容を復習すること。（120分）
9	精神障害をもつ人への検査と治療① 心理検査　薬物療法	② ⑥	出口	講義	教科書②p152–170を読み、精神疾患の主な治療法のうち、薬物療法と電気けいれん療法について理解すること。（120分）	講義で説明した内容を国試過去問題も用いながら復習すること。（120分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	精神障害をもつ人への検査と治療② 精神療法　電気けいれん療法　他	② ⑥	三品	講義	教科書②p171-190を読み、精神疾患の主な治療法のうち、リハビリテーション療法と精神療法について理解すること。 教科書②p467-479を読み、災害時の精神看護について理解すること。（120分）	講義で説明した内容を国試過去問題も用いながら復習すること。（120分）
11	精神障害をもつ人への治療③／芸術療法	② ⑥	三品 小森	演習		芸術療法に関するレポート課題（180分）
12	リエゾン精神看護／精神科医療における多職種連携	② ⑥	川崎	講義	教科書②p428-442を読み、リエゾン精神看護について目を通す。 予習資料・教科書②p381-386を読み、精神科医療における各職種の役割について目を通す。（120分）	リエゾン看護に関するレポート課題（180分）
13	プロセスレコードの書き方（1）	⑦	出口	講義 演習	教科書②p215-223を読み、プロセスレコードについて目を通す。（120分）	プロセスレコードの加筆修正する。（120分）
14	プロセスレコードの書き方（2）	⑦	出口	演習		プロセスレコードの加筆修正する。（240分）
15	当事者との交流会	④ ⑤	三品 森	講義 演習	教科書②p371-374「D.当事者の力量を活かす相互作用」を読み、ピアについて理解する。（120分）	精神医療保健福祉におけるリカバリーの考え方、ピア活動の目的と意義、地域でのピア活動の実際、交流会の感想をレポートにまとめて提出する。（120分）
	試験					

評価基準・評価方法

認知領域（知識）：　最終試験で評価する。（70%）
精神運動・情意領域（技術・態度）：「演習参加状況」「レポート」で評価（20%）、小テスト（10%）

使用教科書

新体系看護学全書　精神看護学1　精神看護学概論・精神保健--第6版--2021年 / 岩崎弥生ほか.--メヂカルフレンド社, 978-4-8392-3389-1
新体系看護学全書　精神看護学2　精神障害をもつ人の看護--第6版--2021年 / 岩崎弥生ほか.--メヂカルフレンド社, 978-4-8392-3390-7

参考図書

・上島国利：最新図解 やさしくわかる最新医学, ナツメ社, 2017年, 978-4816362682.
・末安民生他：系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 第3版, 医学書院, 2016年, 978-4260021852.　※他の図書は授業内で紹介する

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	・授業終了時に授業全体を振り返り、感想や考えたこと、質問等を「レスポンスカード」に記載して提出してもらう。質問の内容は次回の授業で説明する。 ・提出したレポートや小テストは、授業時間内に講評のうえ、必要に応じて解説をする。
備考	・出席確認は、パトグラと「レスポンスカード」にて行う。出席カードの代筆や途中退室は、欠席扱いとする。 ・授業中に携帯電話に触れる行為や飲食、他の学生に迷惑をかけるような行為を見かけた場合は、退室を命じ、かつ欠席扱いとする。 ・小テストを計2回実施する。（第1回：統合失調症に関する内容、第2回：精神障害をもつ人の地域における生活への支援） ・小テストの内容の詳細や期日、各講の予習・復習する教科書の該当ページは、第1講で詳細を説明する。

授業科目名		担当教員	
精神看護活動論Ⅱ		三品　弘司・出口　睦雄　(代表教員　三品　弘司)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	1単位(30時間)	講義･演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ (2) (3) (4) の達成に寄与している。		三品弘司（看護師・保健師）、出口睦雄（看護師）	

授 業 概 要

精神看護活動論Ⅱでは、精神科看護における看護過程の展開方法についてオレム・アンダーウッド理論とストレングスモデルを用いながら事例を実際に展開し、対象を理解するためのアセスメント、患者の夢や希望、そしてストレングスを用いた看護援助計画の立案を行う能力を習得する。
また、精神の健康障害をもつ人との治療的関係を築くための必要な援助を修得し、その人らしく地域で生活できるためのリカバリーを大切にした支援の在り方について理解する。

学 修 の 到 達 目 標

1. 発達段階を踏まえた対象者のアセスメントができる。
2. 精神症状が日常生活に与える影響についてアセスメントができる。
3. オレム・アンダーウッド理論に基づいた看護展開が説明できる。
4. 精神科におけるリカバリーのあり方について説明できる
5. 精神疾患およびその疾患を有する患者への看護について説明できる。
6. プロセスレコードを通して自分の言動を考察し、コミュニケーション能力の向上を図ることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オレム・アンダーウッド理論　/　普遍的セルフケア要素の視点とアセスメントの考え方	③	三品	講義	オレム・アンダーウッド理論とセルフケア要素の説明を読むこと。（教科書②p238–247）（30分）	オレム・アンダーウッド理論とセルフケア要素について復習すること。（教科書②p238–247、授業資料）（30分）
2	精神障害をもつ人のリカバリー	④	三品	講義	教科書①p15–18、教科書②p8–15, 19, 171, 196を読み、精神保健医療福祉におけるリカバリーとは何か整理してくる。（30分）	予習内容および授業で教授した内容を国試過去問題も用いながら復習する。（30分）
3	リカバリーのためのストレングスモデル	③ ④	三品	講義	精神看護活動論Ⅰのリカバリーに関連する資料および教科書を読み復習すること。（30分）	講義で説明した内容を国試過去問題も用いながら復習すること。（30分）
4	精神障害をもつ人の地域における生活への支援	② ③ ⑤	出口	講義	精神障害をもつ人の地域における生活への支援はどのようなものがあるかを意識しながら教科書②p356–386を読むこと。（30分）	予習内容および授業で教授した内容を国試過去問題も用いながら復習する。（30分）
5	司法精神医療と看護／災害時の精神看護	⑤	出口	講義	司法精神看護および災害看護について教科書②443–479を読み理解すること（30分）	予習内容および授業で教授した内容を国試過去問題も用いながら復習する。（30分）
6	精神科病棟における事故防止・安全管理と倫理的配慮	⑤	出口	講義	教科書②p258–274を読み、精神障害をもつ人の治療的環境と生活の場としての環境のあり方について理解する。また、精神障害をもつ人の入院および治療の特殊性とそこにある倫理的問題を理解する。（30分）	講義で説明した内容を国試過去問題も用いながら復習すること。（30分）
7	プロセスレコードを用いた自己分析（1）	⑥	出口	演習	プロセスレコードの書き方を理解しておくこと。（教科書②pp215–223、精神看護活動論Ⅰ授業資料）（30分）	
8	プロセスレコードを用いた自己分析（2）	⑥	出口	演習		レポートの加筆修正をして提出する。（30分）
9	統合失調症患者の看護過程展開（1） 発達の特性についての解説	① ② ③	三品	講義 演習	発達の特性についての分析をしてくること。（60分）	

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	統合失調症患者の看護過程展開（2） 疾病の特性についての解説	① ② ③	三品	講義 演習	疾患の特性についての分析をしてくること。（60分）	
11	統合失調症患者の看護過程展開（3） セルフケア要素 各項目の解説①	① ② ③	三品	講義 演習	オレム・アンダーウッド理論を用いて情報整理・分析をしてくること。（60分）	
12	統合失調症患者の看護過程展開（4） セルフケア要素 各項目の解説②	① ② ③	三品	講義 演習	オレム・アンダーウッド理論を用いて情報整理・分析をしてくること。（30分）	レポートの加筆修正をして提出する。（30分）
13	統合失調症患者の看護過程展開（5） ストレングスモデルを用いた看護展開の解説	② ③ ④ ⑤	三品	講義	ストレングスモデルを用いて普遍的セルフケア要素の査定と情報の統合を行うこと。（30分）	レポートの加筆修正して提出する。（30分）
14	統合失調症患者の看護過程展開（6） ストレングスモデルを用いた看護計画の解説	② ③ ④ ⑤	三品	講義	ストレングスモデルを用いて看護計画を立案してくること。（30分）	レポートの加筆修正して提出する。（30分）
15	統合失調症患者の看護過程展開（7） 記録の修正	② ③ ④ ⑤	三品	講義 演習		レポートの加筆修正して提出する。（120分）
	定期試験					

評価基準・評価方法

認知領域（知識）：　最終試験で評価する。（60%）
精神運動・情意領域（技術・態度）：　レポート・態度で評価する。（40%）

使用教科書

新体系看護学全書　精神看護学１　精神看護学概論・精神保健--第6版--2021年 / 岩崎弥生ほか.--メヂカルフレンド社, 978-4-8392-3389-1
新体系看護学全書　精神看護学２　精神障害をもつ人の看護 --第6版--2021年 / 岩崎弥生ほか.--メヂカルフレンド社, 978-4-8392-3390-7

参考図書

・萱間真美：リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル活用術,医学書院,2016年,978-4260027984.
・萱間真美：パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 第2版, 照林社, 2015年,978-4796523417.
※他の図書は授業内で紹介する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	・授業終了時に授業全体を振り返り、感想や考えたこと、質問等を「レスポンスカード」に記載して提出してもらう。質問の内容は次回の授業で説明する。
備考	・出席確認は、「レスポンスカード」にて行う。レスポンスカードの代筆や途中退室は、欠席扱いとする。 ・授業中に携帯電話に触れる行為や飲食、他の学生に迷惑をかけるような行為を見かけた場合は、退室を命じ、かつ欠席扱いとする。

授業科目名		担当教員	
精神看護活動論Ⅱ（発展）		三品　弘司・出口　睦雄・村上　秀和　(代表教員　三品　弘司)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	1単位(45時間)	講義･演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ (2) (3) (4) の達成に寄与している。		三品弘司（看護師・保健師）、出口睦雄（看護師）、村上秀和（看護師）	

授業概要

精神看護活動論Ⅱでは、精神科看護における看護過程の展開方法についてオレム・アンダーウッド理論とストレングスモデルを用いながら事例を実際に展開し、対象を理解するためのアセスメント、患者の夢や希望、そしてストレングスを用いた看護援助計画の立案を行う能力を習得する。
また、精神の健康障害をもつ人との治療的関係を築くための必要な援助を修得し、その人らしく地域で生活できるためのリカバリーを大切にした支援の在り方について理解する。

学修の到達目標

1. 発達段階を踏まえた対象者のアセスメントができる。
2. 精神症状が日常生活に与える影響についてアセスメントができる。
3. オレム・アンダーウッド理論に基づいた看護展開が説明できる。
4. 精神科におけるリカバリーのあり方について説明できる
5. 精神疾患およびその疾患を有する患者への看護について説明できる。
6. プロセスレコードを通して自分の言動を考察し、コミュニケーション能力の向上を図ることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	オレム・アンダーウッド理論 / 普遍的セルフケア要素の視点とアセスメントの考え方	③	三品	講義	教科書②p234-243を読み、オレム・アンダーウッドモデルと普遍的セルフケア要素を理解すること。（60分）	オレム・アンダーウッド理論とセルフケア要素について復習すること。（教科書②p234-243、授業資料）（120分）
2	リカバリーのためのストレングスモデル	④	村上	講義	精神看護活動論Ⅰのリカバリーに関連する資料および教科書を読み復習すること。（60分）	講義で教授した内容を国試過去問題も用いながら復習すること。（120分）
3	統合失調症　シミュレーション演習①	⑤	三品	講義演習	統合失調症に関連する内容（教科書②p71-76）を読み、復習すること。（60分）	講義で教授した統合失調症の看護について復習すること。（60分）
4	統合失調症　シミュレーション演習②	⑤	出口	講義演習	統合失調症に関連する授業プリントを読み、復習すること。（60分）	講義で教授した統合失調症の看護について復習すること。（60分）
5	プロセスレコードを用いた自己分析（1）	⑥	出口	講義演習	教科書②p212-219、精神看護活動論Ⅰ授業資料を用いてプロセスレコードの書き方を理解しておくこと。（60分）	授業で作成したプロセスレコードを完成させて提出する。（60分）
6	プロセスレコードを用いた自己分析（2）	⑥	三品	演習		レポートの加筆修正（60分）
7	統合失調症患者の看護過程展開（1） 発達の特性についての解説	① ② ③ ④	三品	講義演習	発達の特性についての分析をしてくること。（120分）	レポートの加筆修正（60分）
8	統合失調症患者の看護過程展開（2） 疾病の特性についての解説	① ② ③ ④	三品	講義演習	疾患の特性についての分析をしてくること。（120分）	レポートの加筆修正（60分）
9	統合失調症患者の看護過程展開（3） セルフケア要素 各項目の解説	① ② ③ ④	三品	講義演習	オレム・アンダーウッド理論を用いて情報整理・分析をしてくること。（120分）	レポートの加筆修正（60分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	統合失調症患者の看護過程展開（4） ストレングモデルを用いた看護展開の解説	① ② ③ ④	三品	講義 演習	ストレングスモデルを用いて普遍的セルフケア要素の査定と情報の統合、看護計画を立案してくること。（120分）	レポートの加筆修正（60分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法
認知領域（知識）：　最終試験で評価する。（60％） 精神運動・情意領域（技術・態度）：　レポート・態度で評価する。（40％）

使用教科書
新体系　看護学全書　精神看護学1　精神看護学概論・精神保健 / 岩崎弥生ほか.--第5版--メヂカルフレンド社, 2019年, 978-4839233631 新体系　看護学全書　精神看護学2　精神障害をもつ人の看護 / 岩崎弥生ほか.--第5版--メヂカルフレンド社, 2019年, 978-4839233648 精神医学ハンドブック－医学・保健・福祉の基礎知識 / 山下格.--第7版--日本評論社, 2010年, 978-4535983335

参考図書
・萱間真美：リカバリー・退院支援・地域連携のためのストレングスモデル活用術,医学書院,2016年,978-4260027984. ・萱間真美：パーフェクト臨床実習ガイド 精神看護 第2版, 照林社, 2015年,978-4796523417. ※他の図書は授業内で紹介する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	・授業終了時に授業全体を振り返り、感想や考えたこと、質問等を「レスポンスカード」に記載して提出してもらう。質問の内容は次回の授業で説明する。
備考	・出席確認は、「レスポンスカード」にて行う。レスポンスカードの代筆や途中退室は、欠席扱いとする。 ・授業中に携帯電話に触れる行為や飲食、他の学生に迷惑をかけるような行為を見かけた場合は、退室を命じ、かつ欠席扱いとする。

授業科目名		担当教員	
精神看護学実習		三品　弘司・他　(代表教員　三品　弘司)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	2単位(90時間)	実習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ (2) (3) (4) の達成に寄与している。		三品弘司（看護師）	

授業概要
精神疾患によって、日常生活や対人関係に困難をきたしている対象を受け持ち、オレム・アンダーウッド理論を用いて看護過程を展開していく。対象者との関わりを通して対象・自己理解を深め、その人らしい生活が送れるための援助方法や社会復帰に向けての働きかけについて学び、精神看護の役割および機能を理解する。

学修の到達目標
①精神健康上の問題が、対象の身体・行動・対人関係にどのように表れているのか状況理解を深める。その理解に基づいて、対象者の抱えている課題や問題の解決に向けた個別性のある看護を実践することができる。 ②精神に障害を持つ人への治療の実際と治療上必要な看護の実際を説明できる。 ③対象者への関わりを通して、自己の関わりを振り返り、援助技術としてのコミュニケーションのあり方を述べることができる。 ④地域における精神障害者の生活の自立や社会参加を支援するための方法について学び、看護職に求められる役割と援助方法について説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	Ⅰ．実習施設				（1）以下の疾患の理解 ①統合失調症（急性期、慢性期）	実習記録をまとめること
	岐阜大学医学部附属病院、黒野病院、のぞみの丘ホスピタル				②気分〔感情〕障害（双極性障害〔躁うつ病〕、単極性障害〔うつ病〕）	カンファレンスの準備
	Ⅱ．実習方法				③摂食障害（神経性やせ症、神経性過食症）　④境界性パーソナリティ障害	
	1.学生40名を1グループ3～4名で編成し、3医療機関のいずれかの精神科病棟で2週間実習を行う。	① ② ③ ④	三品	実習	（2）電気けいれん療法（ＥＣＴ） ※修正型電気けいれん療法（m-ＥＣＴ）も調べる	
	2.実習についてオリエンテーション（施設などの概要、諸注意、事前学習等）を受ける。	① ② ③ ④	三品	実習	（3）精神保健福祉法（①入院形態、②精神保健指定医、③特定医師、④隔離・身体拘束、	
	3.事前学習は、①精神障害と法制度、②主な精神疾患の治療と看護、③地域で精神障害者を支援するための制度について紙面にて課題の提示を行う。	① ② ③ ④	三品	実習	⑤精神障害者保健福祉手帳制度、⑥通信・面会の自由、	
	4.対象者を学生１～２名で受け持ち、対象者の現在の心理状態や日常生活について関心を持ち、				⑦守秘義務、⑧退院請求と処遇改善を求める権利	
	対象者と関わる中で捉えた事柄について、実習指導者や教員の助言を受けながら、対象者の症状やリカバリー、ストレングスを理解する。	① ② ③ ④	三品	実習	（4）精神科デイケア	
	5.学生は、実習病棟の特徴を理解し、対象者のニーズに即した看護過程（ケアプランに基づく）の展開やレクリエーション活動を実施する。	① ② ③ ④	三品	実習	（5）障害者総合支援法のサービス事業 ①地域活動支援センター	

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	6.対象者への関わりを通して、自己の関わりをプロセスレコードを使用しながら振り返る。	① ② ③ ④	三品	実習	②自立訓練（生活訓練）の「宿泊型」「通所型」	
	7.精神障害者が社会復帰するための社会資源や看護の役割・援助を実際に見学し、理解する。	① ② ③ ④	三品	実習		
	8.学生は、適時、各実習場所でカンファレンスを行う。内容は、教員、実習指導者とともに対象の理解、関わり方などについて行う。	① ② ③ ④	三品	実習		
	9.臨地実習最終日は、実習指導者、教員とともにまとめの会で２週間の実習の学びについて振り返る。	① ② ③ ④	三品	実習		
	10.学生は、学内でグループ討議、発表、まとめを行い、実習目標に対する達成状況や学びを共有し、レポートにまとめ、提出する。	① ② ③ ④	三品	実習		
	詳細は、実習オリエンテーションで説明します					

評価基準・評価方法

目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。

使用教科書

新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 / 岩崎弥生他.--第5版--メヂカルフレンド社, 2019年, 978-4839233631
体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護 / 岩崎弥生他.--第5版--メヂカルフレンド社, 2019年, 978-4839233648
精神医学ハンドブック－医学・保健・福祉の基礎知識 / 山下格.--第7版--日本評論社, 2010年, 978-4535983335

参考図書

・萱間真美：精神看護第２版（パーフェクト臨床実習ガイド）,照林社,2015年.
・長谷川雅美：自己理解・対象理解を深めるプロセスレコード－プロセスレコードが書ける、読める、評価できる本 第２版,日総研,2017年.
・田中美恵子編著：精神看護学 学生-患者のストーリーで綴る実習展開 第2版,医歯薬出版株式会社,2015年.
・山本勝則他：看護実践のための根拠がわかる精神看護技術 第2版,メヂカルフレンド社,2015年.

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	分からないことがあれば、担当教員もしくは臨地実習指導者に聞いてください。その都度、対応します。
備考	履修前提条件：【看護の原理と基礎】全科目と精神看護学概論および精神看護活動論Ⅰの単位を修得済みであること。また、精神看護活動論Ⅱを履修登録済みであること。

授業科目名		担当教員	
課題研究事前演習		熊田　ますみ・他　(代表教員　熊田　ますみ)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	1単位(15時間)	講義･演習 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		熊田ますみ（看護師）皮野さよみ（助産師・看護師）眞田正世（看護師）三品弘司（保健師・看護師）中斎二三博（司書）	

授 業 概 要
課題研究事前演習は、看護研究を行うための研究の目的・目標及びプロセスを学び、看護領域における研究の概要と研究の方法・看護研究を実践できる基礎的能力を養う。

学 修 の 到 達 目 標
①看護領域における研究の目的・目標・倫理方法・考察を説明できる。 ②文献検索をして、研究課題を見つけることができる。 ④文献リスト・文献カードの作成ができる

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	看護研究とは何か、看護研究の手順	①	眞田	講義	領域別実習で興味や関心をもった内容についてまとめる120分	講義内容を振り返り、研究テーマ(案)についてまとめる120分
2	看護研究のクリティーク	① ②	眞田	講義	テキストの該当箇所を熟読する120分	講義内容を振り返り、看護研究の手順をまとめる120分
3	研究の方法（質的研究・量的研究）	①	熊田	講義	テキストの該当箇所を熟読する120分	講義資料を振り返り、質的・量的研究の違いをまとめる120分
4	研究の方法（看護研究計画書作成、看護研究の倫理的問題）	①	皮野	講義	テキストの該当箇所を熟読する120分	研究計画書の作成及び倫理的問題についてまとめる120分
5	研究の方法（研究のまとめと研究発表）	①	皮野	講義	テキストの該当箇所を熟読する120分	研究発表の方法についてまとめる120分
6	文献検索の方法	③	中斎	演習	自己の研究テーマ（案）に関するキーワードを3つ考える30分	自己の研究テーマ（案）に関する文献を１つ探す150分
7	文献検索	③	三品	講義 演習	自己の研究テーマ（案）に関する文献を2つ探す120分	自己の研究テーマ（案）に関する文献を探し、文献リストを作成する。
8	文献リスト・文献カード作成	③	三品 他	演習	１文献について文献カードを作成する120分	文献リストを作成し提出する。文献カード1文献のみ作成し提出する180分

評価基準・評価方法
文献カード（50%）　文献リスト（40%）　演習への参加態度（10%）にて評価する

使用教科書
基本がわかる 看護研究ビギナーズNOTE / 古橋洋子.--学研メディカル秀潤社, 2011年, ISBN978-4-7809-1038-4

参考図書
黒田裕子：黒田裕子の看護研究Ｓｔｅｐ by Step　第3版、学研 横山美江：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方　看護研究のエキスパートをめざして、医歯薬出版 竹内登美子編：臨床看護研究サクセスマニュアル　ナース専科ＢＯＯＫＳ、アンフェミア 川口孝泰：看護研究ガイドマップ、医学書院

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	第1講から5講においては配布資料と教科書を対比させる。質問等に対しては次回の講義で対応する。
備考	専門分野の教員が、講義と演習形式で指導する。講義の進行上、授業内容・担当者が変更することがある。

授業科目名		担当教員	
課題研究		熊田　ますみ・他　(代表教員　熊田　ますみ)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 後学期	1単位(15時間)	演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		熊田ますみ（看護師）皮野さよみ（助産師・看護師）眞田正世（看護師）三品弘司（保健師・看護師）他	

授業概要

課題研究事前演習を踏まえ、それまでに履修した授業科目や実習から各人が関心のあるテーマを設定し、研究計画書を作成する。文献検索、論文収集、クリティークを主体的に進め、研究計画書を作成することで科学的な思考で看護を追求する姿勢を養う。

学修の到達目標

①必要な文献の収集ができる。
②文献学習を通して、研究デザインや倫理・概念枠組み・データの収集・測定用具・分析方法・分析結果の解釈について説明できる。
③研究課題の選択や吟味の方法を説明できる。
④研究計画書の作成ができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	研究テーマの絞り込み	① ②	熊田 皮野 眞田 三品 他	演習	文献検討を見直して自分が興味をもった内容をまとめる 120分	指導を受けて研究テーマを絞り込む 120分
2	研究計画書の作成（研究動機の明確化）	① ②	熊田 皮野 眞田 三品 他	演習	研究テーマを絞りこみまとめ提出する 120 分	研究動機を明確にして文章化する120分
3	研究計画書の作成（研究目的）	① ② ③	熊田 皮野 眞田 三品 他	演習	研究目的をまとめる 120分	指導を受けて研究目的を修正する120分
4	研究計画書の作成（概念枠組み）	① ②	熊田 皮野 眞田 三品 他	演習	概念枠組みをまとめる120分	指導を受けて概念枠組みを修正する 120分
5	研究計画書の作成（倫理的配慮）	③ ④	熊田 皮野 眞田 三品 他	演習	自己の研究における倫理的配慮をまとめる120分	指導を受けて倫理的配慮の修正する 120分
6	研究計画書の作成（研究方法）	① ② ③	熊田 皮野 眞田 三品 他	演習	研究方法をまとめる 120分	指導を受けて研究方法を修正する120分
7	研究計画書の作成（研究方法）	① ② ③ ③	熊田 皮野 眞田 三品 他	演習	指導を受けて研究方法をまとめる120分	指導を受けて研究方法を修正する120分
8	研究計画書の作成（スケジュール）	③ ④	熊田 皮野 眞田 三品 他	演習	研究計画書を作成する120分	研究計画書を完成して提出する120分
	研究計画書提出					

評価基準・評価方法
研究計画書（90%）　取り組み（10%）にて評価する。

使用教科書
基本がわかる 看護研究ビギナーズNOTE / 古橋洋子.--学研メディカル秀潤社, 2011年, ISBN978-4-7809-1038-4

参考図書
黒田裕子：黒田裕子の看護研究Ｓｔｅｐ by Step　第3版、学研 横山美江：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方　看護研究のエキスパートをめざして、医歯薬出版 竹内登美子編：臨床看護研究サクセスマニュアル　ナース専科ＢＯＯＫＳ、アンフェミア 川口孝泰：看護研究ガイドマップ、医学書院

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	課題内容は確認し各学生にﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸする。また、グループ間で検討し内容を深める。
備考	学生を6～8名のグループに分け、教員がゼミナール形式で指導する。

授業科目名		担当教員	
課題研究		熊田　ますみ・皮野　さよみ・眞田　正世・三品　弘司　(代表教員　熊田　ますみ)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	1単位(15時間)	演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		熊田ますみ（看護師）皮野さよみ（助産師・看護師）眞田正世（看護師）　三品弘司（保健師・看護師）中斎二三博（司書）	

授業概要
看護研究を行うための研究の目的・目標及びプロセスを学び、看護領域における研究の概要と研究の方法・看護研究を実践できる基礎的能力を養う。

学修の到達目標
①看護領域における研究の目的・目標・研究倫理・方法を説明できる。 ②文献検索をして、研究課題を見つけることができる。 ③文献リスト・文献カードの作成ができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	看護研究とは何か、看護研究の手順	①	眞田	講義	領域別実習で興味や関心をもった内容についてまとめる120分	講義内容を振り返り、研究テーマ（案）についてまとめる120分
2	看護研究のクリティーク	① ②	眞田	講義	テキストの該当箇所を熟読する120分	講義内容を振り返り、看護研究の手順をまとめる120分
3	研究方法（質的研究・量的研究）	①	熊田	講義	テキストの該当箇所を熟読する120分	講義資料を振り返り、質的・量的研究の違いをまとめる120分
4	研究方法（看護研究計画書作成、看護研究の倫理的問題）	①	皮野	講義	テキストの該当箇所を熟読する120分	研究計画書の作成及び倫理的問題についてまとめる120分
5	研究方法（研究のまとめと研究発表）	①	皮野	講義	テキストの該当箇所を熟読する120分	研究発表の方法についてまとめる120分
6	文献検索の方法	②	中斎	演習	自己の研究テーマ（案）に関するキーワードを３つ考える30分	自己のテータ（案）に関する文献を１つ探す150分
7	文献検索	③	三品	講義 演習	自己の研究テーマに（案）に関する文献を２つ探す120分	自己の研究テーマ（案）に関する文献を探し、文献リストを作成する120分
8	文献リスト・文献カード作成	③	三品 他	演習	１文献について文献カードを作成する120分	文献リストを作成し提出する、文献カード１文献のみ作成し提出する180分
	文献カード・文献リスト提出					

評価基準・評価方法
文献カード（50%）　文献リスト（40%）演習への参加態度（10%）にて評価する。

使用教科書
基本がわかる 看護研究ビギナーズNOTE / 古橋洋子.--学研メディカル秀潤社, 2011年, ISBN978-4-7809-1038-4

参考図書
黒田裕子：黒田裕子の看護研究Ｓｔｅｐ by Step　第3版、学研 横山美江：よくわかる質的研究の進め方・まとめ方　看護研究のエキスパートをめざして、医歯薬出版 竹内登美子編：臨床看護研究サクセスマニュアル　ナース専科ＢＯＯＫＳ、アンフェミア 川口孝泰：看護研究ガイドマップ、医学書院

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	第１講から５講においては配布資料と教科書を対比させる。質問等に対しては次回の講義で対応する。
備考	専門分野の教員が、講義と演習形式で指導する。講義の進行上、授業内容・担当者が変更することがある。

授業科目名		担当教員	
看護学セミナー		熊田　ますみ・他　(代表教員　熊田　ますみ)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 後学期	1単位(30時間)	演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		熊田　ますみ（看護師）　他	

授 業 概 要
これまでの看護学の学習において、各専門領域の主軸となっている学習内容を踏まえ、患者の身体・心理・社会状況においた臨床判断能力を育成することができる。

学 修 の 到 達 目 標
①各領域の看護学の知識を再確認し、知識を定着させることができる 　自己の学習課題を明らかにできる

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	看護学の基盤となる知識	① ②	眞田	講義	専門基礎科目で学習した内容を復習する 30分	講義で使用した資料・教科書を使用し講義内容を復習する 30分
2	基礎看護学	① ②	眞田	講義 演習	基礎看護学で学習した内容を復習する 30分	講義で使用した資料・教科書を使用し講義内容を復習する 30分
3	基礎看護学	① ②	眞田 他	講義 演習	基礎看護学で学習した内容を復習する 30分	講義で使用した資料・教科書を使用し講義内容を復習する 30分
4	基礎看護学	① ②	眞田 他	講義 演習	基礎看護学で学習した内容を復習する 30分	講義で使用した資料・教科書を使用し講義内容を復習する 30分
5	成人看護学	① ②	古田 他	講義 演習	成人看護学で学習した内容を復習する 30分	講義で使用した資料・教科書を使用し講義内容を復習する 30分
6	成人看護学	① ②	古田 他	講義 演習	成人看護学で学習した内容を復習する 30分	講義で使用した資料・教科書を使用し講義内容を復習する 30分
7	成人看護学	① ②	古田 他	講義 演習	成人看護学で学習した内容を復習する 30分	講義で使用した資料・教科書を使用し講義内容を復習する 30分
8	高齢者看護学	① ②	熊田 他	講義 演習	高齢者看護学で学習した内容を復習する 30分	講義で使用した資料・教科書を使用し講義内容を復習する 30分
9	高齢者看護学	① ②	熊田 他	講義 演習	高齢者看護学で学習した内容を復習する 30分	講義で使用した資料・教科書を使用し講義内容を復習する 30分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	高齢者看護学	① ②	熊田 他	講義 演習	高齢者看護学で学習した内容を復習する 30分	講義で使用した資料・教科書を使用し講義内容を復習する 30分
11	小児看護学	① ②	松野 他	講義 演習	小児看護学で学習した内容を復習する 30分	講義で使用した資料・教科書を使用し講義内容を復習する 30分
12	母性看護学	① ②	皮野 他	講義 演習	母性看護学で学習した内容を復習する 30分	講義で使用した資料・教科書を使用し講義内容を復習する 30分
13	精神看護学	① ②	三品 他	講義 演習	精神看護学で学習した内容を復習する 30分	講義で使用した資料・教科書を使用し講義内容を復習する 30分
14	地域・在宅看護論	① ②	熊田 他	講義 演習	地域・在宅看護論で学習した内容を復習する　30分	講義で使用した資料・教科書を使用し講義内容を復習する 30分
15	地域・在宅看護論	① ②	熊田 他	講義 演習	地域・在宅看護論で学習した内容を復習する　30分	教科書を使用し講義内容を復習する 30分
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法
認知領域（知識）：90%　精神運動・情意領域（技術・態度）：10%

使用教科書
各領域で使用した教科書 /

参考図書
各領域で提示された参考書を使用します。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	オムニバス形式のため、各領域担当教員が学習内容に対して振り返りを行います。
備考	学生に質問にその都度応じながら指導を行います。

授業科目名		担当教員	
災害・国際看護論		松田　好美・纐纈　朋弥・杉山　清美・山下　浩司　(代表教員　松田　好美)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 後学期	1単位(30時間)	講義 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		松田好美（看護師）、纐纈朋弥（看護師）、杉山清美（訪問看護認定看護師）、山下浩司（救急看護認定看護師）	

授業概要

大規模地震・洪水等の自然災害や大型交通事故や大火災などの人的災害が人々の健康と生活に及ぼす影響、災害の準備期から中・長期に渡り必要となる看護活動について理解を深める。被災地という特殊な状況下で行われる緊急医療，感染症対策，避難施設の保健対策，精神的ケア等の実例から，災害時における保健活動の概要を理解し，被災者に必要とされる医療・看護の基本的知識・技術を学んでいく。また，私たちが生活している地域にも，いつ災害が降りかかるかわからない状況である。そのため，災害時の自らの生存・生活を整えるための基本的な知識・技術や判断・応用方法も考察する。

学修の到達目標

①災害時の自らの生存・生活を整えるための基本的な知識・技術を理解し、判断・応用を説明できる。
②災害が人々の健康生活に及ぼす影響を述べることができる。
③災害急性期における活動に必要な知識、判断、技術、行動を理解し、関連して述べることができる。
④平常期から災害時期、災害復興期における看護活動について述べることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ガイダンス、災害概論	①	松田			講義内容を振り返る。（50分）
2	災害の分類、災害への備え：貴方はどうしますか（レポート課題の提示）	①	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
3	災害サイクル、災害が人々の健康生活に及ぼす影響	②	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
4	災害時に必要な看護技術：CSCA、トリアージ	③	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
5	病院における災害看護：TTT	③ ④	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
6	災害時に必要な看護技術：二次トリアージ（トリアージの実施）	③	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
7	災害時の倫理的問題・法律問題、国家試験問題について	④	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
8	災害被災者へのメンタルケア、災害援助者のストレスと緩和	④	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
9	避難所、仮設住宅、復旧復興期、平常期における看護	④	纐纈		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	避難所、仮設住宅、復旧復興期、平常期における看護	④	纐纈		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
11	災害時に必要な看護技術：成人への心肺蘇生	③	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
12	災害時に必要な看護技術：成人のALS、小児・乳児の心肺蘇生	③	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
13	災害時に必要な看護技術：演習（成人、乳児への心肺蘇生）3グループに分けて行う	③	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
14	災害発災時のDMAT活動（ドクターヘリ活動を含む）	③	山下		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
15	災害発生地における被災者のケア	④	杉山		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
	定期試験（筆記）。講義、演習の順序は変更する場合がある。					

評価基準・評価方法
最終試験60%，レポート40%（2回）

使用教科書
救急蘇生法の指針2020　市民用・解説編 / 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会監修.--改訂6版　--へるす出版，2021年，978-4-86719-026-5 看護の統合と実践(3)：災害看護 / 酒井明子　他.--第5版--MCメディカ出版，2022年，978-4-8404-7545-7

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	レポート１：レポート提出後、課題について講義時間内に説明する。 レポート２：レポート課題は授業時間内に説明済みであり、学生の質問等に対しては掲示文章によりフィードバックする。
備考	授業開始までに。消防署などで一般市民用の心肺蘇生の講習を受ける(3〜4時間)。レポート（評価20%）する。 演習・講習に関しては、新型コロナウイルスの感染状況によっては中止し、内容・方法を変更する可能性がある。 授業時に質問調査紙を配付し、授業最後に回収する。資料にない内容であれば、次回の授業開始時に回答する。

授業科目名		担当教員	
総合判断育成演習		熊田　ますみ・他　(代表教員　熊田　ますみ)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 後学期	2単位(30時間)	講義･演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		熊田ますみ（看護師）、皮野さよみ（助産師・看護師）、眞田正世（看護師、三品弘司（保健師・看護師）他	

授 業 概 要
看護師として実践チームの中で機能するために、看護管理・チーム医療の基礎を学び、複数の看護の対象の日常生活援助・診療の補助行為等実際の場面を想定して演習を行い、対象及び場面に応じた判断力・看護技術を学ぶ。

学 修 の 到 達 目 標
①医療チームの一員として、看護におけるマネジメントの視点を説明できる。 ②チーム医療に関する連携協働を学び、多重課題に対する優先順位を説明できる。 ③医療安全における法律・指針・方針及び医療安全体制と医療安全活動を説明できる。 ④「実習における卒業時到達度Ⅰ」の項目を事例を用いて情報をアセスメントして立案した計画に基づいて実施できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	看護管理（組織の一員としての役割と行動・リーダーシップとフォローワーシップ・円滑な組織運営に必要な対人力）	①	皮野 長屋	講義	テキストの該当箇所を読む　120分	配布資料・講義内容を振り返る　120分
2	看護管理（看護管理とは・看護管理システム・看護部門と他部門との連携）	①	山内 長屋	講義	テキストの該当箇所を読む　120分	配布資料・講義内容を振り返る　120分
3	看護管理（人材資源の管理・看護ケアマネジメントとは・看護サービス管理のマネジメントとは）	①	山内 長屋	講義	テキストの該当箇所を読む 120分	課題レポートを作成し提出する　120分
4	チーム医療（チーム医療に関する基本的な知識・一日の業務の組みたて方）	②	熊田 松野	講義	テキストの該当箇所を読む120分	課題に取り組み提出する　120分
5	チーム医療（多重課題に対する優先順位のつけ方）	②	熊田 松野	講義	事例を考察してまとめる　120分	多重課題の課題レポートを作成し提出する　120分
6	チーム医療（多重課題のシュミレーショントレーニング）	②	古田 松野 清水	演習	事前資料を読み、対象をアセスメントし援助の方向性をまとめる　120分	多重課題の課題レポートを作成し提出する　120分
7	チーム医療（事例を理解し、患者に必要な看護ケア、留意点を検討して、「一日の業務計画」を立案する）	②	古田 松野 清水	演習	事例を通して事例毎の留意点、優先順位をまとめる　120分	グループワークを実施して「一日の業務計画」を提出する 120分
8	医療組織における安全指針・方針及び医療安全体制	③	眞田 林	講義	テキストの医療安全における法律・指針・方針及び医療安全体制を読んでくる 120分	医療安全における指針・方針及び医療安全体制の重点をまとめ提出する　120分
9	組織における医療安全指針・方針及び医療安全体制	③	眞田 岩瀬	講義	組織における医療安全における指針・方針及び医療安全体制についてテキストを読んでくる　120分	組織における医療安全指針・方針及び医療安全体制についてまとめ提出する 120分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	医療安全活動：接遇・クレーム予防・５S・KYT	③	眞田 岩瀬	講義 演習	KYTについて予習する120分	接遇・クレーム予防・５S他の医療安全活動についてまとめ提出する　120分
11	統合的な看護技術の実施（事例に応じた治療・処置にその他に対する情報収集・留意点に基づいた看護技術の実施）	④	三口 品森 出岡 岡輪 佐木 々上 村本 坂中 田	演習	事例に必要とされる援助技術の計画を作成する120分	実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめる 120分
12	統合的な看護技術の実施（事例に応じた治療・処置その他に対する情報収集・留意点に基づいた看護技術の実施）	④	三口 品森 出岡 岡輪 佐木 々上 村本 坂中 田	演習	事例に必要とされる援助技術の計画を作成する120分	実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめる 120分
13	統合的な看護技術の実施（事例に応じた治療・処置その他に対する情報収集・留意点に基づいた看護技術の実施）	④	三口 品森 出岡 岡輪 佐木 々上 村本 坂中 田	演習	事例に必要とされる援助技術の計画を作成する120分	実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめる 120分
14	統合的な看護技術の実施（事例に応じた治療・処置その他に対する情報収集・留意点に基づいた看護技術の実施）	④	三口 品森 出岡 岡輪 佐木 々上 村本 坂中 田	演習	事例に必要とされる援助技術の計画を作成する120分	実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめる 120分
15	統合的な看護技術の実施（事例に応じた治療・処置にその他に対する情報収集・留意点に基づいた看護技術の実施）	④	三口 品森 出岡 岡輪 佐木 々上 村本 坂中 田	演習	事例に必要とされる援助技術の計画を作成する120分	実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめ提出する　120分

評価基準・評価方法

看護管理（15%）　チーム医療（30%）　医療安全（15%）　看護技術（40%）

使用教科書

看護の統合と実践①　看護実践マネジメント／医療安全 / 高橋則子他.--小澤かおり--メジカルフレンド社, ISBN978-4-8392-3374-7

参考図書

必要時、参考文献等を紹介する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	演習での発表内容や課題については講評し、フィードバックする。
備考	グループワーク等については、主体的に参加すること。 講義の進行上、担当者・内容を変更することがある。

授業科目名		担当教員	
看護の統合実習		熊田　ますみ・他　(代表教員　熊田　ますみ)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 後学期	3単位(90時間)	実習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		熊田ますみ（看護師）他	

授業概要
各領域で学んだ知識・技術をもとに、医療チームの一員であることを認識し、自己の立場での責任と役割を果たす看護師の役割について学ぶ。さらに看護の継続性を理解し、患者に応じた看護のあり方を学ぶ。

学修の到達目標
①看護師長、チームリーダー、チームメンバーの役割と業務や他部門との調整や連携の実際と看護管理の在り方を説明できる。 ②複数の受け持ち患者の状態を把握し、多重課題に対し優先順位を考えながら安全・安楽に看護を実施することができる。 ③患者の24時間の生活状況を知り、継続看護の在り方を説明できる。 ④看護の統合実習で学んだことを通して、看護師としての自己の目標や課題を明確にし表現できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	Ⅰ．実習施設					
	平野総合病院　各務原リハビリテーション病院　松波総合病院　揖斐厚生病院　岩砂病院・岩砂マタニティ　岐阜清流病院					
	Ⅱ．実習方法					
	1.学生は、1グループ4～6名で編成し、病院のいづれかの病棟で2週間実習を行う。					
	2.実習についてのオリエンテーション（施設の概要、諸注意、事前学習等）を受ける。					
	3.看護師長、チームリーダー、チームメンバーと行動を共にし、見学を通して各々の役割と業務を知る。また、多職種連携についても知る。				視聴覚教材や教科書より実習に活かせるように学習する。 ・看護管理 ・チームナーシング ・多職種連携	実習記録をまとめる
	4.学生は複数の患者を受け持ち、優先順位を考え看護師と共にして看護を実施する。				・多重課題への対応	看護展開にあたり必要な学習をする。
	5.夕方から早朝の時間帯の患者の様子や看護の実際について説明を受け、対象の状況及び看護師の動きを知る。また、継続看護について考察する。				・継続看護	
	6.カンファレンスを実施し、実習目標が到達できるように問題の解決や学習内容の共有をする。					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	7. 実習終了後、実習目標に対するまとめの学習を行い、達成状況や自己の課題をレポートにまとめる。					
	8. 自己の看護観について考え、レポートにまとめる。					

評価基準・評価方法
目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。

使用教科書

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	実習中その都度、記録へのコメントを残し、口頭でも質問し学習を活かした看護が行えるよう指導する。実習最後のまとめ時に教員より学習内容に対してコメントする。
備考	履修前提条件：【看護の原理と基礎】【ライフサイクル別看護】の全科目、安全管理論、成人看護学実習、成人・高齢者看護学実習、小児看護学実習、母性看護学実習・精神看護学実習、地域・在宅看護論実習の単位を修得済みであること。総合判断育成演習、災害・国際看護論を履修中であること。

授業科目名		担当教員	
在宅看護活動論Ⅱ（発展）		越納　美和	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	1単位(45時間)	講義･演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ (2) (3) (4) の達成に寄与している。		越納美和（看護師）	

授 業 概 要
疾病や障害を持ちながら在宅で生活、療養する人とその家族を対象とし、各人のニーズに基づく生活行動の支援方法、及び社会資源の活用方法を理解し、対象に必要な在宅看護の展開方法を学習する。また、在宅看護における信頼関係形成の重要性を理解する。更に、在宅療養に必要な社会資源とその活用方法を学習する。

学 修 の 到 達 目 標
①在宅でのコミュニケーション・面接技術や、訪問時のマナーについて説明できる。 ②在宅看護論実習における学生の動き方や、実習で学ぶ内容を説明できる。 ③在宅看護論実習における情報収集の視点や、在宅看護という特性を考えた看護過程展開の根拠を説明できる。 ④在宅看護実習における患者と家族のQOLや自立支援に向けた社会資源の根拠について説明できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	在宅ケアの看護過程の展開とケアマネジメント	① ③ ④	越納	講義	ケアマネジメントと社会資源の活用について調べる（120分）	授業に関する学びと感想をまとめる（120分）
2	脳梗塞後後遺症の事例–介護保険による	② ③	越納	講義	介護保険及び患者の病態、治療、処置、看護援助に関連した学習（120分）	授業に関する学びと感想をまとめる（120分）
3	中途障害による脊髄損傷療養者の事例	② ③	越納	講義	医療保険、介護保険及び患者の病態、治療、処置、看護援助に関連した学習（120分）	授業に関する学びと感想をまとめる（120分）
4	重度心身障害をもちながら地域で生活する小児	② ③	越納	演習	障害者総合支援法、病態、治療、処置、看護援助に関連した学習（120分）	授業に関する学びと感想をまとめる（120分）
5	難病でをもちながら地域で生活する人のケアマネジメント	② ③	越納	演習	障害者総合支援法、病態、治療、処置、看護援助に関連した学習（120分）	授業に関する学びと感想をまとめる（120分）
6	在宅療養を支える訪問看護（訪問看護の特徴と訪問看護ステーションの役割）	② ③	福井	講義	訪問看護について調べる（120分）	授業に関する学びと感想をまとめる（120分）
7	療養の場の移行に伴う看護（退院支援・退院調調整）	② ③	鈴木	演習	入退院支援について調べる（120分）	授業に関する学びと感想をまとめる（120分）
8	訪問看護時のマナーと倫理	① ②	越納	講義	訪問看護時のマナーについて調べる（120分）	授業に関する学びと感想をまとめる（120分）
	定期試験（筆記）					

評価基準・評価方法
小テスト（10%）、課題レポート(40%)・定期試験（50%）

使用教科書
ナーシンググラフィカ２１　在宅看護論①－地域療養を支えるケア / 臺　有桂他.--第6版--MCメディカ出版, 2021年, 978-4-8404-6520-5 ナーシンググラフィカ２１　在宅看護論②－地域療養を支える技術　　/ 臺　有桂他.--第1版--MCメディカ出版, 2018年, 978-4-8404-6134-4

参考図書
その他は必要に応じて紹介する

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。各講師の質問等については、次の講義かクラスルームを通して説明し、フィードバックします。課題レポートは採点して返却します。 課題レポートの内容が合格点に満たず不十分な場合はコメントをつけて返却し再提出を求めることがあります。
備考	講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。 質問等については、次の講義等で説明し、フィードバックします。

授業科目名		担当教員	
在宅看護論実習		越納　美和・松野　ゆかり・他　(代表教員　越納　美和)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 前学期	2単位(90時間)	実習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		越納美和（看護師）、松野ゆかり（看護師）他	

授 業 概 要

地域で療養する人々やその家族を理解し、その人らしい在宅生活の継続に向けたケアの実際を学ぶ。医療施設のみにとどまらず地域で生活する多様な人々を対象とした看護の他職種や患者・家族に対する役割を学び、さらに地域包括システム全体の理解を深め、保健医療と看護について看護実践を通して包括的な視野を得る。

学 修 の 到 達 目 標

①在宅で療養生活を送る療養者とその家族の特徴を説明できる。
②生活の場であることを理解し、対象者が望む生活を考慮した看護について支援計画を立案することができる。
③在宅療養者支援に必要な社会資源の種類や法律・制度を理解し、活用方法を説明できる。
④在宅療養に関わる多職種の役割と連携・調整方法について理解し、現状の課題を説明することができる。
⑤在宅療養や地域での人々の暮らしを包括的に支援するしくみを説明することができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	Ⅰ．実習施設					
	訪問看護ステーション実習：いび訪問看護ステーション、まつなみ訪問看護ステーション、岩砂訪問看護ステーション、訪問看護ステーション和光、訪問看護ステーション長良、訪問看護ステーション北方、訪問看護ステーション平野、白百合訪問看護ステーションなど					
	入退院支援：揖斐厚生病院：地域医療福祉連携センター、松波総合病院：入退院センター、岩砂病院：地域連携室、、山内ホスピタル：医療サービス推進室					
	地域包括支援センター：岐阜市地域包括支援センター長良，岐阜市地域包括支援センター岐北					
	居宅介護支援センター：在宅介護支援センター平野、					
	Ⅱ．実習方法					
	１．学生を１２～１４名ずつの６グループに分け1班とする。在宅看護論実習においては、実習施設での受け入れ人数が、1～3名であるため、１班はおよそ１０施設に分かれて実習を行う。					
	２．実習についてのオリエンテーション（施設の概要、諸注意、事前学習など）を受ける。					
	３．施設の概要や利用者の特徴について紹介を受け、看護過程展開に生かす。					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	４．2週間のうち1週間を訪問看護ステーション、1週間のうち２日間を退院調整部門または在宅支援施設などの施設で実習を行い、学内日に学びを発表する。					
	５．訪問看護ステーションでは、対象者1名を受け持ち、生活の場で対象の望む生活を考慮した看護を考える。					
	６．受け持ち以外の対象者についても、1日1～2件程度同行訪問する。					
	７．実習中に、ケアマネージャー、ホームヘルパー、医師、理学療法士、作業療法士などとの多職種との連携場面を学習する。					
	８．在宅療養を支えたり、在宅生活に繋ぐ施設では、その役割や連携方法を学ぶ。					
	９．実習期間内で指導者と２回～３回程度カンファレンスを実施する。					
	１０．学内日に実習内容の検討、発表、まとめを行い、実習目標に対する達成状況や各施設での学びを共有する。					

評価基準・評価方法
実習目標の到達度、実習態度、実習記録など実習全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。 実習態度・実習記録・課題レポート60%、学内日でのグループワークの取り組み態度、課題レポート、発表40%

使用教科書
ナーシンググラフィカ２１　在宅看護論①－地域療養を支えるケア / 臺　有桂他.--第6版--MCメディカ出版, 2021年, ISBN978-4-8404-6520-5 ナーシンググラフィカ２１　在宅看護論②－地域療養を支える技術 / 臺　有桂他.--第1版--MCメディカ出版, 2021年, ISBN978-4-8404-6134-4

参考図書
河野 あゆみ (著)：強みと弱みからみた 在宅看護過程: +総合的機能関連図　医学書院

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	講義時間中や終了後に適宜質問を受け付ける。各講師の質問等については、次の講義かクラスルームを通して説明し、フィードバックします。課題レポートの内容が不十分な場合はコメントをつけて返却し再提出を求めることがあります。
備考	履修前提条件：【看護の原理と基礎】全科目と在宅看護概論および在宅看護活動論Ⅰの単位を修得済みであること。また、在宅看護活動論Ⅱを履修登録済みであること。

授業科目名		担当教員	
災害看護論		松田　好美・纐纈　朋弥・杉山　清美・山下　浩司　(代表教員　松田　好美)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 後学期	1単位(30時間)	講義 ｵﾑﾆﾊﾞｽ
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		松田好美（看護師）、纐纈朋弥（看護師）、杉山清美（訪問看護認定看護師）、山下浩司（救急看護認定看護師）	

授業概要

大規模地震・洪水等の自然災害や大型交通事故や大火災などの人的災害が人々の健康と生活に及ぼす影響、災害の準備期から中・長期に渡り必要となる看護活動について理解を深める。被災地という特殊な状況下で行われる緊急医療，感染症対策，避難施設の保健対策，精神的ケア等の実例から，災害時における保健活動の概要を理解し，被災者に必要とされる医療・看護の基本的知識・技術を学んでいく。また，私たちが生活している地域にも，いつ災害が降りかかるかわからない状況である。そのため，災害時の自らの生存・生活を整えるための基本的な知識・技術や判断・応用方法も考察する。

学修の到達目標

①災害時の自らの生存・生活を整えるための基本的な知識・技術を理解し、判断・応用を説明できる。
②災害が人々の健康生活に及ぼす影響を述べることができる。
③災害急性期における活動に必要な知識、判断、技術、行動を理解し、関連して述べることができる。
④平常期から災害時期、災害復興期における看護活動について述べることができる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	ガイダンス、災害概論	①	松田			講義内容を振り返る。（50分）
2	災害の分類、災害への備え：貴方はどうしますか（レポート課題の提示）	①	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
3	災害サイクル、災害が人々の健康生活に及ぼす影響	②	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
4	災害時に必要な看護技術：CSCA、トリアージ	③	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
5	病院における災害看護：TTT	③ ④	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
6	災害時に必要な看護技術：二次トリアージ（トリアージの実施）	③	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
7	災害時の倫理的問題・法律問題、国家試験問題について	④	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
8	災害被災者へのメンタルケア、災害援助者のストレスと緩和	④	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
9	避難所、仮設住宅、復旧復興期、平常期における看護	④	纐纈		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	避難所、仮設住宅、復旧復興期、平常期における看護	④	纐纈		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
11	災害時に必要な看護技術：成人への心肺蘇生	③	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
12	災害時に必要な看護技術：成人のALS、小児・乳児の心肺蘇生	③	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
13	災害時に必要な看護技術：演習（成人、乳児への心肺蘇生）3グループに分けて行う	③	松田		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
14	災害発災時のDMAT活動（ドクターヘリ活動を含む）	③	山下		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
15	災害発生地における被災者のケア	④	杉山		教科書の該当部分や資料を確認する。（20分）	講義内容を振り返る。（50分）
	定期試験（筆記）。講義、演習の順序は変更する場合がある。					

評価基準・評価方法
最終試験60%，レポート40%（2回）

使用教科書
救急蘇生法の指針2020　市民用・解説編 / 日本救急医療財団心肺蘇生法委員会監修.--改訂6版　--へるす出版，2021年，978-4-86719-026-5 看護の統合と実践(3)：災害看護 / 酒井明子　他.--第5版--MCメディカ出版，2022年，978-4-8404-7545-7

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	レポート１：レポート提出後、課題について講義時間内に説明する。 レポート２：レポート課題は授業時間内に説明済みであり、学生の質問等に対しては掲示文章によりフィードバックする。
備考	授業開始までに。消防署などで一般市民用の心肺蘇生の講習を受ける(3〜4時間)。レポート（評価20%）する。 演習・講習に関しては、新型コロナウイルスの感染状況によっては中止し、内容・方法を変更する可能性がある。 授業時に質問調査紙を配付し、授業最後に回収する。資料にない内容であれば、次回の授業開始時に回答する。

授業科目名		担当教員	
総合判断育成演習		熊田　ますみ・皮野　さよみ・山内　久美子・他　(代表教員　熊田　ますみ)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 後学期	2単位(30時間)	講義･演習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		熊田ますみ（看護師）、皮野さよみ（助産師・看護師）、眞田正世（看護師）、三品弘司（保健師・看護師）他	

授 業 概 要
看護師として実践チームの中で機能するために、看護管理・チーム医療の基礎を学び、複数の看護の対象の日常生活援助・　診療の補助行為等実際の場面を想定して演習を行い、対象及び場面に応じた判断力・看護技術を学ぶ。

学 修 の 到 達 目 標
①医療チームの一員として、看護におけるマネジメントの視点を説明できる。 ②チーム医療に関する連携協働を学び、多重課題に対する優先順位を説明できる。 ③医療安全における法律・指針・方針及び医療安全体制と医療安全活動を説明できる。 ④「実習における卒業時到達度Ⅰ」の項目を事例を用いて情報をアセスメントして立案した計画に基づいて実施できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
1	看護管理（組織の一員としての役割と行動・リーダーシップとフォローワーシップ・円滑な組織運営に必要な対人力）	①	皮野 長屋	講義	テキストの該当箇所を読む　120分	配布資料・講義内容を振り返る　120分
2	看護管理（看護管理とは・看護管理システム・看護部門と他部門との連携）	①	山内 長屋	講義	テキストの該当箇所を読む　120分	配布資料・講義内容を振り返る　120分
3	看護管理（人材資源の管理・看護ケアマネジメントとは・看護サービス管理のマネジメントとは）	①	山内 長屋	講義	テキストの該当箇所を読む 120分	課題レポートを作成し提出する　120分
4	チーム医療（チーム医療に関する基本的な知識・一日の業務の組みたて方）	②	熊田 松野	講義	テキストの該当箇所を読む120分	配布資料・講義内容を振り返る　120分
5	チーム医療（多重課題に対する優先順位のつけ方）	②	熊田 松野	講義	事例を考察してをまとめる　120分	多重課題の課題レポートを作成し提出する　120分
6	チーム医療（多重課題のシュミレーショントレーニング）	②	古田 松野 清水	演習	事前資料を読み、対象をアセスメントし援助の方向性をまとめる120分	多重課題の課題レポートを作成し提出する　120分
7	チーム医療（事例を理解し、患者に必要な看護ケア、留意点を検討して、「一日の業務計画」を立案する）	③	古田 松野 清水	演習	事例を通して事例毎の留意点、優先順位をまとめる　120分	グループワークを実施して「一日の業務計画」を提出する 120分
8	医療組織における安全指針・方針及び医療安全体制	③	眞田 林	講義	テキストの医療安全における法律・指針・方針及び医療安全体制を読んでくる 120分	医療安全における指針・方針及び医療安全体制の重点をまとめ提出する　120分
9	組織における医療安全指針・方針及び医療安全体制	③	眞田 岩瀬	講義	組織における医療安全における指針・方針及び医療安全体制についてテキストを読んでくる120分	組織における医療安全指針・方針及び医療安全体制についてまとめ提出する 120分

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
10	医療安全活動：接遇・クレーム予防・５S・KYT	③	眞田 岩瀬	講義 演習	KYTについて予習する120分	接遇・クレーム予防・５S他の医療安全活動についてまとめ提出する120分
11	統合的な看護技術の実施（事例に基づいた治療・処置その他の情報収集・留意点に基づいた看護技術の実施）	④	三品出岡 口森輪 三佐々木 村上 坂本 田中	演習	事例に必要とされる援助技術の計画を作成する120分	実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめる120分
12	統合的な看護技術の実施（事例に基づいた治療・処置その他の情報収集・留意点に基づいた看護技術の実施）	④	三品出岡 口森輪 三佐々木 村上 坂本 田中	演習	事例に必要とされる援助技術の計画を作成する120分	実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめる120分
13	統合的な看護技術の実施（事例に基づいた治療・処置その他の情報収集・留意点に基づいた看護技術の実施）	④	三品出岡 口森輪 三佐々木 村上 坂本 田中	演習	事例に必要とされる援助技術の計画を作成する120分	実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめる120分
14	統合的な看護技術の実施（事例に基づいた治療・処置その他の情報収集・留意点に基づいた看護技術の実施）	④	三品出岡 口森輪 三佐々木 村上 坂本 田中	演習	事例に必要とされる援助技術の計画を作成する120分	実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめる120分
15	統合的な看護技術の実施（事例に基づいた治療・処置その他の情報収集・留意点に基づいた看護技術の実施）	④	三品 口岡 出森輪 三佐々木 村上 坂本 田中	演習	事例に必要とされる援助技術の計画を作成する120分	実施した援助を振り返り、援助のポイントをまとめ提出する120分

評価基準・評価方法

看護管理（15%）　チーム医療（30%）　医療安全（15%）　看護技術（40%）

使用教科書

看護の統合と実践①　看護実践マネジメント／医療安全 / 高橋則子他.--小澤かおり--メジカルフレンド社, ISBN978-4-8392-3374-7

参考図書

必要時、参考文献等を紹介する。

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	演習での発表内容や課題については講評し、フィードバックする。
備考	グループワーク等については、主体的に参加すること。 講義の進行上、担当者・内容を変更することがある。

授業科目名		担当教員	
看護の統合実習		熊田　ますみ・他　(代表教員　熊田　ますみ)	
必修・選択	配当年次	単位数(時間数)	開講形態
必修	3年 後学期	2単位(135時間)	実習
学位授与の方針と授業科目の関連		実務家教員	
全学ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) 看護ﾃﾞｨﾌﾟﾛﾏ･ﾎﾟﾘｼｰ(2) (3) (4) の達成に寄与している。		熊田ますみ（看護師）他	

授業概要
各領域で学んだ知識・技術をもとに、医療チームの一員であることを認識し、自己の立場での責任と役割を果たす看護師の役割について学ぶ。さらに看護の継続性を理解し、患者に応じた看護のあり方を学ぶ。

学修の到達目標
①看護師長、チームリーダー、チームメンバーの役割と業務や他部門との調整や連携の実際と看護管理の在り方を説明できる。 ②複数の受け持ち患者の状態を把握し、多重課題に対し優先順位を考えながら安全・安楽に看護を実施することができる。 ③患者の24時間の生活状況を知り、継続看護の在り方を説明できる。 ④看護の統合実習で学んだことを通して、看護師としての自己の目標や課題を明確にし表現できる。

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	Ⅰ．実習施設					
	平野総合病院　各務原リハビリテーション病院　松波総合病院　揖斐厚生病院　岩砂病院・岩砂マタニティ　岐阜清流病院					
	Ⅱ．実習方法					
	1.学生は、1グループ4～6名で編成し、病院のいづれかの病棟で3週間実習を行う。					
	2.実習についてのオリエンテーション（施設の概要、諸注意、事前学習等）を受ける。					
	3.看護師長、チームリーダー、チームメンバーと行動を共にし、見学を通して各々の役割と業務を知る。また、多職種連携についても知る。				視聴覚教材や教科書より実習に活かせるように学習する。 ・看護管理 ・チームナーシング ・多職種連携	実習記録をまとめる
	4.学生は複数の患者を受け持ち、優先順位を考え看護師と共にして看護を実施する。				・多重課題への対応	看護展開にあたり必要な学習をする
	5.夕方から早朝の時間帯の患者の様子や看護の実際について説明を受け、24時間の対象の状況及び看護師の動きを知る。また、継続看護について考察する。				・継続看護	
	6.カンファレンスを実施し、実習目標が到達できるように問題の解決や学習内容の共有をする。					

回	授業計画	到達目標	担当	形態	事前学習	事後学習
	7. 実習終了後、実習目標に対するまとめの学習を行い、達成状況や自己の課題をレポートにまとめる。					

評価基準・評価方法
目標到達度、実習態度、実習記録など実習状況全体を把握し、本科目評価基準に基づいて評価する。

使用教科書

参考図書

課題(試験やﾚﾎﾟｰﾄ)に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸの方法	実習中その都度、記録へのコメントを残し、口頭でも質問し学習を活かした看護が行えるよう指導する。実習最後のまとめ時に教員より学習内容に対してコメントする。
備考	履修前提条件：【看護の原理と基礎】の全科目、成人看護学実習、成人・高齢者看護学実習Ⅰ・Ⅱ、小児看護学実習、母性看護学・精神看護学実習、地域・在宅看護論実習の単位を修得済みであること。総合判断育成演習を履修中であること。

看護学科　授業担当者索引

･･･あ 行･･･	
足立　哲夫	非常勤講師
安藤　彰浩	非常勤講師
飯沼　温美	非常勤講師
伊藤　薫	非常勤講師
伊原　亮司	非常勤講師
岩瀬　桃子	看護学科講師
遠渡　絹代	非常勤講師
塩谷　滝雄	非常勤講師
大井　一高	非常勤講師
大井　修三	非常勤講師
大江　直行	非常勤講師
大藪　千穂	非常勤講師
岡本　知美	非常勤講師

･･･か 行･･･	
加藤　清人	作業療法専攻教授
亀山　泰永	非常勤講師
粥川　誠至	非常勤講師
河合　克尚	理学療法専攻教授
川崎　友香	非常勤講師
川崎　葉子	非常勤講師
皮野　さよみ	看護学科教授
木林　勉	非常勤講師
紀ノ定　保臣	非常勤講師
久保　和弘	非常勤講師
熊田　ますみ	看護学科教授
藏満　彩結実	非常勤講師
纐纈　朋弥	非常勤講師
神戸　博一	非常勤講師
越納　美和	看護学科准教授
小森　あゆみ	非常勤講師
近藤　富雄	非常勤講師
近藤　直実	顧問
近藤　ひろえ	非常勤講師

･･･さ 行･･･	
坂本　裕子	看護学科助教
佐々木　智恵	看護学科助教
佐竹　裕孝	非常勤講師
眞田　正世	看護学科教授
塩野　美里	非常勤講師
清水　美智子	非常勤講師
清水　ゆかり	看護学科助教
ｼﾞｬﾏﾘ　ﾏﾙｼﾞｬﾝ	非常勤講師
白木　大輔	非常勤講師
杉山　清美	非常勤講師
鈴木　留理子	非常勤講師
鷲見　高光	非常勤講師

･･･た 行･･･	
高井　健太朗	非常勤講師
田中　季果	看護学科助教
塚田　敬義	非常勤講師
塚原　稔世	非常勤講師
出口　睦雄	看護学科講師

･･･な 行･･･	
中川　幸代	非常勤講師
中川　みのり	非常勤講師
中村　琢	非常勤講師
中山　則之	非常勤講師
長屋　江見	看護学科講師
野瀬　早織	非常勤講師

･･･は 行･･･	
橋本　永貢子	非常勤講師
長谷部　武久	理学療法専攻教授
林　将大	非常勤講師
林　宗典	看護学科講師
坂　義人	非常勤講師
平野　聡子	非常勤講師
福井　郁子	非常勤講師
福岡　大輔	非常勤講師
藤兼　大輔	非常勤講師
藤田　浩司	非常勤講師
武内　康雄	学長
古田　信宏	非常勤講師
古田　弥生	看護学科准教授
古林　晃	非常勤講師
細江　英夫	非常勤講師
堀　信宏	理学療法専攻教授

･･･ま 行･･･	
益川　優子	非常勤講師
松井　永子	非常勤講師
松田　好美	非常勤講師
松野　ゆかり	看護学科准教授
三品　弘司	看護学科教授
ﾐﾙﾎﾞﾄﾞ･ｾｲｴﾄﾞ･ﾓﾊﾏﾄﾞ	非常勤講師
三輪　陽子	看護学科講師
武藤　恭昌	非常勤講師
武藤　吉徳	非常勤講師
村上　秀和	看護学科助教
村上　拓紀	非常勤講師
森　敏幸	非常勤講師
森岡　菜穂子	看護学科講師

･･･や 行･･･	
山内　久美子	非常勤講師
山下　浩司	非常勤講師
山田　剛司	非常勤講師
山田　宏尚	非常勤講師
山本　容正	非常勤講師
弓削　繁	非常勤講師

･･･わ 行･･･	
和田　恵子	非常勤講師

HCHS